
新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

camiyu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

【Zコード】

Z9742Z

【作者名】

camiiyu

【あらすじ】

鷺羽さんの実験中に美星さんによる暴走でエヴァの世界に飛ばされた天地君の物語です
新世紀エヴァンゲリオンと天地無用！魍魎鬼のコラボです

受難（前書き）

物語に対する指摘等は受け付けますが、批難等は受け付けません
ご理解の上お読みください

受難

新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

「ある日の鷺羽ちゃんの実験室のこと、
鷺羽さんお手紙が来てますよ、と美星さんが実験室に
来ました、その時天地君はいつものことく、
鷺羽ちゃんの実験に付き合わされていました。」

「せーーーーーつたいあんたはそーにある計器に触づけやだめだよ。

」

と念を押して、手紙を読み始めました。

(またかと天地君はあきらめの境地で
一人の様子を眺めていました。)

(はーーーーーーーーああ)

また何か起こるんじゃないとか、あきらめつつ
心配してたところ、やっぱり何か起こりました
お約束ですね、美星さんはボタンを押しました。

Yの付く竜の落とし子のマークのアニメに
出でくる、三悪人の緑色の服着た方がボタンを押すよつこ。
「よつことな。」

「あ、り、り、り、り、り。」

と実験中の計器が暴走を始めました。

「何やつてゐるの」

と、鷺羽ちゃんがあわてて計器をいじり始めましたが
暴走を始めた計器は止まりません。

天地君はあきらめの表情で巻き込まれました。

「やつぱり~~~~~いつなるのか~~~~~」

煙が晴れるとそこには天地君がいませんでした。

鷺羽ちゃんはキーボードを操作しつつ天地君の搜索を開始し始めた。

あらゆる次元をもちろん自分の神としての能力
を駆使して、

津名魅はもちろん訪希深にも協力してもらつて、
あらゆることを試して、
やつとのことで見つけたことができました。

それは、それは、

「新世紀エヴァンゲリオン」

というアニメの世界にいる痕跡を

見つけることができました。

といつてもまだこちらからのアクセスの仕方が見つかっていないの
で、

こちらからの呼び掛けはできませんが、見つけたいことを
みんなに話しました。

「美星さんあなたという人はきいいいいいいいい。」（阿重霞
さん）

「鷺羽おねえちゃん天地にいちゃん大丈夫だよね。
（砂沙美ちゃん）」

「みやみやみやみや。（天地さん大丈夫ですよね）。（魍魎ちゃん）」

「天地様のことですからめつたな」とはないと思ひますけど。(イケさん)」

「ほほほまあ大丈夫じやろうで。
と勝仁さん）」

（瀬戸也）「面白かったになりましたね水穂。」

「いい修行になるだろ？天地ぬわつはつはつ。」（阿主沙）

（アイリス）いい研究材料になるわ～～。

天地殿無事お帰りを。
(船穂さま)

L

天地ちゃんがんばつてね~~~~~。
(美砂樹さ)

ま
「

柾木家の面々はすぐ心配します。

樹雷王家の方々は心配半分面白半分です。
といつよびに悲喜こもごもですが、
そして、鷺羽ちゃんの出番です

「任せなさい、宇宙一の天才科学者に任せなさい。」

と胸を張りました。

次は天地君のお話になります。

受難（後書き）

さてさて、始めました。
新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難
どんなお話になるか、どうぞご覧下さい。

中（前書き）

シンジと天地のお話

中

西暦2015年の世界に飛ばされた天地君です。

ある人物の精神に憑依することになりました。

飛ばされた当初はあわてていたため状況判断ができませんでしたが、時間がたつ間に平静を取り戻し、ある人物との邂逅を果たすことになります。

ある人物は大げがをし、精神世界の中で天地君との邂逅を果たします。

もちろんある人物も混乱していましたが時間がたつとともにに平静を取り戻しました。

(君は誰だい、俺は榎木天地っていうんだけど。)

(僕は碇 シンジといいます、怯えながら名前をいいました。)

(じゃあ、これからシンジ君と呼んでいいかな。)

(はー、ではぼくはぜひよんだらいいですか。)

(ちなみにシンジ君は何歳かな。)

(そうだな、ちなみにシンジ君は何歳かな。)

(僕は14歳です。)

(おれは17歳だ。)

(じゃあ天地さんとよびますね。)

(うんそれでいいよ。)

(状況をもじるかな)

(今病院にいるみたいだけど、なぜ病院にいるのかな。)

父さんによばれて エヴァとかいうロボットみたいなものに乗せられて
人類の敵とか呼ばれる 化け物を倒し気を失つてからじやないで
しょうか。）

(そ、うか、いろいろあるんだな。)

(天地さんはどうして僕の中に来たのですか。)

(ええ父さんは口論でいたと想つたが、また尋ねて。)「

(そ、うかつらかつたんだね。)

シンジ君は泣き崩れ、俺に慰められて、泣き止んだところで。

（俺にできることがあれば何時でも頼つていいいんだよ。）

といつても精神の中でですが

（天地さんでお兄さんみたいだ、裏切らない人みたいだ。父さんみ
たいには。）

（シンジ君は本当につらい目にあつてきたんだな、
あんなに泣くほど、・・・、・・・。）

（シンジ君も俺みたいにトラブルに巻き込まれやすい体质なんだな、
これは俺が支えないとつぶれてしまうかもしねれないな、
弟がいたらこんなかもしねない、よしシンジ君を支えてやるわ。）

（まずはけがを治そう。）

天地君の備わった力、光鷹翼を開ける力を使って、
目に見えない光鷹翼でシンジ君のけがを治しました

中（後書き）

天地君とシンジ君の邂逅です

では次のお話をお待ちください

中の2

精神に肉体がリンクしてることは、天地君には当たり前です。（この物語だけの設定）

(ええええええええどういうことですか、天地さん。)

(俺の住んでる世界、いわゆる異世界でいいかな。)

(僕はその異世界では樹雷という皇国の皇太子の孫なんだ。)

卷之三

僕なんかとは身分が違う遠い世界の方なんですね。）

(ちゅうとちゅうとシンジ君。)

自閉モードに入りかけの時に天地君があわてて言い訳をしました

(落ち込まないでよシンジ君)

皇族だといつても俺が住んでる地域では、まったくの一般人として暮らしてたんだから。）

（だつて、俺がそのことを知ったのはつい1年目のことだったんだから。）

（神社の神主のじっちゃんがすんでる、神社の奥の院の祠で、
魑呼という宇宙海賊が封印されてね、
興味半分でその封印を解いたことが始まりで、
阿重霞さん、砂沙美ちゃん、という女の人人が俺が住んでもらひに
きて、

魑呼と、阿重霞さんが、大ゲンカするは、宇宙に連れ出されるはで、
ちなみに、阿重霞さん 砂沙美ちゃんは俺のじっちゃんの妹で、
第二皇女 第三皇女なんだ。）

（いろいろあつて落ち着いたところに
美星さんというギャラクシーポリス（GP）の1級刑事がきて、
神我人いう宇宙海賊が攻めてきてやつと、
俺が皇国の血をひくものだとわかり、
神我人をやつけて、それからいろいろあつたよ、
ふ～～～～～～～。）

（光鷹翼という力は俺だけの力で起こしてるんだ、
シンジ君を治した力も、光鷹翼という何物も通さない、
攻撃も防御も完ぺきにできる力、
といつても、本当に危機が起きないと
発揮できないけどね。）

（だからね、シンジ君よく聞いてね、おれは確かに一般人とは言え
ない力を持つてるけど、
純粹に人間なんだよ、ただの 人間なんだよ、覚えておいてね。
）

（力があろうとも、姿形が違つても、生まれがどうかなんて
些細なことなんだよ、
自分が人だと持つたらとことん信じてあげなよ、
これからえあう人々を信じてあげてほしい、シンジ君。）
これはおれが今まで生きてきて実感したことだから

（天地さん、いや天地兄さん、て呼んでいいですか。）

（いいけどどうしたの？。）

（僕の目標になつてください！
お願いします！）

中々の2（後書き）

邂逅その2です

では次のお話ををお待ちください

中南の山（前書き）

邂逅その3です

(いいよ、おれも弟つてほしかったから。)

(よろしくお願ひします、天地兄さん。
よろしくお願ひしますシンドジ。

素敵な笑顔だねシンジ。）

(男の俺でも好感が持てるね。)

(ところで天地兄さん、

阿重霞さん、美星さん、砂沙美ちゃん、麺呼さん、
の、人ばかり出てきてますけど、どういった関係なんですか？）

(恋人なんですか皆さん、 、 、 、)

(恋人ではないんだけど、ヽヽヽヽヽ)

好きつ、ヽヽヽヽヽヽヽ 何言わせるんだよシンジ。）

(あはははは兄さん照れてる、 、 、 、)

(怒るよシンジ。)

(御免なさい、兄さん。)

(ג'נ'ר'ל)

話を変えるや。)

(シンジは、エヴァとつものに乗せられたといつたね、
どうこうした経緯でそうなったのかな。)

(4歳のじり父さんに捨てられて、
おじちゃんという人のところに預けられて、
そこじで暮らしてたんだけど、
突然、父さんからここに来て、といつ手紙がきて、
第三東京市の駅について、
葛城さん、という女の人がきて、
父さんは「ネルフ」というところで働いていることを聞かされて、
車に乗せられて、ネルフ本部連れ込まれて、
赤城さんという女性がきて。)

歩きながら話す//カートと、リシコ。

(じのじがそつな。)
(じの子が適格者なのリシコ。)
(わへ、カードチルドレン。)

(何のことかわからずに聞いてたんだけど
<カードチルドレン>、<適格者>、何話しているのかな。)

(暗じところに連れてこられて、行き成り明かりがついて、
ロボットの顔が現れた、びっくりしてるところに、父さんがきて、
お前が乗れと言つてきた、そんなのできないよと言つたら、
お前には失望したとか言つて、上で白髪のおじいさんになんか話し
てた。)

(レイを呼べとか言つてた。)

(ストレッチャーに乗せられた女のことがきて、ものすごい大けがしてるのに、

無理やり起きそつなので「、僕が寝てていいよ」と言つた。)

「父ちゃん、僕が乗ります!」

(女の子がけがしてるのもかかわらず、乗らつとしてるのに男の僕がうじうじしてたらだめだから。)

(それから、赤城さんが動かし方を教えてくれて、無我夢中で戦つた、そして爆発で氣を失つて、天地兄さんと知り合つた。)

(やうかシンジ。)

(とりあえずわかつたよ、これからどうしようか、相談しよう。)

(まず、俺がシンジとどうかしてることには、内緒にしておこう。)

(疑われたくないだらうし、

鬪いになつたときは、俺がアドバイスできたら、アドバイスしよう)

(わかりました兄さん。)

(後はその時そのときめよ!。)

(シンジに田代の時が来たようだ、
またあとでな。)

(はい兄さん。)

中々のう（後書き）

次はシンジ君が目覚めます

では次のお話をお待ちください

思わぬ珍客（前書き）

あけましておめでとうございます
今年も拙い小説を「ひーき」

天地世界ではおなじみにひとをわがせな天才科学者の登場

思わぬ珍客

目覚めたシンジ君
お約束のお言葉

知らない天井だ シンジ
知らない天井だな 天地

あつあたまに包帯が巻かれている そつか頭から血を流してたって
兄さんいつてたな

今天地君とはリンクしてないんです
呼び掛けたらリンクが再開する約束だそうです

けがは兄さんが直してくれたからいいんだけど
カモフラージュしてないといけないから
医者がいいと今まで

つけてるけど
少し気になることがあるから ナースステイション
に行こうとおもう

ナースステーションにきました
すみません

は〜〜〜い何かな〜〜〜〜にやにや
カニの形の髪の毛をした看護婦さんがきました（言わずと知れた
の方）
どうしたのかな 天地殿

え
シンジ

誰ですかあなたは
鶯羽ちゃん o r z
天地

驚いてる一人をしり田ににやにやしてゐる看護婦さん

とりあえず病室に逆戻りです

天地兄さんの知り合い見たいだから天地兄さんに任せよう

僕の体を天地兄さんに一時任せて意識交換をしました
もちろん皇家の力で

鶯羽ちゃんいつたいどうしてここにこれたの
私に不可能はない わつはは なんたつて

宇宙一の天才科学者だから 胸を張る看護婦姿の鷺羽

天地殿のアストラルを探してきた

あるある次元あるある要素を探査して

ちなみに、私の今の姿はアストラルボディだから

天地世界ではおなじみですね、

ちなみにシンジの天地殿以外は見えてません

幽霊みたいなものかな シンジ

みんなはどうしてるの鶯羽ちゃん 天地
そりや 大慌てでさ

あえかどのはヒステリーを起こすは
ささみちゃんしんぱいして寝込むは
ノイケどのは平然と家事をこなしえる
ただし 心配してるけど

勝仁殿は相変わらず飄々としてる

りょうこは以下同文

美星殿はりょうこに半殺しされてる
じゅらうい王家の方々は面白がってる

でもまだ見つかったことは話してない
でも皇家の木々を通して
うすうすはしつてるかもね 瀬戸どのは

これからのこと話をし合いましょう 鶯羽

シンジが教えてくれたことを包み隠さず鶯羽に話す天地

シンジを助けていこうと思つ

天地兄さんにお任せします

任せなさい 宇宙一の天才科学者プロフェッサー鷺羽に
かかればちょろい問題だ！

安心するシンジ
あせつあせなせせつせつは

卷之三

シリアルになるかラブコメになるか
お楽しみお楽しみ～～～～～～～～～～

思わぬ珍客（後書き）

人物の名前につづけるかぎかっこを省略します
皇家の方々のお名前はすみません変換しづらいので
平仮名とさせていただきます

レイ (前書き)

レイとの会話です
ミカトの再燃場

レイ

そうだ昨日の大けがした女の子のところに行こうと思つてたんだ
そのためにナースステーションに行つたんだつ
け逆戻りで病室のもどつたんだ

その子なら隣の病室にいるよ 鶯羽

え そななんだ

お見舞いに行かなくぢや

けが自体は大したことはないんだけど 鶯羽

骨折や内臓損傷を大したことはないと言い張る天才科学者
すぐに直せるからね でたらめなこと言つ 鶯羽

いや～～～面白い素材だつたから もう完治をせひやつた

え シンジ

でも見た田は大けがしてる状態にカモフラージュをせてる 鶯羽

面白いね りょうじとおなじだったよ

りょうじはね 私の卵子と宇宙生命体マスとのハイブリッド
いわゆる娘さ 鶯羽

じゃああの女の子もそなんですか シンジ

そう 使徒リリスと君のお母さん 碇コイ殿の遺伝子を組み合わせた
ハイブリッド生命体 でも人間だよ

ちなみにシンジ殿との血のつながりはないよ 兄弟じゃないよ
あん～んなことやこ～んなこともできるよ
もちろんうふふふふふ

鶯羽

昨日も言つたと思うけど

力があるのも、姿形が違つても、生まれがどうかなんて
些細なことなんだよ
自分が人だと持つたらとにかく信じてあげなよ
これからえあう人々を信じてあげてほしい

天地

わかっています兄さん

さてお話はまたあとで
御姫様に会いに行きましょう 鶯羽

こんこん

こんにちは
中をのぞく シンジ

起き上がってる少女

だれ

ええっと 僕は碇 シンジ

入つていいかな

勝手にすれば

モードの構成

けがの具合はどう

大したことはないわ

確かに完治してるんだから大したことはないな
見た目は大げがしてるんだから
これがカモフラージュとは思えない出来映え

碇つて言つたわね 指令の知り合い?

息子 子息 子供 長男・・・・ 無限思考に入る少女

あの もしもし さみ?

なに？

名前
教えてくれる?

レイ 綾波 レイ

レイさんっていうんだ

レイの顔を見てるシンジ

何か用？

隣に入院してるんだ また来てもいいかなレイちゃん

かまわないわ

ほつ シンジ

また明日来るね

わよひなり

できればまた明日つて言つてほしいな

それは命令？

いや 僕のお願いだつよ

じぱりく熟考のレイ

了解

また言つね

また明日 シンジ

また明日

レイ

きれいな女の子だなレイちゃんは

笑顔見せてほしina どんな笑顔なんだらif

そこに見舞いに来た葛城ミサト

あれへシンジ君どうしてレイの病室から出できたのかな にゅにゅ
してるミサト

ええっと昨日大けがした女の子が気になつて
ナースステイションできいたんです

どうだつたシンジ君 かわいい子でしょちよつと無表情だけど
惚れたのかな? からかうミサト

そんなんじゃありません! 真つ赤な顔をしてるシンジ
怒つて行つても説得力がないシンジ

ただのお見舞いです!

自分の病室に帰つてしまひました

あちや／＼＼＼＼からかいすぎたミサト

まついつか

からかうネタを仕入れたミサト まるでどこかの鬼姫みたいな
顔をしていました

今日はいろいろありすぎました 早く休みますね

兄さん 鶯羽さん

了解 天地 鷺羽

鷺羽ちゃんにお願いあるんだ

シンジにはあまりおかしな実験等は
しないでほしい

俺とは違つてあちらのことはあまり話してないから
無用な混乱はおこしたくないから

わかつてゐる天地殿

俺自身のこととか家族構成ぐらいしか
話してないから

遺伝子情報くらいしか採取しないを天地殿

しかし興味は死きないねこひらは

ネルフとか言つたね

おもしろいことが始まりそうだ

科学者の血が騒ぐよ

あーあシンジできるだけかばうからね鷺羽ちゃんから

レイ(後書き)

レイの素性を知るシンジ君
ミサト再登場でもこの间的カーテンはあのカーテンです
ネタバレになるのでこれまでにします

Hガア（前書き）

初号機に入り込んだ鷲羽
どうなることやら

Hカア

Hヴァの中に入った鷺羽ちゃん

一つの意識に気が付きました

一つは子供のような意識
もう一つは大人の意識

起きてきた二つの意識

子供のまではもう一度眠らせ
おとなのまでは寝いらせず元に戻しました

話があるからおこしました

私の名前は白眉鷺羽

あなたの名前は？

碇 コイと申します

ではコイさんとよぶわね
あなたなぜこの中にいるの？
事情はあるのは分かつてゐ
なぜ自分の子供を捨ててまでこの中にいるの？
自分の子供はかわいくないの
どんな仕打ちを受けたことは知つてゐるの？

答えなさい 碇 コイ

え ビウビウヒトですか？鶯羽さん

いいわ話してあげる

あなたのご主人の碇ゲンドウは自分の子供を
遠いほとんど他人に近い親戚に預けたのよ
ほんのはした金だけ渡して 養育費すらも渡さずに

えつそんな馬鹿なゲンドウさんに限って
あんなにシンジをかわいがっていたのに
どうして どうして

涙ぐむコイ

シンジ殿がどんな境遇に陥ったか

あなたにわかるの？

4歳の子供が親に捨てられたなんて

それも両親に

どんなにさびしかったでしょうね

どんなに心細かったでしょうね

親ならどうしてそんな仕打ちができるの

まして親戚といつても赤の他人に近い関係
なのに

4歳のころから家事手伝いをさせられて
料理がまずければせつかん いろんなことに
シンジ殿は耐えてたのよ

あなたが迎えに来てくれるのことを信じてね
心の中でね 顔には出さず

耐えてたのよ

拳句の果ては プレハブ小屋におじいちゃんが

よくもまあ こんなところいたわね

のんきに

何が人類のためよ、何がシンジに明るい未来がなんて
よく言えたものね

涙ながらに話す 鶯羽

自分のことにして置き換えて話す 鶯羽

タウ私のかわいい赤ちゃん

旦那の親に無理やり引き取られた息子

親なら親なら仕事あげなれこ

コト泣き崩れて

うううううううううううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううううううううううううう

許してシンジ 許して ゆるし ツ シンジ

愚かなこの母親を

うううううううううううううううううううううううううううううう

わかつたわねコトを

あなたのやね」とは

あなたはこの中でシンジ殿を守りないと困るわよ

涙ながら泣くなずくコイ

許すまじ ゲ ン ド ウ

ゆるさない

私はあちらに マギのほうに行くわね
よく考えてこれからシンジビのを守りなさい

Hカア（後書き）

Hヴァでのコイとの邂逅を果たした鷺羽ちりちゃん
あちらでの騒動をお楽しみにしてください

マギの進化（前書き）

エヴァでのことを終えた鷺羽
マギシステムに入り込んで
赤木ナオコとの邂逅

マギの進化

シンジ殿が言つてたロボットやらをのぞいて「ようかね
アストラルボディだからどこにでも入り込めるからね
検査機器なんてちょろいちょろい
この鷺羽ちゃんにかかればね

エルフ本部のもぐりこんだ鷺羽ちゃん
エヴァの中でユイとの邂逅を果たし
まずはここ心臓部ともいえる
コンピューターに入りました
MAGIというんだね

ほつほつ

三つのコンピューターの合議制で決めるシステムなんだね
少しいじってみようかね

シンジ殿や 天地殿の邪魔にならない程度に

MAGIの最深部に入り込んだ鷺羽ちゃん

おやおや?

これはまた居妙なことがあるもんだね
皇家の木に似た感じがすると思つたら

生体コンピューターとはね

ふむふむ

女の思考するタイプに 母親の思考するタイプ
科学者の思考するタイプね

また原始的な生体コンピューターだね

いらっしゃい 起きなさい

何よもう人がせっかく寝てたのに

あなた誰なの

私は宇宙一の天才科学者プロフェッサー鷺羽ちゃんよ

ちょっとあなたに聞きたい」とがあつたのよ
で名前は

赤木ナオコよ 行き成りたたき起こして
何よもう

よくもまあこんな原始的なコンピューターでねてられるわね
あきれるわ

げ、＼＼原始的＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼ よくも言つたわね
これでも世界最高のコンピュータよ

よくお聞き

確かに生体コンピューターを開発したことは褒めてあげるわ
上には上がいることを考えなさい
一台のコンピューターでできるんだよ

「んな」とは

できるところなら証拠を見せて

うおつほん

いいわ見せてあげる私の世界の
この鷺羽が開発したものを
ちょっと来なさい

お互い アストラルだから
どんなこともできます

アストラルだけならこことシンジの世界との行き来は
鷺羽ちゃんが開発しています

天地世界のGPAカタマリーに連れてこられた

赤木ナオコは驚くやら、びっくりして呆然としていました

いい世界最高なんてうぬぼれてはいけない
テクノロジーは日々進化してるんだから
あんたも科学者の端くれなんだから
寝ていいわけないでしょ

わかってるわよあなたに言われなくとも
こんな素晴らしいものを見せられたら
科学者の血が騒ぎます

さて向こうの世界に帰ろつかね
やることは分かったみたいだから

シンジの世界に帰ってきた一人は
マギのsuper versionアップにとりかかりました
もちろん マギの最深部ですから外に漏れることはあります
赤木リツコが気が付かないほど
巧妙に隠されていました

とりあえずダブル思考できるようにしましょう

表は今まで通りの思考

裏はより複雑な思考ができるようになります

最深部は完璧なブロックボックス化することにしました
表のマギメルキオール、バルタザール、カスパーは今まで道理の仕様
裏はもちろん マギ鷲羽 マギ津名魅 マギ訪希深となすけました

もちろんどのマギも天地君やシンジ君の敵になことはしませんし
できません
なぜって鷲羽ちゃんだから

朝までに終わつたようです

天地殿 シンジどの頑張つて
下準備は終わったからね

マニャの進化（後編）

さてさてシステムバックアップはおわったよ
これからひじなることひじで

最深部（最奥部）

Hantiumとマサの仕込みをおわった
鶯羽ひやん

次の悪だくみをお楽しみください

最深部

システムやエヴァの仕込みをおわった鷺羽ちゃん
どうもおかしな気を發揮する所に気が付いた
いろいろ探る間に
ネルフ本部最深部に到達しました

これは！

失われた古代先史文明の遺物にてるわね
ええっとなんて言ったかね
リリスシステムに似てるわね

使つものの心理思考を読み取るキー システム
キーロンギヌスのやり

リリスシステムとロンギヌス

鷺羽ちゃんは自身の持つ探査システムを駆使して
リリスシステムとロンギヌスをなめるように探査しました
ほへへへへへ
「コピーとは、いえよくできてるわね～～ 感心するよ

ただしこれをコピーするだけの技術はシンジの世界には存在してま
せん
何らかの異星人が介入したことは間違いないでしょう
でもこの物語ではかんけいがないので割愛します

でもコピーはコピー決定的な欠陥を発見してしまいました

一度発動してしまつと何もかも壊してしまつ、言い換えれば
暴走してし暴走した後になのもなくなつてしまつ荒涼とした世界
しか残さない

本来のシステムは 無開発惑星を開発するためのシステムです
リリスとアダムそしてロンギヌスの三つがそろわないと
発動しないシステムです

でも今あるコピー製品は
いけにえとなるものが必要です
それも「若き無垢な少女」

誰と誰かいまいわなくてもおこおいわかるでしょう

このままじゃいけないね こんなもの発動したら
この世界が壊れちまう、
どうしたものかね そうだシステムの根幹に関するものを
書き換えてしまいましょう、
うふふふ
あれをこうしてこれをこうしてそれをこうして
いろいろいじつてしまつた結果
天地殿にしか反応しないようにしてしまいましょう
この世界の人々がどんなにいじろうとも
天地殿以外は

にやりつ 鶩羽ちゃん独特の笑いが発動しました

リリストシステムはこれでいいね

もう一つ

これは人との尊厳とか無視しまくる行為
良い行為で言えば「れほどよいもの

でもそこに漂うものはなにか? しない、反応しない
たださまようつているだけのもの
そう

綾波 レイの「ローブ」

かすかにレイの魂の残滓が残ってるレイの「ローブ」たち
このままじゃいけないね

いぜん魑皇鬼が鷺羽の研究室にいたときマスが集まつてきて
魑皇鬼が女性体になつたよ

レイも補完してしまつことを思いつきました
もちろん今すぐするわけではないので

レイちやーーーん楽しみにしておいてね

そこには漂うレイの「ローブ」たちよ

おまえたちはどうしたいかききたい

さすが三神の頂神の長女、ものすごい威厳をもつて告げました
このまま器としての生涯を終えたいかそれとも

今上にいる綾波レイを助けるために使われたいか
答えなさい

しばりくじて レイちやんズは答えました

微弱な意識を持つて

私たちには補完計画を実行するためうみだされたもの
レイの「ヒーリー」悲しそうな波動をだしながら

もしかならぬ 今上にいる姉妹のレイのために何かできるなら
あなたに何もかもゆだねます

わかつたよ レイ

では今は静かに私が作つたところに移動をせます

はい

さて レイちゃんズはこれでいいわね

なにもいなくなつた水槽に鷺羽ちゃん人形を入れておきましょ
うたくさんね

第一期最終の時にで出来たD・クレーにつかまつてた時に

鷺羽ちゃんが身代わりにした鷺羽ちゃん人形

鷺羽ちゃん独特の嫌味を聞かせた人形
見るものが見たらただの鷺羽ちゃんの人形
ただし他のものが見たらレイが漂つてるように見える
そんないたずらをこの水槽に施しました
決して見破れないとすらです

ふふふふ完ぺきだ 鷺羽ちゃんすいー 鷺羽ちゃん宇田一
そうテレビ版でた鷺羽ちゃん応援団です

宇宙一の天才科学者にかかるべきもんだよ
深夜の空間に笑い声がこだました

鷺羽ちゃんの介入により ゼーレおよび碇 ゲンドウの補完計画は
完全に破綻しました、どんなに行おうとも
うんともすんとも実行できなくなりました

さて道化師たちゼーレ 碇 ゲンドウには踊つていただきましょう
そこまで道化師として

鷺羽ちゃんの手にある裏死海文書そう碇 ユイの解読した裏死海文書
ただのシステムの取扱説明書を大事そうにありがたがつてる
ゼーレの老人たち 碇ゲンドウがあわれに思えます

では次の話まではばしサヨナラです

最深部（後書き）

早々に補完計画が破たんしました
どうなることでしょう

朝の出来事（前書き）

田覚めたシンジ君
わしゃわしゃなる」とひしきつ

朝の出来事

翌朝

天地やシンジ君が目覚めます

おはよう兄さん

おはようシンジ

おはよう天地殿、シンジ殿良い目覚めができたかな

ええ鷺羽ちゃん 天地

あまり寝られませんでした 鷺羽さん シンジ

いっしーいシンジ殿鷺羽ちゃんて呼んでくれないと返事してあーー
ーげない

天地はまた始まつたかと苦笑します

やれやれ、ヽヽヽヽ 鷺羽ちゃんはじまつたね

鷺羽さん 無視
鷺羽さん 無視
鷺羽さん 無視
鷺羽さん 無視

大人おのあなたにちゃんとつつけられません
どこまでも生真面目なシンジ君

この姿になればいいのねシンジ殿

行き成り縮み始めた鷺羽

わっわあああああああ シンジ

いつもの姿形になつた鷺羽

看護婦姿の

天地君は慣れてるので驚きません

ですが初めて人間が縮むのをみたシンジ君はただただ驚くばかりです
そらそうでしうね

シンジの世界ではそんな芸当できる人間なんていませんから
大きなエヴァを作れるのに ね

いやいやしてゐる鷺羽

これならどうだいシンジ殿

声も出れずにただただうなづき返すシンジ

わしゃひちゃん 小さな声で言ひシンジ

聞こえないねシンジ殿

わしゅうちやん 少し大きな声で

聞こえないねシンジ殿

今度は普通の声で 鶯羽ちゃん

よし それでいいわよシンジ殿

シンジ殿 あなたに聞いておきたことができてる
レイちゃんのことなんだけば

レイちゃんはりつあいの子だけど
重要なことなのでもう一度聞きます
これからも普通に付き合つていけますか
もう一度聞きます

ただの女の子としておつきあいできますか

はい！
はい！はい！

僕は綾波をただの女の子として御付合いします！

戀の告白だねシンジ殿

言った途端ゆでだこのように真っ赤になつたシンジ君がいました

良かったよこれで例のことができるよシンジ殿

例のこと？ シンジ 天地

うんにゃ今は気にしないでいいよシンジ殿天地殿

ために、この図は、各層の構成要素を示すための構成要素図である。

朝の出来事（後書き）

鷺羽ひやんが念を押すお話をでした

レイの笑顔（前書き）

シンジ君の初恋そして
ほほえましいお話です

レイの笑顔

少し待つてなさい

と隣に移動する鷺羽

おはよう気分はどうだい レイ殿

あなたはだれ？

私は宇宙一の天才科学者プロフェッサー鷺羽
鷺羽ちゃんと呼んでね

無表情のレイ

驚くこともしないレイ

そして自らの持つてる本に視線を移すレイ

さすがの鷺羽さんもあきれ果てる、

何も教えてないんだね 碇 ゲンドウ あきれ果てるね

大変だよシンジ殿 普通の女の子にするのは これからシンジ殿
次第だね

レイ殿

鷺羽に視線を向けるレイ

リリス レイの「ペーたち という鷲羽

みるみる驚愕するレイ

ほつ驚く表情はできるんだね

なぜそれをと 答えるレイ

碇司令 赤木博士以外に知ることはないレイの秘密を
ことも投げに語る鷲羽

昨日のことを事細かに告げる鷲羽

俯くレイに鷲羽は自愛を込めて語る鷲羽

レイ殿 あんたの生まれがどうだりうと関係ないんだよ
レイ殿は今この瞬間に生きてる人間なんだよ
リリスがどうとかは今関係などないんだよ
私の娘もねレイ殿と同じなんだよ リョウコというんだけど
私と宇宙生物のあいの子なんだけど 生まれ確かに特殊だけど
今も生きてるんだよ 普通の人間としてね
人を好きになる素晴らしいじゃないか
レイ殿にも同じようにしてほしい
リョウコと同じように普通の女の子として今生きて生きてほしい
これから自分は予備とか言つたら承知しないよ

優しくレイを抱きしめる鷲羽

鷲羽の言葉を聞いて驚愕し そして涙が出始めるレイ

うわああああああああああああああああああああああああ

泣き始めるレイ

よこよし思いつきつお泣きレイ殿

思いつきつ泣いたレイ

やして レイに重要なことを告げる鷺羽

地下に保存されてるレイ殿の姉妹たちをビビりたい?レイ殿

今のおまじやまづこからとつあえず別の場所に移動させてるけどね
もし何かの役に立つんならあなたにまだねたい鷺羽さん

鷺羽ちゃんといふてこわなかつたかな

言った

もう一度

鷺羽ちゃん 素直ですねレイちゃんはと頭御なでる鷺羽ちゃん

照れてるシンジ殿とは大違いだよ

わかつた レイ殿 レイ殿の思つよつこじかあげるよ

楽しみにしておこで レイ殿

さて 外で聞か耳立てておるシンジ殿入つておこで

びっくりしておるシンジ

真っ赤になりながら入つて来るシンジ

おはよう綾波わん

びっくりするレイ

おっおせよつと答える泣き顔のレイ

また驚嘆するレイ

でもねレイ殿それでもシンジ殿は構わないと
レイ殿を受け入れると

近寄り抱きしめるシンジ

素直に抱きしめられるレイ

そしてまだ泣きはじめるレイ

その涙は心の底からうれしこと表現する涙でした

そして 顔を上げるレイ

悲しくないのに涙があふれるの教えて

それはね、うれしいと心が流す涙なんだよ綾波さん

心行くまでなくレイ

そして あのセリフが出ます

こんな時どうすればいいの

笑えばいいよ綾波

そして朝田のよひに微笑むレイ

シンジ君は射抜かれてしまいました レイちゃんの笑顔に
シンジ君の初恋です 成就してもらいたいものです
作者の願望です

必ず笑顔を守つてみせるよ 綾波

良かつたなシンジ

良かつたねシンジ殿

といひで これから綾波さんを呼ぶときビックリだらいいかな

しづりく考えた後レイちゃんは言いました

レイと呼んでほし

呼び捨てにするなんてできないよと
真っ赤な顔でのたまうシンジ

お願いと必殺の笑顔で「レイ

純情なシンジ君としてはどうにも対抗策もないの

真っ赤な顔で

レイ

とレイちゃんに答えました

「これからはレイとよぶね

必殺の笑顔でうなずくレイちゃん

僕のことはレイの思う通りによんでもほしい

シンジ君

必殺の笑顔でシンジ君と呼ぶレイちゃん

「」は一人任せましょつ

シンジの部屋に戻ってきた鶯羽

いつの間にかベッドには天地君の体がありました

天地とリンクしてゐる鷺羽ちゃん

天地君の遺伝子情報を書き込んで天地殿がここで活動できるように用意したそうレイのコピー体でした
もちろんシンジとのリンクを残しましたまで

どうする天地殿

わかつたよ鷺羽ちゃん

メインはシンジだからね 鷺羽ちゃん

わかつてゐわよ天地殿

これから陰で暗躍を始める天地、

その始まりでした

レイの笑顔（後書き）

素敵な笑顔が見れたシンジ君でした

そして等身大になつた天地君の暗躍が始まります

これから展開が楽しみになりました

退院（前書き）

退院するシンジ君
その朝のことです

それからの数日はシンジ君にとって楽しい日々でした
朝からのあいさつに始まり夜のあいさつまで
ほんとにシンジ君にとって樂しい時でした

レイちゃんの笑顔が見たいばかりで

面白い話や悲しいお話

シンジ君が味わった幼いこの出来事を包み隠さず

レイちゃんに話しました

レイちゃんにとつて初めてのことばかりでしたが

ずいぶん表情もできるよつになりました

シンジ君の幼いころの話を聞いたとき

レイちゃんの心は張り裂けそうな悲しみに覆われて
泣き出す始末です

シンジ君は私よりつらい目にあつたのね

私は碇司令に育ててもらつたの

じつの子供のシンジ君はつらいつらごめにあつてるのに

それでも私を受け入れてくれたの

レイの心はもうシンジ君のことしか考えられなくなっていました

私はシンジ君しかいらない、シンジ君だけが私のよつば

完ぺきに依存状態ですね

ラヴラブ状態

レイの心はシンジでこっぽになっていました

碇司令のことをどうぞレイの心からすっかり消えてなくなっていました

レイにとつともこの数日は記憶の中で光り輝くものとなっていました

さてシンジ君の退院の日が来ました

迎えに来たのは葛城ミカトさんです

あまりいい印象はありませんが、これからもお世話になる方です
不機嫌な顔も見せてはいけないので

これからのことをシンジ君に告げます

碇シンジ君

正式に特務機関ネルフ本部に配属になりました

階級は特務軍曹の階級が与えられます

もううんネルフで見聞きしたことは機密扱いになりますので
くれぐれも喋つたりしない様にしてください

違反すると 最悪は銃殺刑 軽くとも監禁に入つてもらいます

いいですね 拒否は認められないのです

反論があるならここで申し述べてください

特に何も言ひません

しっかり受け应えられるようになりました
これも天地君や鷲羽さんそして レイちゃんとの日々が
シンジ君を強くしていったのです

もうおどおどしたシンジ君はもういません

守るものができたとき人は成長するもんです

それにもともとシンジ君は優秀なんですから

碇ゲンドウコイの子供ですし

天才と呼ばれた碇コイ 碇ゲンドウ

優秀な子どもがてきて当たり前です

親戚のところに預けられてた時から 成績は常にトップクラスにいました

それも親戚には面白くなかったから余計にいじめられていきました
しかしそんなことはみじんも感じさせない
シンジ君は強くなりました

シンジ君今から私のところに下宿してもいいです

これは碇司令の要請です

まだまだ君のは保護者が必要ですから

わかりましたそれでいいです

と硬い話はこれまでにして

うこうういシンジ君レイと親密になれたようね
お姉さんはうれしいわ どこまで行ったの
キスしたの？

こやこやしながら聞く//サトさんです

本当に瀬戸様みたいですね
とシンジの心で天地がつぶやいていました

しませんよ！

お話してたんですから毎日
からかわないでください

葛城さん

前にも言ったと黙つた//サトって呼んでほしこと黙つたわよね

確かにやつ聞きましたけど

上司と部下の関係になるのに、気軽に言えるわけないですよ

葛城さん

確かにシンジ君とあたしは上司と部下の関係だけど

葛城さん

プライベートではそういうことは持ち込みたくないのよ
わかつてくれるかな

もちろん本部では葛城三尉と呼んで貰わないとなめだけど

だめ?シンジ君

ふうひひひひわかりました

公私の区別はします

わかつてくれてありがとうシンジ君

レイに挨拶しておいで シンジ君

ここん

レイはいるよ

おはようレイ 今日もいい天気だね

おはようシンジ君

うれしかった微笑んで答えてくれました

今日 退院になつたんだそれで挨拶に来たんだ

笑顔から泣き顔に変化しました

あわてたシンジは「いつ答えました

泣かないでレイ 毎日見舞いに来るからどうか泣き止んで

あつと来てね 待つてるから

そうだ明日来るとき何か持つてくれるから

何か食べたいものはないかな

肉以外なら何でもいいわ

わかつた飛び切りのお弁当を持ってお見舞いに来るよう
うん待ってるわ

やつと泣き止んでくれました

約束よ シンジ君

一連のやり取りを見てたミサトは驚いていました
あのレイがないでいたりわらついたりがおを見せるなんて

驚いた後 何か企んでいる顔をしました

天地君が叫びました

鬼姫がいるジュライの鬼姫がそこにいる

確かに似てるといふがありますねミサトと瀬戸様は

さて歸りましょう 愛しの我が家に

またした来るね レイ

また明日 シンジ君

退院（後書き）

無事退院することがでたシンジ君
別れの情景がうまくかけたでしょうか
ではその夜のことは
次のお話で語られるでしょう

回屈（前書き）

ミサトの部屋での回屈が始まっています

帰り道にスーパーによつて食材を買ひ込み

例のイベントをこなした後 ミサトのマンショնについた一人

ミサトの運転はすゞましこほどのテクで

シンジ君は田を回して氣を失つていました

一度とミサトさんと運転する車には乗らないと心の誓ひ
天地君シンジ君でした

そして部屋に入つて驚愕しました

「みじみじみ夢の島に来たようでした
気が遠くなるような気分でした

どしたの早くはいつたら

言葉が出ない天地とシンジ

天地の家では常にきれいな状態でしたし
ささみちゃんやノイケさんがきれい好きといつのもありましたかし
家族が協力していました
あのいつですり、掃除をしていました

だから天地君には信じられないといった気分でした

シンジ君が言いました
いいのは夢の島?

失礼ね、私の家よ、これでもね
貴方のうちでもあるのよ

決意するシンジ君

掃除します! こんなところでも生活もできません
いいですね!! サトちゃん

はい
なんか怖いわねシンジ君

もちろん手伝いますよねミサトさん

い い は い い

これ以上怒らせては

いにないと情けない事でした

それから2時間後 すっかりきれいになつた我が家に感心するミサト

ご苦労様です!!サトさんお疲れ様

とこのでなぜ冷蔵庫が2つもあるんですか

後でわかるから楽しみにして

台所の冷蔵庫からえびちゃんを出して飲み始める//カト
くあああああ生き返る

一仕事した後のえびちゃんはたまらないわ

“じかのおやじのやひこのたまつ//カトやんとした

なんじや じつや と呟ふシンジ

某ジーパン警察官が叫んだセリフです
と冷蔵庫を覗くシンジが叫びました

冷蔵庫の中は ビールが所狭しと並んでいました

買ついた食材を出すためのビールをせりやと出し始めました

そして食材を入れ終わつた後
シンジが//カトに叫びました

冷蔵庫に入らなくなつたビールはすべて捨てます

やつ聞いた//カトは呟びました

やめてええええええええええええええ私の生きがいを捨てないで

何言つてゐんですか//カトやん

これからは冷蔵庫に入らないビールは
どんなに買ってきてもすべて処分します
ミカトさんの健康のために言つてゐんですから

それと自分の部屋以外つをまた夢の島にしたら
一切の酒類の持ち込みを禁止します

い い で す ん ミ サ ト ゃ ん

滂沱の涙を流す//サトには承諾する道しかありませんでした

よろしい約束ですよ//サトちゃん

意外と厳しいことをするシンジ君です

今から料理しますからビールでも飲んで待ってください

もうすっかり機嫌を直す//サトさんです

えびちゅ えびちゅ

鼻歌を歌いながら料理をするシンジ

うまいものだなシンジ

砂沙美ちゃんが料理してゐみたいに手際がいい

親戚の家では家事はすべてしてたし

好きなんですよ料理は兄さん

できた料理をリビングのテーブルに並べ終わったシンジ

ミ～サ～ト～さん 料理できましたよ
早く来てくださいね

は～～～い

いただきます ミサト
いただきます シンジ
手お合わせてこう一人

美味しいわねシンジ君　お店が開けるわよ

そんなことはなこと//サトさんただの田舎料理ですよ

と謙遜するシンジ

お金を出してもここに遊びついこの出来栄えでした

楽しくいただてる一人

えっとミサトちゃんからは料理は僕が全面的にしますから
掃除や洗濯はミサトさんにおねがいしますね

最後は氷のような視線と言葉で射抜くよ//サトに告げました

わかってるわよシンジ君　冷や汗をかきながらこいつ//サトさんでした
ビール捨てられては困るのでしぶしぶ返事しました

その様子を　じと目でじらむシンジ君

解く言つたシンジ　ミサトさんには強く言わないとダメみたいだか
らね

はい兄さん

食後30分が経過し　あとかたずけとレイちゃんにあげる
弁当の仕込みを終わったシンジ

シンジ君~~~~~お風呂入ってきなさい
お風呂は命の洗濯というから

と風呂に入る準備をしてお風呂に入るシンジ

いきなり飛び出してきました

お風呂でベンギンが、

ペンギンが頭にタオルを乗せた状態で出てき
リビングの冷蔵庫に入ってしまいました

あああもう一人の同居人の温泉ベンギンのベンベンとレニのよ
賢いから人の言葉も理解するのよ仲良くしてあげてね

リビングの冷蔵庫の意味を悟ったシンジ君でした

魑皇鬼のペンギン版か
と悟る天地君でした

二
ま
せんよな//サトさん
めつてたまごませんよな//サトさん

いないわよ安心していいわよシンジ君

安心して入浴するシンジ君でした

ミサトさんと会話しながら楽しい時間を過ごしました

部屋に入るとおこなう//ナトさんがシンジに話こました

シンジ君は//の第三東京市を守つたのよおもてこまつてこわよシン

ジ君

ありがと//ヤロコモク//ナトさん

微笑みながら部屋に入りました

ミサトが入浴中にリビングに電話をかけていました

報告書と違つから注意したほうがいいわよリビング

もつ泣き事//ナト

違つわよコソシ

いこ意味でも悪い意味でも注意したほうがいいわよリビング

了解//ナト

と電話で会話を一人でした

シンジの部屋では天地と鷺羽ちゃんとシンジ君が
作戦会議をしていました

とつあえず//ナトさんと生活をしつつ情報を集めを鷺羽ちゃんにお願
いしまく

了解 シンジ殿

天地殿はどうするの

少し考えがあるのであれで暗躍します

シンジ殿はとりあえず今ままでいいでじゅう

また変わったことがあれば相談しまじょう

夜が更けるまで話しあいました

鷲羽ちゃんのセキュリティで今までの病院とかーの部屋の会話をす

べて

漏れていません

完べきなセキュリティです

回居（後書き）

ミカト部屋での騒動およびパンパンとの出会い
天地と鷺羽の会議
うまくかけたでしょうか
ではまた次のお話を待ちます

第一 東京市（前書き）

天地君が第一 東京市での暗躍のお話

第一東京市

シンジ君がレイちゃんと楽しい時間を過ごしてくる日のことですか

シンジ君を助けるために暗躍を始めた天地君
まず自身のあしばを固めるためにやんごとなき
お方にお願いするため第一東京市にやってきました

えつと鷺羽ちゃんの話によると伊集院忍といつ人に連絡しなさいか

何時鷺羽ちゃんはつなぎをとったのでしょうか
鷺羽ちゃんといつべきでしようね

鷺羽ちゃんにむづつ携帯で伊集院さんに電話する天地君

ふるふるふるふるふる がちや

もしもし わたくし柾木天地樹雷と申します

伊集院忍さんでしょうか？

はいわたくしは伊集院忍と申します

不躾ではありますが折り入つてご相談があり お宅にお邪魔したいと思
いますが如何でしょうか？

柾木 樹雷 柾木 樹雷 柾木 樹雷 考え込む伊集院さんでした
聞いたことあるような名前

ひとつあえず返事をする覚悟で

はい、わかりました 何時になりますか

10時JRの向いしたいと思います

わかりました10時ですね、お待ちしております

がちゃ

忍さんは天地君といか柾木 樹雷の名前が何のか書物に載つてゐるのを思い出しました

その書物は蔵にあるので蔵の中に探しにきました

しばらく探してると目的の書物が見つかりました

その書物の名前は天朝興亡記と書いてありました

その昔子供のころに忍さんが読んだ伊集院家に伝わる伝説を書き記したものでした

目的の名前が載つた項目を探し出し読み始めました

の帝がある公家の邸宅にお忍びで遊びに行く途中

恐ろしい魔物に襲われて供の武士や陰陽師が次々倒れしていくなか
颯爽と現れてその魔物を見たこともない光り輝く刀と光り輝く盾で
倒してしまいました

助けてくれたこと感謝する その方の名前は何と申す

柾木阿主沙樹雷と申します お怪我はございませんか

有無けがはない 優美を取らす

いえなど褒美入りません 困っていたのを見かけたのでお助けした次第です
では失礼します いつの間にかいなくなつていきました

感動した帝は宮廷に帰り柾木阿主沙樹雷を探せと
触れを出しました 一向に見つかりませんでした

それはそうでしょうね見つかるわけがありません
皇家の船がトラブルに巻き込まれ阿主沙だけがここに飛ばされ
また舞い戻つていたのですから

側近であるその時の伊集院忍さんのご先祖様に書き記すことを
命令して今にいたると書いてありました

天地君と阿主沙さまは同じ体験をしていましたですね
血筋というかなんというか 運命を感じざるを得ませんね

時間が来たので蔵からその書物を持参して
天地君が来るのを待っていました

ピンポン

天地君が来ました

応接室に案内された天地君

忍さんはおもむろに自身が持つてゐる書物を渡し
該当のページを読むようにいい その中にある名前を天地君に聞きました

柘木阿主沙樹雷と書いてありますが 君には心当たりありますか？

はいわたくしの曾祖父の名前です

そうですかではその書物に書いてあることは事実とこいつとか
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

考え込む忍さん

そして

君、お願いがあるといつゝことでしたが、どんな願いですか

実はわたくしの弟分にあたる少年を助けたいと思い、知り合いから
貴方のお名前をお聞きしご相談したいと思いここにまかり越しました

で、その知り合いの名前は？

白眉鷺羽ともうします

名前を聞いて苦笑してゐる忍さんでした あああの鷺羽ちゃんですか

天地君が驚いて考えます

なぜこの人が鷺羽ちゃんの名前を知つてゐるんだろうか

なぜ名前を知つてゐるかという顔をしてますね

大人の世界のことなので君は知らないほうがいいでしちゃうね

はあわかりました

で、私に何をしてほしいのかな?

実は戦略自衛隊及び自衛隊に入り込みたいので
それはどうしてですか・
シンジを助けるためです

わかりました

明日もう一度ここにお越しください
良い返事ができると思いますから

わかりました ではまた明日お伺いします

天地君は帰つていきました

忍さんは笑い声をあげました これは楽しくなりますね
ネルフに一矢報いることができる

やんごとなきお方に報告するためには
館のほうへ向かいました

陛下ご報告があります

わたくしの家に伝わる書物をお読みください

例の書物を陛下にお渡しました

そして忍さんは言いました

その書物に載つてゐる柾木 樹雷なるものの
子孫がわたくしの家に参りました

おおおおおおおおお見つかりましたか
わが祖先を救いし柾木 樹雷が、・・・、泣き崩れました

ええその書物が本物であることが証明できました

ではそのものに褒美をやらねばならぬ
ええそりでござりますね

でもその少年は褒美などいらないでしょ
その代りある地位を『えればよろしいかと

その地位とは？

戦略自衛隊と自衛隊の指揮権がよろしいかと
なぜですか

ネルフといえばお分かりと思ひます

うむ、ではその方の思ひよつこなさい

陛下はおもむろに錦の御旗を忍さんに預けました

根回しはその方に任す、
はは

次の日同じ時間に天地君が来ました

君の希望はすべてかないましたあとはその時が
来たら、・・・です

これを君に預けておきましょう

そうです錦の御旗です

「こんな高貴なものをわたくしに
やん事氣なきお方の好意の品です ありがたくお受けしておきなさい
します

では失礼いたします

天地君は、帰つていきました

總理に電話しましょう

総理憎つゝきネルフに一矢報いる機会が訪れましたよ
あとは以前から用意したプログラムを発動しましょう
陛下からもご許可が下りました

あとは政府だけです

わかりました わが政権のすべてをかけて行いましょう
お約束いたします

この世界では 政府財界は愚かやんじとなきお方まで敵に回してい
たようです

さて第一東京市での暗躍を終えて第二東京市に帰つていいく天地君で
した

第一 東京市（後書き）

第一東京市での暗躍のお話でした
ネルフはどこかの世界でも嫌われていますね
ではまた次のお話を待ちください

弁当（醜書號）

レイちゃんへの弁当です
#この話です

弁当

翌朝早くに起きだしたシンジ君 朝¹はんとレイちゃんのために作る
弁当を作り始めました

定番の卵焼き たこさんワインナーと昨夜に作つておいた
煮物等をきれいに盛り付けてお弁当の完成です

レイ喜んでくれるといいなと一コ一コしながら

本当にうれしそうな笑顔をするシンジ君

ミサトの朝¹はんと毎¹飯を用意して

手早く自身も朝食をとり 着替えをしました

ミサトの部屋の前で

ミサトわ～～ん朝と昼の用意しますから適当に食べてくださいね
食べた後の食器は流しにおいておいてくださいね～～～
僕が帰ってきたら洗いますから～～～

寝ぼけ眼のミサトは

ほ～～～～～～～～い返事しながらまた眠つてしましました

やれやれと思いながらレイが入院する病院にきました

おもむろに起き上がり携帯を取り出し電話をするリサト

ターゲットは病院に行つたわ ガードよりじへと粗手にいって電話を切りました

昨夜、リツコと長話したためまた布団に入つて寝ちゃいました

すばらしいミサトさんですね

病院に着く前に青果店によりお見舞いの果物を買って病院に向かいました

レイちゃんの病室に入りました

おはよー レイ加減はどう

おはよー!シンジ君 今日は大分いい

シンジ君の顔を見ると嬉しそうに微笑み答えました

昨日約束したとおりお弁当作つてきたよレイ

ありがとうございます

本当にうれしそうなレイちゃんです

食後の果物も買つてきましたから後で食べよつね

はい

匂いはんまで時間があるので備え付けのテレビを一人で見ながら時間が過ぎて

匂いはんの時間がきました

あまりおこしくないかもしないよ といいながら弁当を差し出す
シンジ

弁当を受け取ったレイちゃん

これすべてシンジ君が作ったの?

うんそうだよ

うれしいありがとう

真っ赤になりながらシンジ君食べさせないとこいつレイちゃん

そうがカモフラージュとはいへがしてるんだつけ
と心で思いながら

真っ赤になりながら返事をするシンジ君

うんわかつたよ

ワープラップ空間を醸し出していました

見ていましたねこのあま~~~~~ーラップ空間

食後の果物もかすむ甘さ

数時間が過ぎ

名残惜しいですが面会時間が終わりました

もう帰らなきゃいけないね

れおしゃうに並びのシンジ君 レイちゃんも泣き出しそうな顔で

行かないでと泣き出す始末

また明日も来るからなきでレイ

うそきつとよ 絶対にね

氷の無表情と言われたレイちゃんがこれほど表情豊かになるとま
作者も予想外です

あいですね~~~~~

また明日ね

うんまた明日

と病室を出るシンジ

Hレベータの前で待つシンジ君

ドアが開くとそこにはゲンジウがいました

シンジ君何してるんだ

そんなこと父さんに関係ないだろ？

レイのお見舞いに来たんだよ

そりゃ

とHレベータから出るゲンドウ

何も言わずに去つていくゲンドウ

うれしい気分をぬき洗された気分で帰つていきましたシンジ君

レイの病室に入るゲンドウ

レイ具合どうかと聞くゲンドウ

氷点下の氷の表情で答えるレイちゃん

問題ありません と答えるレイちゃん

わづレーチャンの心はゲンドウはおつません レイちゃんの心に
住んでるのはシンジ君ただ一人

レイの表情に違和感を覚えたゲンドウですが

氣のせいと思いながら

退院したらまたステーキでも食べにいこうとここ
病室を出てきました

シンジ君 シンジ君また会いたいねばこいたいと泣き出すレイちゃん
病室に泣き声だけがひびいていました

その夜のことです

夕食を食べた後//カトさんごはん//でござりました

シンジ君 月 日から第4中学校にかよつてもう二年
レイも通っているから楽しみでしょうシンジ君

はこと嬉しそうにしていました

ほととぎすの音//の音//の音//の音//の音//の音//

弁当（後書き）

シンジ君とレイちゃんの会話お話し
如何でしたでしょうか

つぎはシンジ君の学校生活のお話です

ではまた次のお話ををお待ちください

登場人物紹介

登場人物紹介（今更ながらですね）

碇 シンジ

本作品の主人公
特務機関ネルフ
階級は特務三等曹官 サードチルドレン
エヴァンゲリオン初号機パイロット
さまざま不幸に見舞われながら元気よく生きる男の子
天地君が突然精神に憑依されても動じないほどの心の強さをもつた
男子

恋愛に関しては驚くほど奥手
レイちゃんとは相思相愛

頭脳は碇 ゲンドウ 碇 ユイの血をひき、成績は常にトップクラス
運動は苦手、チョロはそこそこ
のちに天地君から「光鷹真剣」を指南してもらいます
料理は腕は超プロ級五つ星クラスのレストランが開けるほど
柾木砂沙美樹雷と為を張れる

怒るとミサトさえ怖がらせるほど

柾木 天地

本作品の陰の主人公
天地無用！魍魎鬼シリーズの主人公

本作品ではシンジ君の精神世界でのお兄さん役です

現実世界ではレイの「コピー」体に憑依して陰で暗躍しております

シンジ君の前に現れるかは今のところ未定です

剣の腕前は「光鷹真剣」の使い手達人級

自力で「光鷹翼」を展開できる唯一の存在

シンジ君に剣を指南します

恋愛に関しては驚くほど奥手

白眉 鶩羽

宇宙一の天才科学者

天地無用！魑皇鬼シリーズに出演中

本世界では精神世界で活躍中

レイの「コピー」体に憑依してたまに出てます

マッドサイエンティスト

どんな活躍をするか作者にもわかりません

綾波 レイ

本作品でのヒロイン

特務機関ネルフ

階級は特務三等曹官 ファーストチルドレン

エヴァンゲリオン零号機パイロット

シンジ君の恋人

リリスと碇 ユイとのハイブリッド

但しリリスの遺伝子のほうが強いためほとんどユイに遺伝子情報が

ありません

唯一あるとすればユイの顔についているぐらいい子孫を残すことができます

シンジ君とは超ラブ ラブです

葛城 ミサト

特務機関ネルフの作戦部長

階級は特務三等尉官

作戦は臨機応変な用兵をします

たまに変な作戦を立てますが 意外とうまくいくことが多い
生活面ではすばら ごみに埋もれても平気

えびちゅう命 えびちゅう命 えびちゅう命 えびちゅう命

面白いことに首を突っ込みたがります

ある作品でのヒロイン 悲恋の経験あり

加持とは大学時代の恋人関係

赤木 リツコ

特務機関ネルフの技術部長

階級は技術三等佐官 唯一の士官

葛城 ミサトの親友 大学時代からの腐れ縁

碇 ゲンドウの愛人 のちに離反

徹底的なテクノロジー信奉者

赤木 ナオコ

特務機関ネルフの初代技術部長

階級は死亡しているためなし

マギシリーズの生みの親

マギの中でお休み中

鷲羽にたたき起こされて覚醒

マギのバージョンアップを鷲羽とともににする

元碇 ゲンドウの愛人

現実世界に出るかは未定

碇 ゲンドウ

特務機関ネルフの総司令官

階級は特務一等将官

認めたくはないですがシンジの父親
この物語における不幸の大元締め

頭脳は優秀

シンジ君を不幸に追いやり レイちゃんを氷の無表情に
追いやつた悪人

ユイを復活させるためなら何でも実行する行動派

碇シンジ、赤木親子すら駒にする悪人

ユイ命 ユイ命 ユイ命 ユイ命

碇 ユイ

特務機関ネルフ

現時点では死亡しています

エヴァンゲリオンの基礎を作った科学者

シンジの母親 改心しました

鷲羽によりシンジの不幸を聞かされ改心しました
ゲンドウを憎んでいます

頭脳は天才です

裏死海文書を解読した唯一の人

この物語におけるキー・パーソン

現実世界に出現します 時期は未定そんなに遅くはないです

冬月 コウゾウ

特務機関ネルフの副司令官

階級は特務次席将官

ゲンドウ ユイの大学時代の恩師

ネルフの良心

ゲンドウの言動や行動に頭を悩ます苦労人

胃痛もち はげるかも

ゲンドウの裏の補完計画はしりません

ユイを本当の子供のように思つてます

ゼーレ

人類補完計画を画策し執行する力を持った老人たち

裏の世界を牛耳つてる老人集団

ゲンドウすら駒に扱えるほどの権力と財力を持つた集団

真の裏ボス

こののちほど出る方たち

惣流 アスカ ラングレー

特務機関ネルフディッシュ支部

階級は特務三等曹官 セカンドチルドレン

エヴァンゲリオン二号機パイロット

ヒロイン候補

TV版とは違う性格の持ち主

出会いまではひみつ

洞木 ヒカリ

第一中学校

のちに特務機関ネルフに所属 フォースチルドレン

階級は特務三等曹官

エヴァンゲリオン四号機パイロット

この物語では使徒の憑依はありません

ヒロイン候補

鈴原 トウジ 相田 ケンスケ

出ますが

大けがをして長野の学校に転校します

妹云々はこの物語ではありません

伊吹 マヤ

特務機関ネルフ

マギの専属オペレーター

赤木 リツコの高校大学時代の後輩

科学者としての赤木リツコは尊敬しています

性格はノーマル

「コピー」体の天地君の恋人になる予定

天地君ファミリー

幾人かは出演予定

登場人物紹介（後書き）

階級等はうる覚えですので間違っているかもしません
教えていただければ直します

初登校（前書き）

ご指摘がありましたので作者視点　精神視点　現実視点の書き方を
改变します

作者視点は今まで通りで行間を開けます　精神視点では（　）　現実
視点では名前をはつきり書いたうえでこれから行こうと思います

初登校

さて楽しい病院通いも終わり登校日が来ました

シンジ君今日から学校だね
気兼ねなく中学生生活を送つてね ミサト

はこ//ミサトさん

どんなことが始まるか今から楽しみです シンジ

(いい学校生活が送れるることを祈つてゐよシンジ)
(あつがとうござります兄さん)

じやあ車に乗つてしまつぱりよ~~~~~
ミサト

(ザつまた//ミサトさんの運転かいだよ兄さん、俺も乗つたくない
よシンジ)

なつによそのいやそつな顔はシンジ君

そんなに私の運転する車が嫌なの

ミサト

それはそつでしょつ氣を失つ運転なんて誰も乗りたがりはしないと

思二十九

卷之三

ンジ

じゃあ乗つて乗つて
出発進行 ニサト

いやいや乗り込むシンジ君でした
暫くは普通の運転でしたが後続車に抜かれた途端　田の色が変わつ
たミサトさん

私の前には何人も走らせはしないわよ、ターボオン ミサト

学校に行くだけなのに止まらず走り出るナトさん
ナトの世界の話ですか某漫画の頭文字じゃないんですから

もう氣を失うシンジ君でした

シソウヤシモツモネムナノダラシガナニカワツヨ

これくらい優しい運転なんだから

ミサト

これで優しい運転だなんて本気になつたらどんな運転なんでしょう
空恐ろしいものを感じる作者です ガクブル
地獄の運転も学校まで続きよつやく到着しました

シンちゃん起きなさい 学校に着いたわよ ミサト

シンドジ「JリはどJ? 私は誰?」

なに書かれてるのシンぢやん

リラクゼーション学校

やつと着いた学校に、

(本題)「した處か「たシノシ」

二度とサトさんの車に乗りません! いいですね/// サト ん

わつ わかつたわよ
そ、そんなに言わなくても厳しか
～～～某美少女の戸の戦士風
に答える//ナード

そんなこんなで校内案内や教師紹介を受けたシンジ君

(それじゃあ兄さんまたあとで会いましょう)
(あれにつつて散歩でもしてくんぬよ)
(はいまたあとで)

今日から転校していく碇 シンジ君だ慣れない」ともあると思いつが
仲良くしてあげてほしい 先生

初めまして 第一新東京市から来ました碇シンジです
慣れないうともあると思いますが、仲よくしてくださいねー

さやああああああと真っ赤になる女性徒

一眼見てファンになる生徒

ファンクラブを結成し始める女性徒

此れは売れるところメガネの男子

けつと悪態着く似非関西弁を喋る男子

皆さんそれぞれの感想を漏らしております

男子にはあまり好意を持たれてはいませんね

女子にはいつもでもありませんね

静かにしなさいよー授業が始まらないわよ

私の名前は洞木 ヒカリ このクラスの委員長をしています

わからないことがあれば私に聞いてね

ヒカリ

ありがとうございます 洞木さんこれからもようじくね 一ノ口つ

シンジ

シンジの必殺ほほえみに射抜かれたヒカリ

ヒカリ ジハ ジれからもようじくね ヒカリ

そう答えるのが精いっぱいのヒカリちゃんでした

のちの碇シンジファンクラブ会員番号N-03 洞木ヒカリ

もちろんN-01はレイちゃん、N-02は惣流 アスカ ラングレー

碇シンジファンクラブ御三家の始まりでした

シンジを守り 愛し 慈しむことを誓い合う

鋼鉄の御三家

そんなこんなで波乱の学校生活が始まりました

わいの名前は鈴原 トウジや

僕の名前は相田 ケンスケです

ほくほ碇シンジですよひじく

当たり障りのないあこせつで終わひひ思ひてたシンジ君
行き成りからまれてしましました

わいはおまんを殴らなきゃならん ならんのじゅ シンジ

なぜ僕が君に意味もなく殴られなければならぬの
シンジ

鈴原は委員長のこと好きだつたんだよ
だから黙つて殴られておけよ ケンスケ

そんな理不尽な理由で殴られるわけにはゆかない
僕が悪いわけじゃないじゃない

逆恨みだよ シンジ

ひむといわ黙つてなぐられとけー トウジ

殴られそうになつたとき ヒカリちゃんが割り込み
鈴原を平手でたたきました

鈴原最低ね！男らしいと思つてたけど幻滅だわ
もつ話しかけないでね

たたかれた鈴原君は呆然とほほを触り教室を出て行ってしまいました

おい トウジ待てよと追いかけて行つたケンスケ君です

後に残つたシンジ君たち

男子と女子にされました

鈴原君は鈴原君なりの理由があつての行為だと思つ
男としては分からぬことでもないと思つ
だから彼を許してやつてほしい
お願ひします

シンジ君自身過去にそういうたいじめがあつたので
鈴原君に気持ちがわかるための発言でした
天地君との交流があつてのたまものがです

トウジ君にシンジの気持ちが伝わったかは定かではないですが
教室いる生徒はシンジの言葉を胸に
トウジが帰つてきたら仲良くなつと思つました

ヒカリちゃんは違いました もつとシンジのことが好きになつてい
きました

自分より他人を大事にするシンジが

そんなこんなでトウジとケンスケは放課後まで帰つてくることはな

かつた

初登校（後書き）

初登校とトウジたちのやり取り
うまく表現できたかはわかりませんが
精いっぱいにしました

また次のお話を待ちください

シンジの修行（前書き）

天地君によるシンジのために行つ剣の修行ゆえに
天地君とシンジ君しか出ません
精神世界でのお話ではありません
ちなみに天地君も実体化をしております
読みにくいかと思いますが御了承ください

シンジの修行

まず精神の統一から始めるよシンジ
田を閑じなさーシンジ

耳を澄ませて周りの音を聞きなさい
いろんな音から俺だけの声に集中してこきなさい

どんな音にも動じなこよつに集中しなさい

今は虫の音や風の音や喧騒などがお前の耳に聞けられてくる
その音に惑わされてーるとと思つ
俺の声が聞こえにくくいと思つ

だんだん俺の声が小さくなつてこく

集中してくれば血ずとわかるよひになる

どこのから俺の声が聞こえるか指で示しなさい

そう今はお前の前にいるだが次はどこのかあててみんなさー

違つておこには俺はない

もつと集中しなさい

まだまだ集中が足りない

失敗 まだだ

ほかのことは考えるな！

声に集中しろ！

そう、そうだ今の感覚を忘れるな！

失敗！惑わされすぎだ
気を抜くな！

そんなことでは最愛のものなど守れはしない

まだだ！

お前はそれだけなのか！

甘えるなシンジ！

エヴァは鎧でしかない

身を守るには自分の精神を鍛えるしかない

技術は後からついてくる

自分を信じられないものが他人など信じることはできない

俺も同じことをじつちやんに言われた
自分の力を信用しろ

お前にはできるそれだけの力がある

心から信用しろ俺の言葉ではなく自分の内なる力を

そうだそれでいい

天地君の言葉を精いっぱい追いつちに六角形の赤い色した薄い膜が現れました

できただじやないかそれがお前の心の中の力だ

目を開けてみるシンジ

目の前のものを見てみる

シンジ君は A.T.フィールドを張っていました

兄さん言われて目を閉じました

初めは兄さんの声が聞こえませんでした周りの音に惑わされて

周りの音が大きくて
もつと集中しようと

だんだん周りの音より兄さんの声がかすかに聞こえてきました指を

それとこのので

そうしました

初めは田の前から聞こえたので正解しましたが

次は当たりませんでした

兄さんが怒鳴りました

また指をさしました でも当たりませんでした

もつと集中しないと

もつと何も考えなによい

だんだん兄さんの配を感じつつにならなくなっていました

自分が守ったことと想つことしか考えなくなつてきました

でもまだ当てることができません

レバのことを心から守つたこと
そして自分のことを信じる

元気じみさひじ、信じる

兄さんは同じ修業をしたと

心と体の修行を

確かにエヴァは鎧でしかないそう思います

心が心が大事だと思えるようになりました

もつ自分の声すらも信じていました

兄さんに頼らないで

目を開けると 兄さんに言われた

そこには薄いですが赤い六角形の膜が張つてありました

それが ATTフィールドでした

まだ薄いですがATTフィールド発現でした

そして木刀による修行が始まりました

何度も何度も兄さんに打ち込みますが
紙一重で交わされてしまいます

さすが兄さんと感動したら 撃ち込まれました

なにほーっとしてる 集中しようと叫んでるだろう

本氣で殴られました

もつと打ち込まないといけないな

夜になるまで何度も何度も兄さんに修行つけてもらいました

驚いたシンジもう木刀を握れるくらいに成長したんだな
俺の場合じっちゃんに木刀許可してもらつの

何年もかかったのに

でもまだまだな

気を抜くとすぐ俺に打ち込まれてこぶを作る

ある意味才能だなシンジの場合

悪党とはいえゲンドウの血筋恐ろしいなこのまま成長すれば
俺など足元にも及ばない位強くなるな

そうです ゲンドウの遠い祖先は何人の剣豪を輩出する血筋です
文武両刀を地で行く血筋だったのです

ですが時代が過ぎるうちに血が薄まり頭脳だけで身を立てる人が
多く出てきて ゲンドウといつ悪党が出てきたのです

しかし隔世遺伝でしょう
シンジ君に現れたのでしょうか

もじこのような時代じゃなければ決して現れることはなかつたでし
ょうね

シンジ君は

時代が生み出した稀有の少年それがシンジ君

これからは学校が終わつたら修行するからなシンジ

はい！兄さん

僕は強くなつて見せるレイのために

夕田に向かつて誓つシンジ君でした

シンジの修行（後書き）

シンジ君の修行編でした
なかなかうまく表現ができません
作者の力不足かもしません

ではまた次のお話を待ちください

レイの退院（前書き）

レイさんの退院です

レイの退院

レイちゃんの退院の日が来ました

待ち遠しい日々でしたレイちゃんにとっては
早くシンジ君と登校したいとながっていましたから
でも迎えに来たのはシンジ君じゃありませんでした

赤木博士が司令に命令されて迎えにきました
無表情のまま病院から連れ出されて司令が待っているレストランまで
連れていかれました

レイ退院おめでとう セットプランの実行に移れる
お前も余計なことを考えずこれからを過ごしなさい ゲンダウ

(以前は司令に声をかけられただけで心が温かくなってきたのに
今は司令の言葉もうれしくない こんなところにいたくない
心が寒くなつてこのを私は感じています
シンジ君といふと心がポカポカしてもつとシンジ君とお話ししたい
シンジ君ともつと話たいと感じている私です)

レイ

どうだレイこのレストランは最高級の料理を出す店だ
うれしいだらう

ゲン

ドウ

美味しいです司令

レイ

(エ)の料理を食べてもちつともおいしくない シンジ君の作る弁当が
食べたい シンジ君の料理が食べたい
心がそう叫んでいます 泣いています
シンジ君 シンジ君シンジ君
でも言わないと司令が不機嫌になるのでおいしいと言わざるを得ない
(イ) レイ

レイちゃんにひとつ居心地の悪い食事時間です 早く時間が来てほしいと
思うレイちゃん
なによりもつといやなのが赤木博士が一緒にいることがひとつでも
不愉快になるレイちゃん

(いつも私のことを実験動物のような目で見ています
以前の私ならそんなに気にもしなかったのですが
シンジ君と知り合ってからは赤木博士の視線が嫌で嫌でたまらない)
レイ

御馳走様でした 司令おいしかったです

レイ

また来よつ レイ ゲンドウ

ではこれから私は赤木博士に用があるので
レイはタクシーに乗つて帰りなさい

ゲンドウ

はい わかりました司令 これで失礼します レイ

タクシーが来たのでレイちゃんは帰りました

(途中で気分が悪くなり運転手さんにお願ひして
停車してもらつて私は公園のトマトで食べたものをすべてはいてし
まいました
口の中が気持ちが悪く公園でうがいをして
タクシーに乗りました 私のマンションではなく
シンジ君がいるマンションに行き先を変更をお願いしました)
レイ

シンジ君のマンションに着きました 早くシンジ君に
会いたいと思つてレイちゃんでした
シンジ君は今日レイちゃんが退院することを知りませんでした
ミカトさんも知らなことでした

シンジ君 シンジ君 シンジ君 シンジ君 レイ

(激しくドアをたたきシンジ君の名前を連呼している私
呼び鈴も押すのももどかしいほど焦っていました)

レイ

何事かと思いドアを開けたシンジ君
行き成りシンジ君に抱き着くレイちゃん
安心したらなでいたレイちゃん

レイ ベビーハートのそんなんに泣いて今日退院したの? 何がそんなんに悲
しいの
訳を話してレイ シンジ

退院したら真っ先にシンジ君のところに行きたかったの
でも司令に無理やり連れ出されて レストランで食事して
赤木博士にいやな目で見られて 心が悲しくなって 公園のトイレ
ではいて

うあああああああああああああああ

レイ

そうか そんな目にあつていたんだね 知らなかつたよレイ

退院日を僕が知っていたら真っ先に迎えに行つたのに

つらい思いをさせたんだね ごめんよレイ

僕はここにいるから安心していいよレイ

シンジ

うん シンジ君 レイ

今は僕以外誰もいないから安心して
ミサトさんも本部に行つて今日は帰つてこない
だからね 泣き止んでレイ

シンジ

女の子の涙にはとにかく弱いシンジ君
天地君も同じでした

(兄さん レイをここにとめてもいいね
このまま返したら レイがおかしくなるかもしね)
(うんそうしたほうがよさそうだねシンジ
シンジの恋人なら僕にとつても妹分だからね) 天地

自分のことは棚に上げてる天地君

今日は腕によりをかけてレイの退院祝いをしなくちゃ
楽しみにしててレイ

シンジ

真剣に料理してるシンジ君をついつりした目で見てるレイちゃん
おもむろに立ち上がりつてシンジ君の料理を手伝い始めました

レイ向ひのリビングで待つていいよ
テレビでも見てて

シンジ

いやー、シンジ君のお手伝いがしたい
だめなの？

出ましたレイちゃんのお願い攻撃
断ることができませんねシンジ君は

じゃあ テーブルにお皿を出して僕が盛り付けていくから
ンジ

はい シンジ君 レイ

うれしそうにテーブルにお皿を出していくレイちゃん
新婚さんみたいで
天地君もあきれるほどアツアツでした

(やれやれレイちゃんもうれしそうにしてるな
シンジもうれしそうだよ俺のいる場所ない) 天地

といつか今はシンジ君の精神にいる天地君
逃げる場所がありません 『愁傷様天地君

天地、は今鶯羽さんのラボで眠っています
天地、とはレイちゃんのコペー体のことです

楽しい食事時間を送ったシンジ君とレイちゃん

早々もう一人の同居人を紹介するのを忘れてたシンジ君

ベンベンおいで紹介したい人がいるから
シンジ

ワビングの冷蔵庫から出したペンギンのペンペン

レイに紹介するね 温泉ペンギンのペンペンってこうんだ
仲良くしてあげてね シンジ

こんにちはペンペン 私 紫波レイとの
仲良くなれ

ペンペン 器用に糸をあげてあります

人間の言葉がわかるペンギンなんだ
シンジ

そう 賢いのねぺんぺんつて
レイ

そりだレイお風呂に入ってきた

シンジ君もこつしょ、 、 、 、 、 、 、
レイ

上田使ひでシンジを見ぬレイちゃん

ダメダメダメこれだけはレイのお願いでも聞けないよ
お願ひだから聞き分けてレイ

しぶしぶお風呂に向かうレイちゃんです

あ～～～びつくりしたつ レイがあんなこと言つなんて驚いた シ
ンジ

（俺も驚いたよ よく我慢したなシンジ）

でもまだまだ甘いシンジ君と天地君の二人です

シンジ君もお風呂に入つて 疲れを癒してきました
お風呂も入り楽しい時間を過ごした一人ですが
もう休む時間が来てしましました

レイ 寮間ににお布団敷いたからソロド休んで シンジ

シンジ君も戸締りをして自分の部屋に向かいました

眠りに入ろうとしたシンジ君行き成りふすまが開き
そこにレイちゃんがたつっていました

シンジ君さみしいから一緒に寝て お願いだから
シンジ君 ね お願い

レイ

今度は断れないと思ったシンジ君
おいでとレイちゃんを手招きました

(絶対に手を出すんじゃないぞ いいな シンジ もし手を出した
ら承知しないぞ) 天地君
(もちろん手を出しませんよ 大切にしたいレイに悲しい思いはさせたくないよ兄さん) シンジ
(それでいい、それでいいシンジ) 天地君

向ひにこる天地の恋人たちには手を出せない天地君
よく言えたものですね

横で寝ているレイちゃんのぬくもりや吐息を感じながら
悶々として寝ることができないシンジ君でした

(頑張れよシンジ) 天地

勝手なことをいう天地君でした

レイの退院（後書き）

レイちゃんが退院してきました
ゲンドウに悲しい思いをして
泣きながらシンジ君のマンションに来たレイちゃんの
お話をしました
最後はラブライブで終わりました よかったねレイちゃん
ではまた次の話ををお待ちください

レイの登校（前書き）

レイちゃんの登校とノイケちゃんの登場

レイの登校

今日からレイちゃんが再登校します、待つべからず田舎へ向かってやるよ
んにま
いとじーシンジ君と一緒に勉強できます

「おはよう」

レイちゃんがあいさつしました
みんなが驚いた顔をしています
それはそうでしょう今までレイちゃんがあいさつしたことなかつ
たんですから

「どうしたのみんなそんなに驚いておかしいの私があいさつするの
が」

こんなにしゃべるレイちゃんをあんぐつとした表情でみんなが見て
います

「おはよう、綾波さんけがの具合はどうなの、大丈夫?」

「おはよう、洞木さん、ありがとうございました、心配か
けじめんなさい」

「おせよひ、みんな、レイ出でたんだね、今日から頑張る」

「おはよひ、シンジ君、うんがんばる」

微笑みを浮かべて挨拶していました

「おはよう、碇君、」

「おはよう、洞木さん、レイのけがまだよくなーから、サポートよ
うじへ」

「うそ、任せおこて、碇君」

「レイ、洞木さん」、レイのことがお願いしてたんだ、女子は女子に
任せたほうがいいと

思つたから、以前お願ひしてたんだ

「僕にできる」とがあれば、何でもするけどね、そんな顔しないで、
レイ

少し不機嫌そうなレイちゃんです

「やうこいとは先に言つてほしけな、シンジ君」

「綾波さんやうこい」とだから、仲よしまじょひれからむ、ヒ
カリつて呼んで」

「あつがとう洞木さん、じゃなくてヒカリさん」

「――と、一人のやり取りを見ているシンジ君
周りのみんなも一人の周りに集まつてきました

「みんなもよろしくねレイのこと見てやつてね」

レイちゃんの笑顔が見たい男子は率先してするでしょう
女子はシンジ君にいとこらを見せたいがために頑張るでしょう

「碇君、綾波さんの」とはクラス全員でお世話するからね、ね、み
んな」

男女子が一丸になつた瞬間でした

しかし、その輪の中に入らない二人組がいました
そうですあの二人です、相田君と鈴原君です
以前のやり取りがあるため入るに入れない状態です

洞木さんだけは一人のことを許してはいませんでした

クラス委員である彼女は必要な会話だけしてあとは何も言わないで
クラスのみんなも洞木さんを気にして喋らうとはしていませんでした

自業自得とはいえ憐れとは思いますがいたしかたありません

「洞木さんもう彼らを許してあげてよ、僕からもお願ひするからね

ヒカリちゃん

ヒカリと呼ばれて内心うれしくなつてゐる ヒカリちゃん

「シンジ君がそういうなら、鈴原君、相田君が真剣に謝るなら」

後ろで女子が前の顛末をレイちゃんに話していました、
事の顛末を聞いたレイちゃん氷の無表情になり一人をこらんでいました

した

「レイ、そんな顔しないの、僕ももう氣にしないから」

「シンジ君がそういうなら私は、何もいなわシンジ君」

「ありがとうレイ、わかつてくれて」

氷が解けてまたにこにこしてきました

「鈴原君、相田君、謝らなくていいからね、僕ももう向も思つて
はないから」

「碇、ホンマにすまんワイがわるかつたこの通りや
頭を地面にするくらいの勢いで謝る鈴原君

「碇、本当に」「めんな、反省してる」

相田君も鈴原君と同じよつにして謝っていました

「碇、ワイのこと殴つてくれ、そりしてくれるとワイの男がたたん

「碇、トウジはこんなやつなんだ、殴ってやつてくれ」

「いや、僕は、鈴原君を殴らない、だつてもう友達じゃないか、殴る理由がないよ」

「碇あんたはホンマの男や、惚れたで」

「じゃあ僕のこと苗字じゃなく名前で呼んでほしい、僕も鈴原君もトウジって呼ぶから」

「シンジ、これからもよいしょしたって」

「相田君も同じにしてくれるかな?」

「わかつたよシンジ」

「よひしへ、ケンスケ」

クラスが一丸となる瞬間です真のクラス一丸が完成しました

(良かつたなシンジ、丸く収まつて)

(ええ、兄さん、本当に良かつたです)

「授業を始めるぞ、とその前に」

担任の先生が教室に入つてきました

「男子、喜べ、新しい副担任を紹介するから」

「神木先生入つてきてください」

きれいな女性が教室に入つてきました

「神木 ノイケです、短い間ですがよろしくお願ひいたします」

(ノ、イケ、さん、どうしてここに、、、、、)

(兄さん、ノイケさんつて兄さんの世界にいる婚約者候補ですよね)

(今は答えたくない、シンジ)

(天地様、ちゃんと紹介してくれないとダメですよ)

(はじめまして、シンジさん、神木ノイケ樹雷ですよよろしくお願ひいたします)

新任のノイケさんにみんなが質問してたとき

精神世界ではこんなやり取りをしていました

(もしかして、鷲羽ちゃんの仕業?)

(それもありますけど、瀬戸様の要請でもあります)

(瀬戸様の、、、、、、ただでは済まないよシンジ)

(瀬戸様つて前、兄さんが言つてた樹雷の鬼姫といわれる樹雷の裏の最高権力者ですよね)

(そうです、シンジさん、瀬戸様に気に入られて無事に済んだ方はだれ一人いません、樹雷皇ですら瀬戸様にはかないません)

(、、、、、そんなすごい方なんだ、僕も気を付けないと)

(もう遅い、お前ももう田をつけられている)

(げつ、、、、、、助けてください兄さん)

(俺にはどうする」ともできないよ、あきらめシンジ)

(、、、、、、、、、)

(瀬戸様よりシンジさんに)

御託を聞いています

(シンジちゃん、そちらがつまへいつたらひかるこおこで、だそうです)

(断つたらどうなるかわからぬいわよ、ほつほつほつ、です)

(にいさあああんんん)

(シンジ、骨は拾つてやる)

(天地様にも御託があります)

(天地ちゃん面白いことになつてゐわね帰つてきたらしつかりお話してね、だそうです)

(終わつた、終わつてしまつた、帰りたくないあちらには)

(にいさあん、しんじいいいい)

(詳しい話はまた夜にお聞きしますね天地様)

といとん、不幸体质のシンジ君と天地君でした

隣のレイちゃんは一々一々とシンジ君を眺めていました

シンジ君は憂鬱な気分で放課後を迎えるました

レイの登校（後書き）

レイちゃんの登校シーンと
鈴原君相田君との仲直り
ノイケさんの登場をえがきました
面白くなつてきましたね

ではまたのお話をお待ちください

コラボレーションの密談（前書き）

下校中のシンジ君とレイチャんの会話
リビングでおはなし

コヒングでの密談

憂鬱な気分のシンジ君「かたや二〇一〇気分のレイちゃん
一人そろつての帰宅している途中での会話

「どうしたのシンジ君、新人の神木先生を見た瞬間
す」「驚いた顔してたけど」

「前に話したことあつただろうレイが入院してる時に」

「ええっとシンジ君の精神の天地さんという方がいるって話」

「そり、天地兄さんがいるって話したよね」

「うん、きいた」

「実は、あの新任の神木先生、兄さんの婚約者候補なんだ」

「えつ、向こうの世界にいるつていう天地さんの・・・・・・」

「そり、何らかの方法を使って入り込んできたんだ」

今、天地君はシンジ君の精神に憑依して一人の会話を聞いてます

「カニ頭の鷺羽さんが何らかの方法を使ってこちらに呼び寄せた」

「カニ頭はひどいな、シンジ殿」

鷺羽ちゃんの登場

「わっ 鷺羽ちゃん、驚かさないで下さいよ」

「わっ 鷺羽ちゃん・・・・・びっくりした」

行き成り出てきた鷺羽ちゃんに驚く一人

「こんにちは、シンジ殿、レイちゃん」

挨拶を返す二人

「天地殿の場合、美星の介入、実験の失敗による爆発の結果こちらに無理やりとばされたけど」

「私やノイケ殿の場合は案外簡単だつたんだよ、天地殿といふ道しるべがあつたから、それさえ探せればね」

「見つけてしまえばあとは簡単、向こうの入り口にポイントマークーを作成し

「こちらの出口にポイントマーカーを打ち込んで道筋さえ作ればいい」

「簡単な作業で、探し出すのに手間取つてしまつたけどね」

「でつ私が先にこちらにきて作業したつて寸法で、シンジ殿であとからノイケ殿が来るといつ寸法さ」

「あの時はこちらにまだ実体化できるものがなかつたからアストラルボディー応急的に実体化できるようにして

あそこへいた看護婦さんの衣装を借りて着てたの、あの時は

「私以外の人選はかなり揉めたんだよ、リョウコは問題外あの子が来たらたぶんシンジ殿や天地殿がいっぱい困るよ」

「アエカどの場合、問題はないんだけど、やっぱり問題を起こす可能性がある、、、かもっ？」

(リョウコ)アエカさん確かに問題あるあるかも)

シンジの中でつぶやく天地君

「美星は論外、天地殿が飛ばされたそもそもその原因あの子がかわってうまくいったためしがない、リョウコ以上に危険な存在」

話しか聞いてないシンジ君でも想像できる

「ササニちゃんがいなくなつたら、向こう餓死するよ」

「最後に残つたのがノイケ殿というわけさ、柾木家の常識人神木ノイケ殿」

(確かに、ノイケさんなら安心できるなシンジ)

(そうですね兄さん)

(でもびっくりしたよ、行き成りノイケさんが来たから)

「シンジ殿、頭の中で会話しない」

シンジを指す鷺羽ちゃん

「そりそり、レイちゃんに断らずにレイちゃんズの数人を使わせてもらつたよ」

「それは鷺羽ちゃんに、私の姉妹預けましたから構いません」

「今実体化してるのは、天地殿、ノイケ殿、と私、予定ではユイ殿、あと数人さ、」

「安心しなさい、シンジ殿、ものすごく反省して改心してるから」

「今はエヴァの中でもユイ殿は眠ってる、実体化の準備は済んでるあとはいつするかを待ってる段階さ」

黙つて一人の会話を聞いているレイちゃん

「え？ サルベージは失敗してるんですよ失敗の結果が私なのにつづいてる」

「何度も失敗してる、 、 、 、 、 それがあの地下にいた魂のない私の姉妹たち」

シンジ君に抱き絞められながら泣くレイちゃん

「泣かないのレイちゃん」

「レイちゃんズのかすかな意識が言つてたよ、私たちのことは
気にしないあなたの幸せだけを追つてつて」

「以前にも言つたと思つけどレイちゃん、もう一度と自分の事
予備だとか失敗作とか言つたり思つたりしちゃダメだよ、いいね！」

レイちゃん

レイちゃんに優しく諭す鷺羽ちゃん

やつじつと優しく諭す鷺羽ちゃん

「あとは中で話しましょっ

リビングにて話す鷺羽ちゃん

「その時のカルベージは失敗するべくして失敗したのを
それはそつた、ゴイ殿はその時戻る意思はなかつたし、
ゴントロールしてたのが、今はマギの中にいる赤木ナオ口殿
ゴイ殿のに嫉妬してた赤木ナオ口が成功をせるわけないを
これが真実を、シンジ殿、レイちゃん、」

「いいレイちゃん、レイちゃんは生まれるべくして生まれたんだよ
でなければ、シンジ殿に会えなかつたんだよ、シンジ殿に会うのは
レイちゃんに課せられた

運命なんだよ、だから、シンジ殿と幸せになつなさい、それがレイ
ちゃんズに対する答えだよ」

「はい、はい、はい、絶対に幸せになります」

返事をしながら泣いているレイちゃん

「なぜ鷺羽ちゃんがそのことを知ってるんですか」

問い合わせるシンジ君

「ヒガアのゴイ殿に、マギのなかにいる赤木ナオ口殿に聞いたから

「シンジ殿に言つておくな、エヴァも、マギも私の手のつかうあるから

安心していいよ、マギは裏切らないよ、シンジ殿
エヴァはコイ殿がいるから味方だよ、シンジ殿、次にエヴァにのつたらおかあさんで

呼んであげなさい、きっと答えてくれるよ

「アーニャの机に赤木リッシュもいたいと寝返つてくれるよ

赤木リッシュと聞いていやな顔をするレイナちゃん

「レイちゃん大丈夫だよいやな顔しないでも、以前の赤木リッシュではなくなるから」

半信半疑のレイちゃん

「そうですか? 、 、 、 、 、 、 鶯羽ちゃん」

「任せなさいって私は 宇宙一 の天才科学者だよ
「細工は流々仕上げを」ハーフジラつて」

「ねつそこにいる天地、殿、」

いつの間にか部屋の中にいた天地、君

「大変でしたけど何とかなりそうです、鶯羽ちゃん、」

「マギのなかのナオ」さんが今、説得してると思っています、あと少し

だと思います」

そう答える天地、君

「わかつたよ天地殿、」

「わかつたねノイケ殿、事情は今聞いたら通りだから学校のほうと
ネルフのサポート任せたよ」

「わかりました、鷺羽様」

また、いつの間にカリビングにいるノイケさん

レイおやんせシシ君の膝の上にいた間にはおねむいておられます

「遅くなつたので、今日は私がお料理しますね。みんなさん」「じゃあ僕も手伝いますノイケ先生」

「シンジさんはそのままレイさん起」すのは忍びないでしょう
それと家では、教師じゃないんですからノイケでいいですよ」

「わかりましたノイケさん」

ノイケさんがいそいそと夕食を作り始めました

今田も徹夜のマサトさんです

えびちゃんの料理が食べたい」と

エルフの自分の執務室で書類に埋もれながら、わめいて勤務していました

コペングでの密談（後書き）

下校中のお話をヒビングでの密談
レイチャんズの意思のお話でした

次のお話をお待ちください

マサニラの公使館（マニラ大使館）

マサニラの公使館にてアントニオ・コルテス・カサノバ
ナシモ・アントニオ・コルテス・カサノバ

シンジ君たちがリビングで密談してる頃、リツコさんの執務室では驚愕のことが起っていました

「第三使徒のサンプルねこれが、あとは分析をだけね、」

自身の執務室に備え付けてる「コーヒーメーカー」から「コーヒー」を持って
端末の前に戻るリツ「さん、マギからのアクセスがあるのに気が付
いた

「あら、マヤからなのね」と、こつもの通りマヤからのメールとおもてを開いた

「なにが…」ヤマからじきない、

そのメールのアクセス元を調べたリツ「さん」、アクセス元はマヤの端末から出されたものであつた、しかも今の時間はマヤは家にいる時間、いないのは確認済みです

しかし、出されたものは、間違いなくマヤの端末からであつた

驚愕しながらメールの続きを読む始めた

「拝啓、赤木リツコ博士、私は白眉鷺羽、知らない名前の人間からのメール

さぞ驚いてると思います、いまからあなたが読む内容は

貴方のアイデンティティー壊す内容です、今のゲンドウとの関係を維持したいなら
このまま破棄しなさい、でも、疑つてゐるのなら今から示すアドレスにアクセスしなさい』

メールの中ほどに示されたアドレスをクリックするリツコ
そこにはリツコの想像を絶する内容が示されていた、リツコの思考のする範囲を逸脱する

内容であつた、ゲンドウがこれまで行つた犯罪の証拠と、自身の母親赤木ナオコとの関係そして殺害の証拠、そして自分とゲンドウの関係を、そしてレイの過去が隠すことなく

明かされていた

「そんな、そんな、そんなことがあるわけない、あるはずがない
私はゲンドウに騙されていたの嘘よ嘘 嘘よ信じられない信じられない」

呆然としたリツコ、そして意識がなくなった

気を失つていたリツコが気が付いたのは午前3時を過ぎたころだった

そしてもう一つの端末が立ち上がつていた

「つっちゃん、つっちゃん、リツコ、
もう一つの端末からの呼び掛けに気が付いたリツコ
そこには亡くなつたはずの母ナオコの姿があつた
「知つてしまつたのね、できれば知らないほうがあなたのためであつたのに
りつちゃん」

「母さん、母さんは死んだはずよ、ちゃんとお葬式もしたのになぜ

セレニティの？

おじえでかあさん

「確かに肉体はもうこの世にはない、でも科学者ならバックアップを取るのは常識でしょう

ましてや、生体コンピュータであるマギを作ったのは私、だから肉体の一部分をマギに残すくらい

訳ない、かんたんなことよ

「それにケントウに殺される恐れのあつた私は余計にハックアッフ残さなければならなかつた」

「なぜマギが三回のコンペターであるか考えれば、おのずとわかるはずでしょ

女、母、科学者わたしのおもいをマギにとつておいたの
そしてある方のおかげでただのコンピュータであつた私を生きてる
人間に戻してくれたの

肉体は機械だけど生きてる、生きてるのよ、わかつた、りつちゃん」

「母さんの事情は分かつたわ、じやあかあさんは司令に殺されたの？」

「そう、ゲンドウに殺された、完成したMAGIから突き落とされ
て」

「わかった、りつちゃん、リツ「私のかわいい娘」

「今ならまだ間に合うわゲンジウとの関係を終わらせなさい、まだ
わが二十九歳の娘の夫婦の如」

間に合うから

まだそんなに深くかかれでしょ。今なら
たしかにレインちゃんへ

許されるわけではないけど、まだ間に合つ、わかつて、リツコ、私
のように殺される前に」

母であるアサヒからの衝撃の事実に母の殺害、もつわながわからない
リツ

最近のゲンドウの行動、レイにこだわる姿、シンジに対する姿勢、考えれば考えるほどすべての謎が

きちつと解けていく
暫く潜考するリツコ

「わかつたわ、母さん、私はどうすればいいの？」
「ありがとうつちゅん、そうさ、表面上は今ま

いきなさい

ユリティーカード
を作りなさい、

白眉鷲羽、神木ノイケ、
柘木天地、のセキュリティカードをランク
はりつちゃんと同等の

タニウチ

「わかつたわ、母さん、その方たちはどういった関係なの？」

「サードインパクトを防ぐために絶対必要な方たちよ、人類補完計

画を

阻止するため協力を願ったの、そしてシンジ君とレイちゃんを守ってくれる方」

「わかつたわ」

「最後に、レイちゃんのことだけば、あなたが学生の時したってた

女の子がいたでしょ

あの子が今のレイちゃん、かわいがつていたでしょ、りうちゅん」

「あの子が今レイ」「結局逆恨みしてたのねレイをいえユイさんを、それをレイに責任

転嫁してたのね

「ロジックじゃないわね人生って」

רְאֵלִים וְעַמּוֹדָה, רְאֵלִים וְעַמּוֹדָה.

「やべや、あつこさん、おまえは時聞か

卷之三

「お木み、かあさん

「お休み、りつちゃん」

端末のすべての電源を切るリツ「さん、そして執務室の備えられて

い る

「マギの中のナオ」「さんは鷺羽ちゃんにメールを送りました
「子猫ちゃんを手懐けました、あとは鷺羽ちゃんにお任せします」
メールを受け取った鷺羽ちゃんはにやりと微笑んで、自身の端末操作に戻りました

ルノウノテルヌスルノリツノトキノ

まだ終わらない書類の束に愚痴と涙をこぼすミサト

おわらなこ

卷之三

四庫全書

そしてどこからか聞こえる音「ちーん」

憐れミサトさん

マギの世界、コシノヒロの嘘（後編）

眞実を知るリツコさん、ゲンドウからの離別を約束した
リツコさん、協力を約束するお話をでした

では次のお話までお待ちください

ある日の天地（前書き）

偶然のアクシデントに見舞われる天地君

ある日の天地

シンジ君とレイちゃんが学校に行っているあいだのお話

一つの暗躍が終わった天地、君、気晴らしに町を歩いてました
そして徹夜明けのマヤさんにぶつかった

「きやつ」

「大丈夫ですか、お姉さん」

手を差し出す天地、君

「『めんなさい』、よそを向いて歩いてお姉さんに気が付かずに
ぶつかってしまいました、『めんなさい』」

「いえこひらひやん、私のほつも氣が付かなかつたから、気にしない
で」

「いえこひらが悪いんですからお姉さんが来ている洋服が
汚れてしましました弁償させてください」

偶然、天地君が持っていたジユースとクレープが見事にマヤの洋服
をよじりてしましました

しかも着ていた洋服が薄手のTシャツにだつたものだから余計透け
ていました

「きやあ、見ないでお願いいだから、ね、みないで、」

とつたに隠したものだから余計に汚れが大きくなつて悲惨な状態に

なり

もっと動けなくなりました

真つ赤なかおの天地君自分が來ていたジャケットを差し出す

「あのーとりあえず僕のすみませんがこのジャケット来てください
お願ひします」

真つ赤になりながら天地のジャケットを受け取るマヤ
見えないよう素早く着るマヤ

「ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい」

必死になつて謝るシンジ君

「もうそんなに謝らなくてもいいですお互い不幸な事故なんですか
ら」

必死になつて謝る天地がかわゆく見えるマヤ

「お詫びにお姉さんの洋服を買いに行きましょ」

「いいえいいえそんなの気にしないでいいからと」必死に断るマヤ

「そういうわけにはきません、迷惑をおかけしたんですから
当たり前のことです」

と、引き下がらない天地君

あまり男性とお付き合つことがないマヤは必死に断ります
暫く問答を繰り返した二人、
やがて根負けしたマヤ

「わかりました、」厚意をお受けします、」

「ありがとうございます、お姉さん」

「名前教えてもらえますかお姉さん、いつまでもお姉さんと呼ぶのもいけないですから」

「僕の名前は桝木天地といいます」

「私の名前は伊吹マヤです」

「マヤお姉さんですね」

とこり答える天地に、男性経験のないマヤが落ちるのはそんなに時間がかかるなかつた

「なんて素敵なお顔できるの、シンジ君と同じお顔ね、天地君というのかわいい」

と、思いながら一緒に洋服を買いに行くマヤと天地

「これなんかどうですか？マヤお姉さん」

「ちょっと派手かな、天地君」

「じゃあこっちはどうですか」

結構まよいながらマヤのために洋服を探す天地君

「なんか恋人同士の会話みたい、きや」

と思いながら真っ赤になつて自分の洋服を探すマヤ

ようやく天地君の選んだ洋服に決めたマヤ

お店で着替えて会計をするとしたマヤ

もう天地君が支払つた後でした

「わるいわ、天地君高校生でしょそんな大金支払わせて」

「いえ、僕が悪いのですから、支払うのは当たり前ですマヤお姉さ

ん

「でも、 、 、 、 、 、 、 じゃあこの後暇ですか天地君」

「ええ、 特に何もする」ともないですから時間はあります、 マヤお姉さん

と笑顔で答える天地に完全にノックアウト状態のマヤさん

おこおじ、 、 、 、 男性に免疫なさすぎですよマヤさん
ところが高校生の天地君に一目ぼれしてしまつマヤさん

「ならこれから食事しに行きましょう、 幸いおこしに店知ってるか
ら

「えつそれこそ悪いですよマヤお姉さん」

「いいからいいから」

無理やり天地君を連れて行くマヤさん、 男性恐怖症はどうこつた
と叫びたい作者です

いつも男性に対し臆病なほど奥手のマヤさん

連れていかれたのこじんまりとした清潔そうなレストラン

「ここのお店私のお気に入りなのよ、 たまに先輩と来るのよ

「そうですか、 ちなみにその先輩って男性ですか」

「違うわよ、 女性よ、 私の尊敬する科学者よ」

科学者と聞いて少し引く天地君

「大丈夫、 素敵な女性よ先輩は、 天地君、 なんか天地君とお話

してると今いる職場の上司の「子息と同じ感じがするのよね

「そうなんですか、 一度会いたいですね、 その子に」

「かわいいわよ、 弟がいたらあんな感じなのかな」

「天地君は違うわよ」

真っ赤になつて口もるマヤさん

楽しくおしゃべりして食事を楽しむ一人でした

帰り際にマヤさんは自分の端末のメールアドレスと携帯の電話番号を天地君に教えていました
天地君も自分に「えられてあるメールアドレスと携帯の電話番号を教えました

「今日ははじになりました、マヤお姉さん」
「素敵な洋服をありがとうございます、天地君」
「また会ってくれますか、天地君」
「ええ、時間が許す限りマヤお姉さん」

この日を境に天地君に急速に接近していくマヤさん
何度も「デートしますます好きになつていったマヤさん
そして天地の素性を知つても驚くこともなく天地君に協力していく
マヤさんでした

偶然に知り合つた二人でしたがつまくいってよかつたよかつた

ある日の天地（後書き）

マヤさんと天地君が知り合つお話でした
マヤさんの大胆さに驚く作者でした

また次のお話を待ちください

冬月の過去（前書き）

冬月副指令の過去の回想

冬月の過去

「私は特務機関ネルフの副司令である冬月コウゾウ」

（（一〇年前の職業は京都大学形而上生物学の教授をしていた私が主催する形而上生物研究室に一人の生徒が入ってきた

その生徒の名前は碇ユイ

「ユイ君は名家の碇家の長女で天才の名をほしままにしている才媛、名家の子女というのをあまりひけらかさない気さくな女性学部は違うがその友達には惣流・キヨウコ・ツェツペリン、その先輩で赤木ナオコ」

という三人がよく私の研究室に入り浸っていた」

「教授）教授は奥さんもらわないのですか？ユイが立候補しましょうか？」

「教授に似合うのはこの私赤木ナオコですわ」

「プロフェッサーに似合うのはこのワタシネ、惣流・キヨウコ・ツエッペリンイガイにはナイね」

「おいおい年上をからかうもんじやないよそれに結婚できなわけじゃないんだよ
好きな女性の一人や二人いないわけじゃないんだよ

「それは知っていますよ先生がおもてになるのは知っています・・・

」

「父が言つてましたよ、冬月は昔からもててたからな、あいつは同窓生の中で

最後まで結婚しなかつた唯一の男だつたと
もてる癖に結婚しないから余計に見合にさせらるんだつて張り切つて
見合い進めて「」とく断つていたからなどいじめまして

「ははは、コイ君の父上は「」とに私に見合に進めてきて
るいまもね

困つたものだ君の父上には

（しかし私の心中にはある女性が住んでいる、コイ君のお母さん
コイ君と違い普通の女性だった、優しくて明るくて穏やかな笑みを
浮かべる

タンポポのような女性）

（やうあればいつのことだつたかなと私が高校生の時だつた
ある雨の日に、傘を忘れた私はある本屋のまえで雨宿りしていた
その本屋に偶然その子が本を買いに来ていた、あわてていたのか
私にきずかず私にぶつかってきた、私は勢いを殺すことができずに
こけてしまつた、制服はびちょびちょになつて汚れてしまつた

私は立ち上がり、「君、怪我はないかい、あわてていたようだけど」

その少女は言つたのは、父に頼まれ本を買いに行く途中で雨に会い本
屋に飛び込んだ
所、私がいたということだつたらしい

その少女は必死になつて謝つてきた

「「」めんなさい、私が飛び込まなければあなたはねなかつたのに

本当に「」めんなさい」

幸いにしてけがもなくただ濡れただけだから
「気にいしないでいいよ」
とその女の子にいい、もつといいやどりせ濡れてしまつたから
と足早に、雨の中を去つて行つた、
もつ会つこともないとその日のことは忘れていた

それから半年後、私はまた彼女に会つた、

京都大学の入試試験会場で

私は驚いた、あの時の女の子がそこにいたから
「あの時の君、君も京都大学に入学するのかい？」
私に声をかけられてびっくりしていた女の子

「その節はどうも迷惑をおかけしました」

「はい、父がこの大学に勤めているので自然と田指すようになります」

した

「ちなみに聞きますがお父様のお名前なんと言つんですか？」

「父の名前は碇」と申します」

形而上生物学という学問の世界では超有名な学者で京都でも指折りの名家としても知られる

私も彼を目指して形而上生物学学者になるためにこゝを田指して勉強していました

なんといつ偶然でしょ、運命を感じました、彼女に一田ぼれしていました

高校時代は結構もててた私ですが、私の初恋でした

しかし運命は皮肉なものでした、彼女は名家の子女であり世界的な

権威がある

学者の娘、それに引き替え私は下町に住む普通の会社員の子供、釣り合ひはずもありませんでした

彼女は文化学部、私は形而上生物学部に入学しました

私は彼女への思いを胸に秘めて大学に通い始めました

学部は違っていましたが、彼女とは結構仲良くキャンパスライフを楽しんでいきました

そしてあるクリスマスイブの日に彼女に告白しようと彼女の家の前で待っていました

しかし何時まで経っても彼女は帰っては来ませんでした

その時にはもう彼女には婚約者があり、結婚も秒読み段階だということを

しかもその婚約者が私の高校時代の大親友で相思相愛の間柄ショックでした、死のうとまで考えた、しかし親友が選んだのが彼女でよかったです

実直を絵に描いたような男の奥さんになるとあきらめました

大学を卒業すると同時に彼女は結婚していました

それからの私は彼女を忘れるためにものすごい勢いで猛勉強しました、何度も論文をだし、教授からも教えていただき無我夢中でした、何とか失恋の痛手を乗り越えることができ助教授になり教授になり色町では結構な浮名をながしていました

そんなある日、運命の皮肉ですね、彼女の娘であるコイ君と六分儀
ゲンドウが京都大学に入学してきた

かわいがりましたよコイ君を、自分の娘のように

そして運命は巡る、

コイ君から六分儀と付き合つてることを聞かされた
ゆくゆくは結婚も望んでいると

六分儀は何かと問題をおこし、コイ君にたのまれたわたしがよく尻
拭いをしたこともあった

「もう我慢できません、教授、私六分儀さんと結婚します、父には
反対されても」

とコイ君に聞かされて悩んでいるときには、
、親友にも相談され

「六分儀なるものがコイとの結婚を望んでいるだがわたしは反対だ」
「どこの馬の骨ともわからん奴に大事な娘をやれるか」

「冬月お前もコイのことをかわいがつていただろう」

「冬月お前はどうなんだ、賛成なのか？、反対なのか？」

親友に聞かれたが明確な返事ができなかつた

そういううちに一人は駆け落ちしていった

そして数年後、コイ君から手紙が来た、結婚しました

そして息子ができましたと

手紙が来た、写真が同封してあり、

「父に見せください私たち元気で暮らしていると、そして孫ができました」

私は親友にコイ君からの手紙と写真を渡した

あんなに反対していたはずなのに手紙と写真を見せたら涙を流していた

変われば変わるものだと孫ができたらあんなに変わるのかと驚いた

そして一年後

私はユイ君に箱根に来いと呼ばれた

そこには彼女の親友たちもあり、何かの研究していた

ゲンドウと再会した

「先生、冬月先生その節は大変ご迷惑をかけました」と謝罪してきた

元気でいるならそれでいいと答え

帰ろうとしたところ

私に見せたいものがあると地下の研究室に連れていかれた

そこにあるものの説明をゲンドウにされた

「先生、これは、人類の進化にとても有効なものです
先生の研究にも絶対欠かすことができないものです」

ゲンドウは言い放つた

「こーーー冬月」「

呼び捨てにしおった私を

「これを見せた以上冬月先生にもう帰る場所がありませんよ」と猫なで声でゲンドウが言つた

「ユイも承知している」

そして私の背後には大きな権力があるとも言つた

とりあえず帰らなければと思いゲンドウの制止を振り切り京都に帰

つた

無くなつていた私の自宅が、私の生活が大学教授としての地位のすべてが

無くなつていた、呆然とした

そしてゲンドウの言つた権力大きさに恐怖した

もうここに帰ることができないと思つた私は箱根に帰つて行つた

それから一年後

運命の2004年が来た

実験前にコイ君は言つた

「シンジには明るい未来を見せてあげたいと、幸福な未来を」と
そのためのエヴァの実験ですと語つた

しかし実験は失敗した

コイ君はEVA初号機に肉体」と取り込まれて同一化した

サルベージを試みたがこと」と失敗した、そしてコイ君の葬儀を
ゲンドウが執り行つた

コイ君の葬儀が終了した後ゲンドウにシンジ君のこと聞いた

「シンジ君はどうするんだ、」
「シンジは私の親類に預けます」

シンジ君を連れてゲンドウは旅立つた
そして失踪した

「コイ君に惚れていたからなゲンドウは
とひとり呟いた私

そして数日後ゲンドウは小さな女の子を連れてきた

「私の親戚の子です、今日からここに住まわせます」
シンジ君がかわいそうじゃないかと怒つてみたものの、他人の私に
どうこう言える

立場ではないと、家族でもない私が立ち入る問題ではないと怒りを
おさめた

そしてゲンドウが連れてきた女の子は赤木ナオコに預けられたと後
でゲンドウに聞かされた

それからは研究や組織創設のために走りまわされ現在に至る（）

思考の海から戻った私

気が付くと私の端末に奇妙なメールが来た

先出し人を確認した

差出人は碇ユイ

驚いたものすごく驚いた

ユイ君はエヴァの中に取り込まれているはずなぜ
とり込まれているはずのユイ君からのメールがと
内容を読んだ

「拝啓、冬月先生いえ冬月副指令、今からいつアドレスにアクセス
して内容を
お読みください

メールの中ほどにあるサイトをクリックした

「そこにはゲンドウがこれまで行つた犯罪の記録が示されてあつた

そう赤木リツコが読んだ内容と同じものが事細かく書かれていた証
拠付きで

驚愕したそして猛然と怒りを覚えた、ゲンドウは私をもだましていた

そしてメールの最後にこうつ書かれていた

ユイ君の懺悔と私への協力要請であつた

「先生、私はゲンドウに騙されました、そして先生をも欺きました
お詫びしても足りないくらいに反省しています、シンジにも耐えが
たい苦痛を与えました

そして後悔しました己が犯した罪を」

「そして先生にお願いがありますシンジを守ってください、そして
レイちゃんも
お願いします先生」
切々と書いてあつた

私は誓つたシンジ君をレイを守ると

自分が果たせなかつた思いをシンジ君とレイに果たしてもうつために

最後にこう書いてあつた

「ちかじか私はある方のお力をかりてそちらに戻ります、それまで
さよなら」

と

またまた驚愕した

ユイ君が戻つてくる、ユイ君が、・・・、

今度こそ守るユイ君をわが娘、血はつながってはないけど私の娘を

新たな決意を胸にして

私はユイ君に示されたようにこのメールを処分した

冬月の過去（後書き）

リツコさん、マヤさんそして冬月副指令の三人が
ようやくシンジ君の仲間入りです
ゲンドウ包囲網が完成しつつあります

ユイさんの帰還

面白くなつてきましたね

では次のお話を期待してください

初号機再起動実験（前書き）

初号機の再起動実験のお話です

初号機再起動実験

今日はシンジ君の訓練日です

そして第三使徒を撃退してから初めての訓練日です
そして司令もいません

思い切り訓練ができます、気負わずに訓練に集中できます

副司令、リツ「わん、天地、君、レイちゃん、ノイケわん、鷲羽ち
ゃん、ミサトわん、マヤさん
が見守るためにはまっています

副司令がシンジ君に言葉を与えました

「シンジ君、気をわなくていい、ここにいるのはみんなシンジ君の
味方だよ安心して訓練に励みなさい、そしてコイ君に甘えてきなさ
い」

「はい、副司令、頑張ります」

「コイ君によろしくと、それと私のことは副司令とは呼ばばず、先生
と呼んでくれるかな

もちろん、ゲンドウがいないことを限定だ、シンジ君にやう呼ばれた
いんだよ」

「はい先生、これでいいですか」

次にリツ「わんが声をかけてくれました

「シンジ君、訓練だけど容赦はしないわよ、終わったらおじしい口
一ヒー飲ませてあげる」

「頑張りますリツ「わん、、美味しいコーヒー期待しています

天地、君も

「シンジいつも俺との訓練と同じよければいい、頑張れよ」

「はい兄さん、頑張ります」

レイちゃんも

「シンジ君、無理しないでね、心配だから」

泣きそうな顔のレイちゃん

「そんな心配しなくてもいいよ、みんなしてくれるから、ね、レイ笑つて」

無理やり微笑むレイちゃん

ノイケさんも

「シンジさん、頑張つて」

鶯羽ちゃん

「シンジ殿なうでもある、がんばつて」

ミサトさん

「シンジやん、ファイト」

マヤさん

「シンジ君なうでもある、頑張つてください

「みんなありがと『いざれこ』ます、頑張ります、ありがと『いざれこ』ます」

副司令が声をかけます

「でははじめよう、総員配置に着け」

全員で返事をします

「了解」

副司令、コソ「れぞ、鶯羽ちゃん、ミサトさんは指揮所で
マヤさんは

マギ端末の自分の席で、ノイケさんはマヤさんの隣に座り
レイちゃんは見学室で様子を見ています
準備完了」とマヤさんが言います

シンジ君はエントリー・プラグに乗り込みます

リツ「さんが指示します

「エントリー プラグに」、
「」注入

エントリープラグに「L」、「C」、「U」が注入されます

「エントリー・プラグに」、C、L注入終了

「ノンジ 舞臺」

ヒコシ「やんが闇もま

「おおきなうきわ」

「ナニがおひへ言こます

男の子でしょ、それくらい我慢なさい。

「わかつました、三か十さん、えびのゆうの虫食」、い、「と交換

二〇

それとこれからは食事中のビール禁止しますね。」

「シンちゃん……んそれだけはかんべん

されたら死んじゃう

リシロさん、「誰も鳴かずば撃たれまい」

もつと笑います

ノルマニ

トモアキニ、再開を試みた。

「エントリー プラグ 挿入」

エントリープラグが挿入されます

「主電源接続」

「全回路動力伝達」

「第2次コンタクト開始」

A10 神経接続異常なし

初期一ソタケト金で異常なし

双方に向縁開きます

「ノーマニカ」

卷之四

「シンクロ限界突破します」

卷之三

「おまかせがいいの、ノンジ殿は、

「始まつた」

卷之三

「ジンジ君……」

「國史」卷之二

一かあさへん

卷之三

「やつと会えた、母さん」

「むつこ二郎、母ごちの身一済んだことだか

謬べなくても

泣き崩れるユイさん

「「」めんね、「」めんね、「」めんね、「」めんね
シンジ君が逆に慰めます

「念えただけでもう十分だよ、それにいざれ外に出るんでしょ」

返事をするコイさん

「ええ、必ず出るわ」

「ならいいよ、待ってるから母さん

「もう限界時間だから向こうに帰るね、またくるね」

「レイちゃんに会えるの楽しみにしてるわねシンジ」
レイちゃんの名前が出るだけで真っ赤になるシンジ君

「じゃあねシンジ」

「シンクロ率戻ります400・・・・200・・・・100・・・

50・・・20・・・・0」

「シンジ君エントリー プラグ内に戻ります」

実験終了します

「Hントリー プラグ排出、Lシル排出」

Hントリープラグがエウトから排出されました

シンジ君は元気に出てきました

みんながHウアの前に集まつてきました

「大丈夫かいシンジ君 会えたかなコイ君に」

「はい、元氣にしてました、先生」

「シンジくーくーくーん」

レイちゃんがシンジ君に抱きついてきます

「ルシ」が服に着くよ

「構わないわついても」

ほほえましい雰囲気があたりに漂っています

「うつうつほん着替えてきなさいシンジ君」

「はい、先生」

「行こシンジ君」

レイちゃんに引っ張つていかれるシンジ君でした

「レイも心配だったんだね、自分の時は失敗してたから
「とにかく実験は終了した、今日はご苦労だったね、
みんな疲れてるようだから 解散！」

無事シンジ君のエヴァの再起動が終了しました
次はどんなことが起こるんでしょうか・・・・・

初号機再起動実験（後書き）

再起動も無事終わりました
次はどんなことが起こるやら楽しみです

では次のお話をお待ちください

仄の光に照らされて（前書き）

レイちゃんの引っ越しです

月の光に照らされて

再起動実験が終わつたあと遅くなつたためレイちゃんを家に送るためネルフ本部を出た後のお話でした

「レイ遅くなつてごめんね、こんなに遅くなるつて思わなかつたからレイの部屋まで送るよ」

「ううん気にしないで、実験で遅くなる」とは今まであつたから気にしないでシンジ君

それに私たちの周りにはガードのお兄さんがいるから大丈夫」

〈チルドレン専用のシークレットサービス〉

各種の武道の達人、重火器の名手、スパイそこのけの諜報活動ができる

要人警護のエキスパート、唯一ゲンドウの手が及ばない男たち、チルドレンをわが子わが娘のように

かわいがる愛情おおき男たち

それがチルドレン専用のシークレットサービス通称ガードのお兄さん
ゲンドウが用意した肩は早々に退治して入れ替わつている冬月副司令の用意した最高の男

その名は服部半蔵、

その昔徳川家康を陰で守り通した男の子孫、伊賀忍者の棟梁が服部半蔵

小さい時のコイに出会いコイに忠誠を誓いコイのためなら死をも恐れない男

その男が率いる軍団の名を影の軍団、陰の世界では知らないものがいない男たち

「ガードのお兄さんがいるから私たちは安全なよシンジ君」

「とは言つても女の子が人で夜道を歩くのは良くないよ」

「ありがとう、シンジ君、大好き」

影の男たちも微笑ましい光景に笑みを浮かべている、しかし、警戒は怠らない

そしてレイのマンションに着いた

シンジ君お茶でも飲んで行つて、紅茶の美味しいものがあるから

「アーティストの心」

- ५ -

「お願い、お願い、お願い」

シンジ君にレイちゃんのお願い攻撃を退ける根性はありませんでし

「ニッキ」の「トキ」は「興味」

ト、ハヤシの筋部屋にあがつ、シジム、つかし上がつ入る

だ部屋の

風景は驚愕する。ハシ君おもむろに電話を掛けた。

「がちや

「もしもし冬月だか？」

モリモリ先生

「今、アーヴィングの部屋で一泊せよが、二泊はアーヴィング

屋にレイひとり

住まわせてるんですか？僕には耐えられません！今すぐ住所変更をお願いします

先生は知つてゐんですか、」

えらい剣幕で冬用の食つて掛かるシンジ
「ちょっと待て調べてからもう一度連絡するからそこで待つてくれ

れ

「はい」

「がちやう」

冬円さんは専用回線で服部に連絡を取る

「冬円だがレイのへやを確認してくれ、そして必要であればシンジ君の命に従ってくれ」

服部「了解」

そして服部が確認しに来る

「あつガードのお兄さん」

部屋の中を確認してまた冬円に電話する服部
冬円は冬円で調べた、服部からの連絡と一緒にから調べたものを加
味しシンジに連絡する

「シンジ君すまない、こちらの手落ちだ、ゲンドウの馬鹿が、指示
していたようだ

早急に部屋を用意するからそちらに移っててくれ、どうですか？君が
住んでるマンションに

用意するから

「部屋の番号は 号だ」

「ミサトさんの部屋のとなりの部屋ですね」

「わかりました、ありがとうございます」冬円はお願いを
聞いてくれてありがとうございました、先生、早々のお願いを

「コイ君の息子のたのみを聞くのは私はうれしいんだよ、これから
も頼ってくれ、シンジ君」

「はい、先生」と電話を切るシンジ

そしてシンジは服部に指示ました

「服部さん、すみませんがレイの部屋にあるものを僕が住んでる部
屋の隣の部屋に運んでください」

お願いします」

「若、了解しました、少しお待ちください」

服部が合図すると、どこからともなく数人の男たちが音もなく入っ

てきた

「この者たちは、私の配下の者、若やコイ御嬢様を陰からガードしておりました者たちです」

「若？僕はそのように呼ばれる者ではありませんよ、ただの少年ですよ」

「若是若です、コイお嬢様をゲンドウに奪われた時はどれほど悔しい思いをしたことか

でもこれからはご安心ください、ゲンドウの魔の手から必ずお守りいたします若とレイお嬢様を」

服部と服部の配下がシンジとレイの前でひざまずいた

「わかりました、そういう事情ならこれからもよろしくお願ひします、服部さん」

レイちゃんもお辞儀します

「服部のお兄さん、シンジ君を守つてくださいね、お願ひします」

「この服部、レイ様にも忠誠を誓います」

「でははじめます、それっかかるれ」

音も立てずにレイの部屋のものを運び出す男たち
そして荷物を運んで行つた

「若では失礼します」

シンジ君とレイちゃん一人で微笑みました

「若だつて」

「レイお嬢様だつて」

微笑みながら一人はマンションに帰つていきました

月が一人を照らしながら

仄の光に照らされて（後書き）

レイちゃんの部屋を見たシンジ君驚いて
引っ越しを仄町までお願いする
お話をした

ではまた次のお話をでお待しあげれど

鷲羽が体験したサーディンパクトの、じつけ
そして思い

さて天地君が飛ばされて幾日たつた柘木家のお話をしましょう

「鷲羽さん、ごめんなさい 許してください、反省します」

美星さんが必死になつて謝つています

「今回は、どんなに謝つても許されないわよ美星殿」

「あんたがやつたことは家中で済ませるにはあまりにも大きすぎるので、私がかばおうとしてもどうにもなんないね、ただの失敗だけなら私にだけ影響があるなら

いいけど、天地殿を巻き込んだことが、最大の失敗なんだよ」

「私にも責任がないとは言わないけどね、とりあえずG.P.アカデミーに行つてきなさい

「どういう結果があるか、向こうに行かないとわからないわよ
私もできる限りはお願ひしてみるけど」

「美星の後始末はとりあえず後回しにして、天地殿を探さないと、考えつるあらゆる探査システムを開発しないと、あと次元神にも探索せましょ！」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「この次元に足跡な

し」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「この次元に足跡な

し」

「……………」

「……………」

「……………」

「この次元に足跡な

「まず、天地殿の血液採取して、次の検査項目を用意してるとき

美星殿が私宛に手紙を持ててきた。」「まではいせ通り」

「私が手紙を読んだときに、美星殿がどのボタンを押したかがわ

かれば
・
・
・
「

記憶を巻き戻しています

— — —

「手紙に貼つてあつた切手」

「切手、切手、切手なんの切手かわからば」

「記憶を巻き戻していますきゅ

— STOP —

「アーメの絵が描いてある切手、それだ。

— 1 —

もう一度次元神を呼び出す

「お呼びですか、」

「今度はアーメという次元で探査しなさい」

「わかりました、鷺羽様」

し

「、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、二の次元は足跡な

「六次元」の世界

『新編和漢書』

卷之三

し

し

し

「、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、」の次元に足跡あ

L

賀羽様見一にました

「そればどアーメ?」

「新世纪エヴァンゲリオンの世界にかすかな痕跡を見つけました」「見つけたといつてもまだアプローチするわけにはいかない、今下手な干渉はできない

今したら痕跡はおろかその世界そのものの崩壊が起こる、神といつてもこういう時は無力なもんさ

意識を数値化し物語の作者の精神に同化それを痕跡に憑依すればうまくいくかも

۱۸۷

つなみ皇家の木システム起動しなさい、ときみ、あなたの次元の手を発動

「はい」「はい姉ちゃん」

「いくよ、一人とも同化、憑依、つなみのちから、ときみのちから、

私の力

すべての力よ光とともに貫け、

数値化された意識が神のちからを使って同化し作者の思いに憑依してみちが開かれた

「しかしながら、意識してこの道を作るのに大分かかるのに、
美星の血筋はことなくおこなつてしまつ、神の力の限界を感じる
ね」

「座標固定ポイントマークー固定、さてどこにつながるかは行つてみないとわからないね」

光の道を進む鷲羽しばらくして終端に到着

着いた先は暗い暗い暗い巨大な少女のモードメント、赤い海
沙浜にてござり少半、赤い服を抱きこむらうつろな魄

赤い海に手を浸す鶯羽

「なに」は、どこの世界?

世界でした

んで来る

卷之三

うになる

そして話しかけてくる少女の意識

「あなたは誰？」

「碇君を助けて、わたしは何もできない、あなたならできる、お願
い」

「あなたの名前は？」

「名前、綾波レイと呼ばれたものの意識の残滓」

「もう私は消える、お願い、、、、、い、、、、か、、、、り、、、
くん、、、、を、、、、、」

少女の意識は消えた、そしてすべてのものが消えた世界
そこにたたずむのは鷲羽ひとり

涙する鷲羽

「わかつたわ、レイちゃん、あなたの願い、この鷲羽が必ず叶えよつ
三神の女神の名にかけて」

そしてどこからかわからない所からかすかに聞こえる感謝の言葉
「あ、、、、、、り、、、、、が、、、、、と、、、、う、
そしてまた探す今度は簡単です、同じ座標にいるから
天地殿の意識を見つけました

2015年第一東京市の伊集院家にたどり着く鷲羽
そして忍に知り合い自分が見た光景を忍にも見せる

忍は即座に協力を承諾、そして天皇に会う、天皇にも同じことをする
協力を要請、即座に快諾

そして数日後、第三東京市ナルフ病院にポイントマーカー設置

そしてシンジに会つ

「どうしたのかな 天地殿」

如何だったでしょうか

では次のお話ををお待ちください

テー^ト（前書き）

待ちに待つた『テー^ト』の日が来ました

パーティー

今日はレイちゃんが前から望んでいたパーティーの日です

前日学校のヒカリさんや友達にお願いして、洋服やアクセ選んでもらうため

一緒に「デパートやブティックめぐつをしました

「レイさんは、華やかな洋服よりも、清楚なお嬢様ファッショング似合つと思つよ

いつもは制服しか着てないから、余計似合つとももつ

、ヒカリさんが言いました

「水色のスカートに薄いピンクのブラウス、、白いジャケット、シリバーのネックレス、

白い麦わら帽子、みんなが一生懸命選んでくれました、うれしかった、

胸に温かいものがあふれてくる、こつの間のか涙があふれできました

ヒカリさんが優しく抱きしめてくれました

ケイコさんが「これで碇君もいぢりや、」と微笑んで言つてくれました

「私はお礼に、みんなにお昼に誘いました、Mドナルドで楽しいおしゃべりをおしゃべりを

しながら楽しい時間を送りました」

夜ははドキドキして眠れませんでした、楽しくて、明日はどうなど連れて行ってくれるのか、シンジ君は教えてくれませんでした

翌朝は早く起きておめかしです、お化粧も初めてします、仕方はヒ

カリさんが

教えてくれました、シンジ君喜んでくれるかな

そして、玄関のチャイムが鳴りました

そして玄関を開きました

「レイ、用意できたかい、・・・」

玄関を開けたシンジ君はレイちゃんの姿に驚きます

「レイ。。。きれいだ、・・・どこかのお嬢様みたい」

「シンジ君、ありがとう、褒めてくれて

嬉しくて涙が出そうになりました、でも泣きました、泣いたらお化粧

がくずれてしまつから」

「鷺羽さん、ミサトさん、兄さん、行つてきます、
「シンジ殿いつてらしゃい」「たのしんできて」「しつかり遊んで
来い」

「いってきまー」「行つてきます」とレイと一緒にいました

一人行つた後三人はつぶやきました

「こんな時間はもう来ないだろつ、使徒と呼ばれる怪物に、ゼーレ
という

権力にそして父親であるゲンドウとの死力を尽くした闘いが待つて
いる
だからこそ、一人には、今日は貴重な残された時間、精いっぱい樂
しんできてほしい」

しんみりと語り合つ三人でした

リニアに載つて2時間後目的地に着きました

そこは「第一東京ネズミーランド」そこは第一東京市に新しく出来たテーマパークです

ネズミのネズミー君ミーさんがシンボルのテーマパークです
出来たてなのでチケットもなかなか手に入らないのですが
そこは、申し訳ありませんがエルフの権力でというか冬月さんにお願いして手に入れもらいました

それも一日アトラクション、レストラン、ショッピング、パレード、ショーが最優先でできる

ウルトラスープレミアムチケット、数枚もない超限定のチケットです

「シンジ君ここは?」

「ここは新しく出来た遊園地、ネットを調べたらヒットして前もって入園チケットを手に入れたんだ」

「ありがとうございますシンジ君」

「レイの笑顔が見れてうれしいよ」

まずはあれに載らう「行こうレイ」

シンジ君はビックサンデーマウンテンにレイちゃん連れて行きに行きました

西部劇に出てくるような機関車にのつてスリル満点の乗り物です
「れいは悲鳴を上げて僕につかまつていきました、悲鳴を上げるレイ、かわいかつた」

十分楽しんだ後、次に乗ったものは蒸気船、マークター号水上をゆっくり進む蒸気船です

「シンジ君とゆっくり川面を流れる船に揺られてのつていましたシンジ君優しそうな笑顔です、頬もしいと感じました」

次に乗つたのは、空飛ぶボンタ、空中を遊泳する乗り物です
「レイはなんか怖そうにします、行き成り乗り物が浮き上がった、そしてゆっくりまわり始めて、でも楽しそうでした」

そして次は

トンテレウのフォアリートールホールにいきました
「中はおどぎ話のお城を模し王様や女王様、お姫様が踊つてる絵がかいてありました
素敵なお城で中で本当にシンジ君と踊つてるような錯覚に陥りました
そしてガラスの靴が飾つてありもう言葉が出ないです」

そしてシンジ君がレストランに予約してるとこにそこに行きました
「ムーンクリスタルパレス」というレストランで、素敵なレストランです

バイキング形式なので好きな料理を自分で選んで食べるといもの
です
「もしかして私がお肉食べられないのを覚えていてくれたんですね、
私のことそこまで理解してくれるシンジ君、私はもっと好きになつていきました」

「素敵なお城で中で本当にシンジ君と踊つてるような錯覚に陥りました
そしてガラスの靴が飾つてありもう言葉が出ないです」

食事した後はまたアトラクションやいろんなお部屋など見て回り
素敵な時間を過ごした一人、周囲が暗く夜のとばりが下りるころ
ネズミーランド最大のショーアゲンチが始まりました

ネズミーキャッスルに火がともり素敵な音楽が流れ始め
ネズミー君や、ミーさんがトンデレラやガッティーとともに現れてダンスや歌を披露し

そして夏なのに雪が舞い降りて幻想的な雰囲気が漂い始め
ショー最大のイベントであるは打ち上げ花火が始まりました

「私は花火が上がるたびきれい、きれいといいシンジ君と見上げて
いました、」

「レイの横顔が花火に照らされて幻想的な美しさを醸し出していま
した
絶対に守るレイのこの笑顔を改めて誓いました」

ショーアゲンチも終わり閉演時間が来ました

「次のまた来ようレイ」「うん」絶対に

そしてリニアに乗り第三東京市に帰つてきました

そして帰り道月が見える公園に差しかかり、シンジ君がレイに言いました

「レイ、君を愛してる、この命死えるまでレイを守る」

「シンジ君、私もあるたを愛してる、この命死えるまでシンジ君を
守る」

そして月の光に照らされて一人の影が重なっていた……

翌朝、 、 、 、 二人に昨日の出来事が写真になつて届けられました
シンジ様、 レイ様お幸せにといふ言葉とともに

天地君鷲羽ちゃんの元にも写真が届けられました
それは月に照らされた二人の、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 これいじょ
は言わぬが花ですね

ポート（後書き）

シンジ君とレイちゃんのポートレートのお話でした
一人の誓いとともに

ではまた次のお話をお待ちください

人選（前書き）

シンジ君の世界に行く人選です

人選

ある日の粂木家の出来事ぱーと

「これから向ひつへ行く人選をするよ
まず行きたいもの手をあげて」

まあ全員が手をあげます

「まあそりだるうね、当然の結果か」
鷺羽ちゃんが声を発します

「つヨウ」、あんたは最初から除外だよ

「なんでだよ、鷺羽~~~~~」

「じゃあ聞くけど、あんたがいつて向ひつで何するのかな」

「天地迎えに行くんだよ~~~~~」

「それは分かつてるわ」

「じゃああんたが今左手につこてる雷玉をかえしな」

「なんでだよ~~~~~」鷺羽「

「あなたの力はむじにじや巨大すぎるんだよ、それに向ひつじや表
に出ることができないんだよ
破壊するきかい向ひつうの世界を」

רַיִנְתִּי רַיִנְתִּי רַיִנְתִּי רַיִנְתִּי רַיִנְתִּי רַיִנְתִּי

「わかつたねリヨウウ」

思ひつかつてゐるつゝやうやく

つむぎあんかわん

「あえがどのも同じ意見だよ」

「そんな鶯羽様、わたくしはリミカーラんとはちがいますわ」

天地殿は今、隠密みたし
なものぞから

お元が廻が行くとその隙密行動を増したれなしんが

卷之三

G.P.アカデミーから帰ってきた美星さん

「美星殿あんたはそもそもその原因だから論外、始末書やみとせんのお手伝い

れわむかせんじゅ

「わわみちやんせ」の家を「わるい」とが天地殿のためだし、「じい」を離れられないからね

「鷺羽お姉ちゃん砂沙美わかつてるよ、つなみちやんがいるからね、それにもさみがいないと餓死しちゃうよみんな」「

「ありがと、わわみちやん」

残つたのがノイケさん

「鷺羽様、私ですね、」

「セツノイケ殿はG.Pでも優秀だし隠密もできる能力もある、天地殿のサポートにはついてつけだよ」

「来るのはもう少し後になるよ向こうの状況が今時点で少ししかわかつてないからね」

「当分はこの人選だけど、あと何人もいけないよ
開けた道はそんなに維持できないからね
、維持するのにあえかどのトリヨウウコあんたたちの力が必要なんだよ
家を守るのもあんたたちの仕事だよ、いいね一人とも」

しぶしぶ返事をするあえかさんと「じい」を離しました

「じいに隠れてる瀬戸殿あなたも「けませんよ」

「あらわかっちゃんた、結構気配隠してたんだけど、鷺羽ちゃんには通じないか、ほつほつほつ、楽しいお話期待してますよ」

「やれやれ、天地殿帰つてこないほうがいいかもね、」

「ところで鷺羽殿、向こうの状況はどうなの？」

「詳しく述べ今わからないけどどうも状況はあまり良いとは言えないね」

「瀬戸殿にお願いがあるんだけど、サポート役を人選してくれるかなもしかしたら人数がいるかもしれないから」

「わかりましたわ、鷺羽殿」

「不安だな～瀬戸殿」

「面白くなりましたわよ、もしかしたらNUNUが必要かもねきゃははは」

「NUNUトリップルゼット水鏡の絶滅宣言・・・・・・」

そこには宇宙海賊も裸足で逃げるじゅうこの鬼姫がいました

向こうに行く第一弾の人選が終わりした

人選（後書き）

人選が決まりました

瀬戸様の暗躍が怖い作者です

では次のお話を待ちください

第四使徒戦（前書き）

第四使徒襲来しました
シンジ君の闘いが始まります

第四使徒戦

第四使徒発見の報あり、第三東京市まであと一時間
戦略海上自衛隊「はるな」第四使徒に攻撃

「艦砲射撃、始め！」

「レーダー射撃はじめ～～～～～～～～

32?三連砲からの徹甲弾が雨あられのよつて使徒に降り注ぎます

「足止めだけできればいい」

「あとはネルフ任せればいい」

第三使徒戦時に22爆弾は使徒には通用していないのは確認しているため
通常砲弾のみの攻撃です

「打て打て弾の吸きるまで

激しい攻撃です「もう少ししたら来る」

「それまで持たせねばいい」

「はるな艦長が叫びます」

「つきー・シースパロー、発射」

先日の闘いの経験により戦血は足止め行為のみに徹しています

そのじるのネルフ

オペレーターの男性士官が叫びます

「戦自の攻撃により使徒の足止め成功しています」

「Hガガアの出撃要請を求めています」

「言われなくともするわよ」

「司令ようじいですね」

「使徒に勝たなければ我々に未来はない」

「Hガガア ンゲリオン、発進!」

「機工ガガアがネルフより発進します

「レイ頑張り!」

「はい、シンジ君」

レイちゃんの零号機は先日起動成功しています

「レイはサポート、シンジ君は先行しない」

「はい」

「了解、ミサトさん」

「いいシンジ君、相手はムチを持つてるみたいだから遠距離攻撃が最適、ゆえに、パレットガン齊射後様子を見て」

「了解、」

「宛、戦自はるな艦長にたつする、エヴァ攻撃の支援感謝する発ネルフ作戦部長」

「退避せよはるな、」

戦艦が退避していきますこれでエヴァの邪魔にはなりません

戦自空軍がエヴァの支援に来ます

「ラム小隊、使徒に攻撃」

「ラジヤー」

空軍のF-15 F-2が使徒にバルカンで攻撃を開始します

そしてサイドワインダー発射していきます

「じょうとく当たります

戦自が支援しています

エヴァ 初号機ないシンジ君

(兄さん何かいいアイデアないですか？)

(鞭が厄介だがあれさえなればたぶん行けると思つが)

パレットガンの攻撃も終わり用済みとなつたパレットガンを剣の代わりにして使徒に対峙しています

天地が思いつきます

(シンジフィールド展開しろ)

「レイシンジ君の支援にパレットガンで攻撃して」

「了解葛城三尉」

レイちゃんが支援してくれています

「レイが支援してくれる、フィールド展開、」

シンジ君の前にフィールド展開していきます

(シンジお前に教えた光鷹真剣の変形を教えるフィールドをパレットガンにまとわせろ)

(はい兄さん、フィールドパレットガンにまとわせます)

フィールドがパレットガンにまとわりつき赤い光を発していきます

(鞭をたたききれ)

迫つてくる鞭をシンジ君はパレットガンでたたき切ります

見事な剣さばきで切つ ていきます

よし相手は丸腰です

コアを狙おうと突撃しようとすると
不意に使徒からの光線攻撃がありました

避けようとして山の方に逃げたといふ

その下には人影が・・・・・・・・・・・・

「なんでこんなところウジとケンスケがいるんだよおおおおおおおお

そうです、ケンスケ君の好奇心が自らの命を危うくしています

「いっちに来るな~~~~~」

「葛城三尉、ここにけが人がいます救助お願いします」

モニターに一人が移っています、しかもけがをしています

使徒の攻撃を避けようとしてエヴァが倒した大木がたまたまケンスケたちに倒れこんでいた

「了解救助に行くまで持たせて」
「了解」

ピンチです

רְמִים בְּנֵי יַעֲקֹב וְנָשָׁתָן בְּנֵי יַעֲקֹב

(おちつねシンジ)

光鷹翼での攻撃を思いつく天地

(レ) トトロ

天地を守るために、一歩一歩、力強く進んでいきましょう。

(シハシ あとを頼む)

(兄さんありがとうございます)

以前訓練で天地君がシンジ君に見せた光鷹翼の光線
本来の体ですと光鷹翼を展開できますし光線も出せますが
こちらの世界では光鷹翼を発生させるだけで体力のほとんどを
使い切ります

救助隊が到着トウジとケンスケを収容し去つていきます

これで思い残すことなく使徒を撃退できます

(精神を集中し使徒のコアをたたき消る)

最高に集中してシンジ版光鷹真剣でたたき切ります

「えいや～～～～～～～～～～～～～～

見事口ア」と使徒をたたき切りました

(兄さんありがとうございます)

「レイ支援ありがとうございます」

「シンジ君に感謝された」

「ローロしているレイちゃんです

「葛城三尉、作戦修了帰還します」

「戦自の皆さん支援感謝、、ありがとうございます」

次々に感謝と応援の言葉が各戦自軍から寄せできました

そしてネルフに帰還してきました

指令室では

ゲンドウがうなっています

「こんなはずではないこれではコイが覚醒しない、何とかしなければ

その後ろでは冬月副司令が喜んでいました

「これはシンジ君に力か、これならゲンドウ焦るだらう、しかしよ
くやつた

これからが楽しみだ」

ミサトさんはとこいつ

使徒戦後の後始末に追われていきました

「シンちゃんすごい戦いだった、私も頑張らないと
へんにテンションが高いミサトさんです

リックさんはとこいつ

「パレットガンをあんなふうに使うなんて想定外だわ、プログレッシブ・ナイフを改良しないと
あとでマギのかあさんに相談しよう、そして、もっとシンジ君が戦
いやすい武器も」

こちらも創作意欲がわいてくるようです

マヤさんは違う意味で心配しています

「天地さん大丈夫でしょつか」

マヤさんは恋人の天地君に心配していました

ノイケさん

「あれは光鷹翼の変形ですね、たぶん天地様のいれじえですね、し
かしそれをつかいこなすシンジさん
脅威ですね」

各人それぞれの感想を胸に終了していました

「シンジ君、『苦勞様』

「レイも、ありがとう」

そしてあの一人はとこうと、病院で己のうかつさと痛みをかみしめながら

その夜を過ごしてこきました

第四使徒戦（後書き）

さてシンジ君の戦いが始まりました
なかなか戦いの描^跡がうまく描けません
作者の力不足を感じます
では次のお話をお待ちください

事情聴取（前書き）

事情聴取です

事情聽取

使徒戦が終わつた、とりあえずの平和が訪れました

数日が経過しました

そしてネルフ病院にてここにはあの時気怪我をした一人が入院しています

ミサトさんによる尋問が始まりました

二人とも無言です

黙つててはだめよ、報告には、貴方たちがシェルターを抜け出すところを

たのが

確認されてしゅうす

まだ無言です

「 、 、 、 、 、 、 、 、 」

「、、、、、、、、、、、、」

「あなたたちがあそこにいなかつたら、シンジ君はもつと『ぐにたかえたのよ
シンジ君のピンチはあなたたちが招いたものよ、とつせの機転で、
何とか勝てたようなもの』

二人の両親が一人をにらんでいます

「ケンスケ何か言つたらどうなのだ」

「トウジ、お前も何か言わんかい」

二人の両親が叱責します

「まあまあお父さんたち、落ち着いてください喋るものもしゃべれ
なくなりますから」

「シンジ君からもとりなしがありました」

「トウジ、ケンスケ怪我大丈夫かい、治つたら遊びに行こう
とミサトさんがシンジ君からの伝言を一人に伝えます

泣きながら二人が話し始めます

「トウジお願いがあるんだけどちょっと手伝ってくれ」

「なんや、ケンスケ」

「外でエヴァが戦つてるんだ、見てみたくないか」

「いやや、なんでそげな危ないことせなならんのや」

「実は父さんのエージ盗み見て誰がエヴァのパイロットかわかつたん
だ」

「誰やねん」

「シンジだよ」

「せんせかいな」

「だからさ、トウジも見たくないか」

「しゃ～ないな、せんせがたたかうとんならおうえんせなな」

「それでこそトウジ」

「いいんちょ～～～～

「なによ、鈴原君」

「ワいらちゅうと便所にいつてくるわ」

「そんなことシェルターに入る前にすましておきなさいよ

早く帰つてくるのよ」

「わかつとるわ、いくで、ケンスケ」

「あいよ」

そしてシェルターの非常口まで来た二人自作のポケコンでシェルターのセキュリティーを解除してしまいました、最悪なことに、あとで戻るため、開けやすいようにシェルターのセキュリティーを改造してしまいました

そのシーンを別のカメラで撮影されていても知らず悠々と出していく姿をとらえていた

そして歩いてこぐうちにエヴァが戦つてるところが見えるところまで進んで来た二人

「すごいすごい、エヴァが戦つてる、僕も戦つてみたい
「せんせ、がんばれ～～～」

ケンスケはデジカメでそのシーンを撮りまくってきました

まさか自分に迫つた危険に気が付かずに、気軽に応援していました

そして自分のところにエヴァがきました

「 まことに、おおきなおもてなしをうながす

「ちに来るんやなし」

と一人は叫んでいました、エヴァが使徒の攻撃を避けるため

二人のあしを大木がはさんでしました

一方エヴァでは

「なんで」などとウジとケンスケがいるんだよおおおおおおお

「葛城三尉、ここに人がいます救助お願いします」

モニターに一人が移っています、しかもけがをしています

使徒の攻撃を避けようとしてエヴァが倒した大木がたまたまケンス
ケたちに倒れこんでいた

「了解救助に行くまで持たせて」

「了解」

そして救助隊が到着して一人は病院に搬送されました

自らの軽はずみな行為が自らのけがを呼んだことを反省した

自業自得です

事情聴取が修了し

そしてミサト二が一人に告げます

「ネルフの機密文書の漏えい、シェルターのセキュリティー破壊戦闘の妨害等かんがみ死刑が告げられました

シンジ君のとりなしと学生であることを鑑み罪一党を減じ

第一東京の学校に転校してもらいます

そしてご両親も同じです、第一東京のネルフ分室行きが命令されました

ご両親もその地位を取り上げ軍曹待遇として行つてください
そして罪をかみしめて生活を送つてください

以上終わります

ミサトさんはそう告げると病室を出ていきました

そのころのネルフでは

トウジやケンスケもこれで懲りたと思つから、第一東京で頑張つてほしいと、

冬月副司令に告げていました

「いいのかねこんな軽い処分で」

「いいんです、確かに許し難い行為ですけど、二人は僕の親友ですから
これでいいんです」

「では失礼します、先生」

「ゲンドウとは大違ひだな、シンジ君は、大物になるな」

冬月さんはそう言ってほほ笑んでいました

事情聴取（後書き）

事情聴取が終わりました

では次をお待ちください

レイの試験（前書き）

天地、君に修行をお願いするレイちゃん

レイの試験

第四使徒を撃退してから数日後のことです

シンジ君は天地、君といつものように修行していました、レイちゃんもそのことを知っていましたしかし、レイちゃんは自分が第四使徒戦ではサポートしかできないことを、痛感しました

自分もシンジ君の横に立ちたい供の戦いたいと切に思つようになりました

そして天地、君と一緒に修行させてほしことお願いしました、しかしシンジ君は反対です

「天地、さん此の呪ではいけないの、シンジ君の足手まとこにはなりたくない、シンジ君とともにに戦いたい、お願いします、厳しいのはしっています、でもお願いします」

一方のシンジ君はといつと

「レイに危ないことをしてほしくない、戦うのは僕だけでいい、後ろで僕の闘いを見ててほしい」

心配性のシンジ君、シンジ君の足でまといにはなりたくないレイちゃん、どちらもお互いの事をきずかい、相手のことを深く思う一人、どうしようかと悩んでいる天地、君、そこで鷲羽ちやんに相談すること、

「天地殿、一度レイちゃんに試験してもうひとつかな、実機じや問題があるから、ショミレーターを使って、もちろん私特製のね、」

そんなこんなで鷲羽ちゃん特製のショミレーター試験を受けるレイちゃん

「いい、レイちゃん、初号機を相手に戦つてもらいます、シンジ殿はレイちゃんとは思わず、思いつきり戦つて、レイちゃんもシンジ殿とは思わず真剣に戦いなさい」

「はじめー。」

シンジ君はとことんレイちゃんが戦つてくると思い手を抜いてるとは言えませんが、攻撃が、雑になつております
どうせいつもの切れがありません

レイちゃんはシンジ君だと思わず敵として真剣に戦つてきます

「レイ、やうじやない、やうじやないんだ」

「シンジ君、覚悟ー。」

見守つてる天地君は叫びます

「何やつしるんだシンジ、そんなんじゃだめだ、だめなんだよレイをバカにしてるのか」

「だめだね、シンジ殿、」

何度も切り結んでいますが、どうもシンジ君が負けそうです、押されています

普通ならシンジ君には何でもない攻撃が、迷いがあるため、動けません

そして鷲羽ちゃんが回線を開きエヴァの中のコイさんに通信を送ります

(コイ殿、あなたの息子はこの程度ですか、そんなことでは守りたいものも守れませんよ)

レイちゃんはあんなに真剣に戦ってるのに、母親として、それでいいのですか？

(鷲羽さん、一度シンジと話してみます)

「レイちゃん少し攻撃を控えて」「了解

エヴァに取り込まれるシンジ
コイさんの説教がはじまります

(シンジ、今までのレイちゃんととの戦いはなんなの、シンジあなたはレイちゃんをバカにしてるの足手まといとおもつてるので、レイちゃんの事その程度なの、それによくレイちゃんの

恋人だといえるわね、母さんわらひちゃうわ、なぜ真剣にレイちゃんと戦わないの
レイちゃん奪われるわよ

それじゃ、ゲンドウにも勝てないわよ、それでいいの、ゲンドウに

そして、彼のレイちやん、無表情で無感動、無口なレイちやんにも
どうしてしまったわ、シンジはそれでいいの？

そんなことシンジは望んでこるので、それでも私の子供？情けないと
思わないの、私に

「いやまだ言われて、悔しくないの、シンジ、答へなさい」

泣きながらシンジ君を諭すコイさん

（母さん、ありがとう、だめな僕をしかつてくれて、眼が覚めたよ、
真剣にレイに向かうよ）

（鷺羽さん、シンジがわかつてくれました、シンジを返します）
（シンジレイちゃんの思いにこたえてあげなさい）

（ありがとう、コイ殿、肉親の言葉が一番、シンジ殿にまじたえる
からね）

「では再開します」

それまでとは違つよつて動きをが滑らかになつてきたシンジ君
レイちゃんの攻撃を難なくかわし、逆に肉薄する攻撃でだんだんと

レイちゃんの攻撃が近たらなくなつてきました

びりゅうとも、どんな攻撃も最後には通用しなくなつてきました

そして決着がつきました

零号機の中でレイちゃんが泣いていました、負けた悔しさなのか一
緒に修行できない
事の悲しさのかわかりませんが

そして天地君がレイちゃんに告げます

「レイちゃん明日からのシンジとの修行、参加許可します」

その言葉を聞いたレイちゃんうれしくて大泣きしていました

「レイちゃん、修行中はレイと呼び捨てにするから、それと厳しいよ、おれの修行は」

泣きながら返事をするレイちゃん

「ぐすりぐすり あつたがとつひじわせます、てんわれん」

シンジ君にも告げる天地、くん

「なんだ最初の攻撃はあれじやまだまだ厳しくしないといけないな、今まで以上に

厳しくいふぞ、いいなシンジ

「はい！兄さん厳しくしてください、甘つたれな僕を厳しくしてください」

「幽れんにも言われました由を捨てなすこと、よろしくお願ひします、ござん」

レイちゃんも回 GIRL を書きました

「やれやれ途中せじつなるかと思つたけどなんとかうまくこつてよかつたよ」

「シンジ殿、レイちゃん頑張れ」
(私も頑張んないといけないな)

それぞれの感想と結果をかみしめてこれからもがんばる」とを誓つ
シンジ君とレイちゃん
でした

見ていた冬月さんは終わると笑みを浮かべながら自分の執務室に帰つていきました

レイの試験（後書き）

レイちゃんが修行するための試験を受けました
どうなるかと思いましたがうまくいってよかったです

では次のお話をお待ちください

ケンダツの畠田(眞喜)

シノジ畠とケンダツの姉妹です

ゲンジウの事件

第四使徒戦後のゲンジウ

「まざいまざい、このままではコイが覚醒しない、やつとつかんだチャンスがこの頃のレイはどうも私を避けている、食事に誘つても、体調が悪いといついすぐに帰つてしまつ、赤木博士も同じことを言ひ。」

「副官たる冬兵もビリかよそよせしい、ビリしたらいいが、思いつかない。」

「シンジが来てから、すべてが、自分の思い通りに行かない、何か起こつているのは間違いない、今更シンジに、親らしいこともできるはずもない、諜報部も私の息がかかつっていたものはすべて排除されている。」

「逆に監視されていい、一度、シンジと話しえる必要があるかもしれない。」

「印象を変えるために、ひげをそり、サングラスをとつてみよ、それがいいかもしれない。」

「冬兵についてみよ、これもすべてコイに会つたのだ。私の最愛のコイのため。」

ある日の司令室での会話

「冬月、一度、シンジと話したいと思つたが、どうだらうかな。」

内心驚いた冬月さんですが、それを表に出すこともなく淡々とゲンンドウに話します。

「いいと悪うが、お前は、シンジ君を駒扱いしてたな、どういう風のふきまわしだ？」

「いや、そのままいいのか悩んでいた、頼む、最近お前はシンジと仲がいいようだ、どうだらうか？」

「わかった、とつあえず話はしてみよつ、待つていろ。」

(どうもゲンンドウの様子がおかしい、焦つていや、これ以上は無理かもしけないな)

冬月さんからシンジ君へ連絡をいれました

「シンジ君、ゲンンドウが君と話がしたいと相談を受けたんだが、シンジ君はどうするかね、どうも様子がおかしいんだよゲンンドウの。

「

暫く考えた後返事をするシンジ君

「会いましょう、僕も言いたいこともありますから、場所は、初号機の前で、もちろん、服部さんに警護をお願いしますが、あと先生と兄さんこそばにいてもらって、レイには隠れてみてもらひ、ところのさせびでしょ。」

「わかったシンジ君、ゲンダウはせねえやつだよ。」

そして数時間後、初号機前でのこと
さっぱりしたゲンドウ、みなが驚いてます、いつものネルフの制服
ではなくて
カジュアルな服装です

「悪かつたなシンジ、時間を取つて。」

「それはいいけど、父さんどう風の吹き回しだ、理由を聞かせてくれ」

「どうから話せばいい?」

「なぜ僕を捨てた、母さんもいなくなつて、僕には父さんしかいなかつたのに
なぜ、なぜ?」

「コイが初号機に取り込まれ、私はどうしていいかわからない精神錯乱の

状態にあつた、私からコイを取り上げた初号機が憎かつた

「そして、お前の顔を見るのがつらかった、だから、私の遠い親戚に預けた」

「ならなぜ、僕にそういうわなかつた、言つてくれたら、こんなに、父さんを憎む」とはなかつたのに、どうして言つてくれなかつたの、父さん」

「言えるわけじゃなこだらう、小やこの前にどうして言える、言つたところで理解できぬだらう」

「理解できなくとも、父さんがそばにいてくれるだけでも、違つんじやないか」

「お前が、そばにいてはどうしても人類補完計画ができる、ゼーレには逆らえない

それだけの権力がある組織に私が逆らえるわけがなかつた」

「それは冬田、お前も理解しているだらう」

「確かにゼーレは恐ろしい、私のすべてをうばわれたからな」

「だから、お前に危険が及ぶことを避けるために、私のもとから離した、確かに

あの親戚があ前にしたことは許されることではない、すなわち私もその点では

あの親子と大差ない」

「お前にとつてあの親子も、私も同じ悪人、憎むべき悪人だ、憎んで余りあるだら」

「たとえ、危険であるうともそばにいてほしかった、親であるなら、子を守るのが

当たり前だら」、それが親子じゃないのか、答えるゲンドウ

「私には何も言い資格はない、お前の思つようにすればいい、殴りたいと思つのなら、殴ればいい、殺したことと思うのなら殺してもいい、お前にはその資格がある」

「できるわけないだら」、親子なんだから、親子なんだから

「うう」

「どうすればいい、どうすれば解つてくれる、どうしたら許してもうられる」

「私にはわからないんだ、どうすれば、どうすれば」

それはゲンドウの心からの叫びでした

その時初号機から声が

「あなた、それがあなたの本心ですか、心からの本心ですか、答えなさい、碇ゲンドウ
シンジに『えた心の傷あなたは癒してあげるんですか、答えない』

「ユイ、ユイ、ユイ、お前覚醒していたのか、覚醒してくれていた

のか

「やうです、ある方のおかげで、じつはお話をできます、答えなさい」

今答えなければ、もう一生シンジとは分かり合えませんよ」

「シンジ、じの愚かで大馬鹿野郎の私を許してくれるか、お前の心の傷を癒せるチャンスを私に与えてくれるか」

「…………」

「わかった父さん、最後だからね、これが最後だからね父さん」

「つむシンジ、信用できないうちが、信じてくれ」

「僕のことは、これでいいだが、レイのことはどうする？」

「レイにも謝罪する、愚かな行為をレイにも」

隠れていたレイちゃんが現れます

「司令」

「レイ、聞いていたのか」

「はい、でも私の事はいいです、シンジ君と司令が仲直りしてくれるんですから」

「レイ、すまなかつた、レイ」

泣き崩れるゲンドウ

「よかつた、よかつた、ゲンドウ、私もこれで肩の荷が下りるよ」

「先生、苦労をおかけしました、愚かな生徒である私を」

「生徒の不始末をぬぐうのも教師の役目だよ、そうだらつコイ君」

「ありがとうございます、先生、愚かな母親と愚かな父親ですけど
また先生のお世話になります」

「大きな生徒だな、君たちは、そしてシンジ君レイ君君たちもまた
私の大事な生徒だよ」

周りには話を聞いていた整備員や職員がもらい泣きしていました

「聞いていたのか、みんな」

「司令、碇司令、困難がどれだけ大きくても私たちは乗り越えれる
乗り越えられる、シンジ君やレイちゃんがいる限り」

ネルフ総本部がこのとき一つとなりました

「碇、ゼーレはどうする」

「ゼーレには今まで道理接する、しかし人類補完計画は、この時を
持つては破棄する」

「それが私にできる謝罪だ！」

「わかつた碇、私も協力しよう」

「私たちも協力します、司令ー！」

ネルフ総本部はゼーレに離反することがこのとき決まりました

「総員持ち場に戻れ！」

「了解ー司令」

ある場所で、これを見ていたやん」となき方たちも、ネルフとゲン
ドウに協力することを
決めました

ゲンドウの件（後書き）

シンジ君とゲンドウの会話をお送りしました
作者としてはもう少しゲンドウに悪人になつてもいいつもつでしたが
こういふ話になりました

シンジ君とゲンドウがこれからどうこうの活躍をするか楽しみです
では次のお話をお待ちください

ケンダウ殴りだる（前書き）

ゼーレとの会話と口論の一回

ゲンジウ殴られる

シンジ君と、碇司令の親子和解を果たしました。

これから始まる厳しい戦いには、欠かすことのない和解でした。

そして、碇司令の悪辣な行いはすべてゼーレに向かうことになりました。

ある日、ゼーレに呼び出された碇司令です。

「碇君、第三、第四使徒戦における、被害報告を読んだが、いつた
いなんだね
この被害報告は、国の一つや二つ、吹っ飛ぶくらいの金額じゃない
か、碇君。」

「それに、君の息子にヒュアを貰えるなんて、何を考えてるんだね
碇君。」

「君は、『えられた』ことだけを、しなしていけばいいんだよ、碇君。」

「息子を、じかに、来させたのは、計画に必要だから呼んだだけ
です、
他に他意はありません。」

(ふん、お前たちの意見など、シンジの言葉よりも心に響かんわ、
死にそこないめ、
コイヒシンジヒレイとの暮らしだけを考えるんだよ馬鹿者め。)

と碇司令は考へています、聞こぢやいなことにつゝじで。

「聞いているのかね、碇君。」

「すみません、計画のことを考へていました。」

「計画に遅延は許されない、予算はこちりで一考しよひ、『苦勞だつた碇君。』

「碇、裏切りは許さないぞ、心しておけ、以上だ。」

ゼーレの首魁、キール・ローレンツは最後にそういって消えました。

被害報告に関してはかなり、大目に見積もつて報告していました。

必要以外の予算はすべてネルフの職員と、ネルフの施設関連、福利厚生に使われていきました。

今までの罪滅ぼしです、此れには職員も喜んでいます。

そして、シンジ君とレイちゃんのために、といつか、将来の結婚資金および生活のために貯金されていきました、でも、シンジ君とレイちゃんは知りません、まだまだ子供です、大金を与えては、一人のためにはならないと、冬月さんとの話し合いで決めました。

親ばかと爺バカですね、京都の碇本家との和解も済んであります、今までの不義理を償い、謝罪し、大分殴られていたようで、顔がぼこぼこになつて第三東京市に帰つてきた司令でした。

「司令室での一コマです

「父ちゃん、大丈夫かい?、大分腫れてるよ、顔が。」

「問題ない、これくらい覚悟の上で京都の本家に行つたんだ、これで済んでよかつたよシンジ。」

「司令、かわいそう、痛くないの?」

「ありがとウレイ、これくらいは、問題ない、お前たちに『えた痛みの比べれば、問題ない。』

「あいつはユイ君をかわいがっていたからな、もちろん私もだがね、今でも力は有り余ってるんだな、よく高校時代、私もあいつと殴り合いのけんかしたもんだ、懐かしい思い出だ。」

「先生も殴り合いのけんかしたんですね、驚きです。」

今の冬月さんは想像できない」とを聞かされている三人です

「勉強だけしてたわけじゃないさ、運動もしてたさ、もう今はそんなことはできないね、」

「ここに馬鹿があるからな。」

と司令をにらむ冬月さんです。

「もう言わないでください冬月先生、改心したんですから、シンジも何とか言ってくれ。」

「自業自得です、父さん」

と、笑いあう4人でした

第一種戦闘配置、各員戦闘配置に着け!!

ネルフ各所に指令する碇司令

「シンジ、レイ戦闘配置。」

「了解！」「了解！」

「行くよー・レイ!」

「はい！シンジ君！」

と、走つていきました

「碇、これからだぞ、これからが本番だぞ！碇！」

「わかつて います！ 先生！ 私たちも 指令室に 向かいましょう！」

第五使徒の登場です

ゲンドウ殴られたる（後書き）

ゼーレとの会話と口常の一コマをお送りしました
ユイの実家で殴られるゲンドウ
そして第五使徒戦にかかるお話をでした
では次のお話をお待ください

決戦！第三東京市その1（前書き）

さて第五使徒戦の前半です

決戦！第三東京市その1

第五使徒の襲来です、どのよつた戦いになるか、緊迫の時です。

「戦自強羅レイダーサイトより、ネルフ司令部に報告！」

「強羅方面より未確認飛行物体襲来、！」

「ネルフ司令部より強羅レイダーサイトへ報告感謝！」

ミサトさんが発令します。

「各防衛施設、順次攻撃開始」

ネルフに派遣されている、戦自陸上部隊からの砲撃が開始されました。

「武装ビル攻撃開始！」

しかし、どの攻撃施設、攻撃部隊の攻撃も第五使徒のフィールドに阻られます

「攻撃、効きません、どうしますか、葛城一尉」

「各攻撃部隊、攻撃施設、使徒による光線攻撃により沈黙」

「司令やつてみたいことがあるので、試してよろしくですか？」

「葛城一尉、やつてみたまえ。」

「初号機バルーンダミー発進！」

「攻撃！」

「ダミー、敵光線により破壊。」

「12式自走列車臼砲、敵光線により破壊。」

「12式自走列車臼砲発射、攻撃。」

「ネルフの攻撃を悠々受けて進んでくる第五使徒、ネルフ本部真上に到着

「敵、真上に到着！使徒下部よりボーリングマシーンにより切削開始。」

「ネルフ本部にボーリングマシーン到達時間あと12時間！」

ミサトさんが、碇司令に報告します

「司令、報告します、敵の攻撃パターンが判明しました、こちらが攻撃すると即座に迎撃してきます、また、同時攻撃には防御を優先されるというのがわかりました
私が考えますに、エヴァ2体による同時攻撃が有効だと考えます。
「囮となるものが攻撃して、使徒が防御している間にもう一體がさ

らに攻撃する、

攻撃するタイミングさえ間違えなければ、有効と考えます、如何でしょ」
「うん。

「マサの答えはどじつだ、赤木博士。」

「MAGHの計算によると、レイさんが出で、シンジ君が本命攻撃なら全会一致で70%の確率です
但し囮の方には盾をもたせる事で100%になります、逆ですと87%です、

全会一致で本部放棄です。」

「わかった、許可しよう。」

「総員準備！」

歩きながら話すロツカエサトセラ

「つけのポジトロンライフルじゃあの使徒には通用しないわよ、葛城作戦部長。」

「だから、考えがあるついで言つたでしょ、赤木技術部長。」

「まさかあれを使つの、そ、ロツ「開発の正宗、孫六」と、戦自研の
プロトタイプ。」

「開発はしたけど、まだ実践には使つてないわよ」サト。

「そこでお願いがあるんだけど、つかのポジトロンライフルの前に
孫六を銃剣の

ようにつけてほしにの、一の矢、一の矢を持たせたいの、囮にはかなりの負担が

来るから、シンジ君には正宗を持たせて、攻撃。」

「また、ずいぶん危険な賭けね、大丈夫なのミサト。」

「シンジ君とレイちゃんの息がどれだけそれつかにかかってるの。」

「お願いいリツ」。

「わかったわ、ミサト。」

「技術部に発破かけないといけないわね、ミサト。」

「ありがとう、リツ」。

「あなたとは大学時代からの腐れ縁だからね。」

「さて、戦自研に行きましょ。」

「リツ君もつ一つお願い、司令にて連絡しておいて許可が出るよう、お願い。」

「わかつたわ、時間がないのは同じだから、早くこいつらを出してやる。」

「あつがと、リツ」、愛じてる。

と、走り去つて「ミサトさん

「そんなことは昔から知ってるわよ、//サ。」

「やれやれ。」

「黄、リッシュさんと、・・・、やめておきましょう、倫理規定に引っかかるかもされませんから。」

戦自研にて

「戦自研で開発したポジトロンスナイパーライフルのプロトタイプ、ネルフ特別指令により
徴収します、できるだけ、原型をとどめでお返しします。」

「上よりの指令により了解しました、壊しても構いません、日本の
ために使うなら本望です。」

「あつがとうござります、友永技術一佐。」

「シンジ君~~~~~壊さないよついでに一撃に投ってね。」

「了解~~~~~す。」

「彼がエヴァのパイロットですか、いい少年ですね、葛城一尉。」

「ええ、私たちの希望の星です、友永一佐。」

「では、失礼します。」

「敬礼!。」

「敬礼！。」

「さみしい時代になつたものだ、あんな少年を頼らないといけない
なんて、大人として失格だな。」

さみしくつぶやく、友永一佐でした

決戦！第三東京市その1（後書き）

第五使徒戦の前半をお送りしました

では次のお話をお待ちください

決戦！第三東京市その2（前書き）

決戦！第三東京市の後半をお楽しみください

決戦！第三東京市その2

決戦！第三東京市

「シンジ君、レイちゃん、よく聞いてね。」

「はい。」「はい！」

「まず、盾を持つたレイちゃんがポジトロんライフルで攻撃、つづけ今まで銃剣でもう一度攻撃、いいわね、シンジ君はプロトタイプで攻撃、いいわね、シンジ君とレイちゃんの息が合わないと攻撃は失敗します、息を合わせて攻撃してください、以上質問は?、なければ解散。」

技術部のおかげで時間までに改造が終わりました、技術皆さんお疲れ様でした

あとはシンジ君たちの頑張りです

「ネルフの興廃、この一戦にあり、各人の一層の努力を期待する!...以上!。」

碇司令の訓示が終わりました

あとはシンジ君たちです

「レイ、怖くないかい。」

「シンジ君がいるから大丈夫。」

月明かりに照らされた二人の会話です

「時間が来た、行こう、レイ！」

「はい、シンジ君。」

「午前零時をお知らせしますピッピッピッポ~~~~ン」

「攻撃開始！」

ところが当初の作戦行動にはないことが起こりました。

「使徒、シンジ君に向けて攻撃を開始しました、まずい、シンジ君は盾を持っていません！」

プロトタイプのほうが攻撃力がある、と感知した使徒がシンジ君に向けて攻撃してきました。

（シンジ危ない、光鷹翼を展開するー。）

三枚の光鷹翼が展開しました

（シンジ、後を頼む、光鷹翼の維持に俺は神経を注ぐ。）

使徒の攻撃を防いだシンジ君

「レイ、！まだ！攻撃しろー。」

さつきの使徒の攻撃であせつていいレイちゃん、シンジ君の言葉で

我に返るレイちゃん。

「狙いを込めて、発射！」

零号機からの攻撃でフィールドを展開する使徒

「敵、フィールド展開、零号機の攻撃防御！」

「シンジ君、攻撃開始！。」

シンジ君の攻撃が開始されました。

「発射！」

シンジ君、必殺の光線砲が火を噴きました。

「敵を見事に貫きました、敵沈黙、攻撃成功です。」

どつと、ネルフ全体から歓声が上がります。

司令からの言葉

「シンジ、レイよくやった、ありがとう。」

「諸君！、今回は」苦労だった、ゆっくり休んでくれたまえ、以上

！」

そのころの二人はといつと、二人ともエントリープラグの中で気を失っていました。」

もちろんシンジ君の中の天地君も力を使いすぎたため、休眠状態に陥ってしまいました。

さつそく、ネルフ病院に一人そろつて入院しました

鷺羽ちゃん、ノイケたんせと二つと、のびてこました、・・・・・、

決戦！第三東京市その2（後書き）

決戦！第三東京市の後半をお送りしました
緊迫するシーンをお届けしましたが
どうだつたでしょうか

では次のお話をお待ちください

ジョン・トマス・ローリー（前書き）

ジエットアローン

第五使徒戦で無理しそうたため、入院となりましたシンジ君とレイちゃん。

入院もそんなに長くなく次の日に、退院です。

そして、数日が経ちました、

日本重化学工業共同体から招待状が来ました。

「なにに、ネルフ殿、この度、当日本重化学工業共同体が開発した、支援用戦闘機体
ジェットアローン^{△JA}が完成したのでお越し下さい。」

「へへそんな機械ができていたなんて知らなかつたわ。」

「リツ♪知つてた?」

「ええ、戦自研の友永一佐から情報が来てたわ、どんなのかは知らないけど。」

「それは興味があるわね、エヴァの支援ができるらしいけど。」

「詳しい話は、私も知らないわ、ミサト。」

「行つてみたら、わかるんじゃないの?ミサト。」

「同行者は、私にリツコ、シンジ君、レイちゃんの4人か。」

「気晴らしになるかもしないわね、あんな大きな戦闘があつたばかりだからね。」

「わづね、それがいいかもしねな」わミサト。」

「ヒガア持参となつてゐるわ、リツコ。」

「？？？よくわからないわね、何がしたいのかしら。」

とそんな会話しながら、歩いていきました

当日が来ました

「IJの度は、わが日本重化学工業共同体の、開発した支援戦闘機体ジユットアローンの完成披露パーティーにお越しくださいましてありがとうございます。」

「

「IJのたび何故この機体を開発したかといふと、先日の使徒戦で、エヴァ初号機、および零号機の戦闘を見し、何か支援できる」とはないかと考えた末の機体です。」

「IJの機体の特徴はエヴァ用の武器、ヒガアの搭載、電源設備等を搭載しており、いわば

空中空母をして開発しました、バリアー当は搭載しておつませんがそれに代わる、

電磁膜を搭載しております、先日の使徒が発しました光線を1分以上防ぐ性能を持っています。」

「海に出て空中にと作戦行動、及び作戦支援ができる機体となつております。」

「当ジノットアロンに搭載されてゐるエンジンは超電導エンジンで、作戦行動が150時間となつております、見かけは不格好な機体ではありますが、決して、期待に恥じないものに仕上げております。」

「武装ですが、実弾兵器を9門、レーザー砲3門、電磁砲1門となつております、これもエヴァ支援のためのもので、実際に使つてはいませんが、必ずや期待に添えるものと思つております。」

「わが日本重化学工業共同体を中心とし、戦自研、そして天才科学者の白眉鷲羽さんの協力により完成し、そして、マギの支援も受けております。」

（そんな面白こと、なぜ、教えてくれなかつたの、母さん、本当に）
「、、、、、、。」

「マジドがここにこります、マジドが。

（鷲羽ちゃんも嘔んでたのね、暗躍するの好きだな鷲羽ちゃん、鷲羽ちゃんのい、け、ず、）
リツ「さんが壊れました

「さて長々と語つましたが実際に運用したいと思います。」

「では、エヴァ初号機の碇シンジ君、エヴァ零号機の綾波レイさん、ようしく述べます。」

「同会は時田シロウでした。」

「説明は白眉鶯羽さんにお願いいたします。」

「鷺羽ちゃんで～～～～～～～す。」

「まずシンジ殿、レイちゃん、アンビリカルケーブルを接続してくれる、どんな感じかな。」

「すごいです力があふれてくる感じがします。」

「右に同じです。」

「シンジ殿、新開発のエヴァハンマーを壊れたビルにたたきつけて。

「鷺羽ちゃん一瞬でビルが粉々になりました、すごい威力です。」

「レイちゃん、これも新開発の二ードルマシンガンを同じく壊れたビルに発射して。」

「針がマシンガンに弾のように次々飛出して行きます、これもビルを破壊していきます

すごい威力です、鷲羽ちゃん。

「エヴァハンマーはシンジ殿専用、ニードルマシンガンはレイちゃん

ん専用です。」

「あとは改良型ログナイフ、改良型正宗ソード、改良型孫六エクスター／ミネーターソードこの三つはどのH'GUAも装備できます、あとは開発中です、期待してほしいね一人とも。」

「説明終わります鷲羽ちゃんでした。」

（鷲羽ちゃんはいつもこうと好きだからね、シンジ）
（僕もそう思います、兄さん）

「最後にネルフの皆さん、どうか日本を守ってください、私には武器しか開発できません、皆さんにお願いするしかありません、どうかよろしくお願ひいたします。」

涙を浮かべながら話す時田さんでした

そして皆さんから拍手が起りました、JEGIに参加してる戦自の高官、政府のお偉方

財界の面々の思いが拍手となつて起きました、もちろんネルフのみんなも拍手していました

ジョン・マローレン（後書き）

JAのお披露目でした、時田さんの想いの詰まった機体です、活躍してほしいものです

では次の会話をお待ちください

惣流・アスカ・ラングレー（前書き）

アスカちゃんのお話です

惣流・アスカ・ラングレー

そろそろドイツにいる少女について語りましょう

「私の名前は、惣流・アスカ・ラングレー、ドイツ人と日本人のクオーターです。」

「ネルフディッシュ支部所属のエヴァンゲリオン二号機パイロット、天才だ、秀才だともてはやされる美少女、頭のインター フュースヘッドセシットがお気に入り、ワンポイントかな、うふつ」

「プラグスーツは赤い色、あまり好きじゃない、どちらかといふと、蒼色がよかつた、だつて

日本にいる初号機パイロットの碇 シンジさんの色がよかつた、以前、日本総本部から

送られてきた資料とビデオを見て一目で好きになっちゃつた、かつこよかつた、白馬に乗つた

王子さまみたいだった、でも、この気持ちを表に出してはいけない、ネルフディッシュ支部じゃ

日本総本部を目の敵にしているから、私も仕方なく気丈にふるまわないといけない、疲れる。」

「私の『えらべて』いる私室はシンジさんでいっぱい、シンジさんの写真、シンジさんのプラグスーツのコピー、初号機のプラモモデル（自作）、どうしてこんなにシンジさんが好きなんだろう、もつ少ししたら

シンジさんにある、ただ横にいる綾波レイさんがちよつといやかな、恋人だとも聞いている。」

「同じ人を好きになつたのだから、きつと仲良くなれる、そして同じパイロットうん、きつとなかよく出来る。」

「三角関係、うふ、そばにいるだけでいいかな、今は。」

「早く会いたいな、早く。」

「今日は訓練日、氣丈にふるまわないと、疲れるけど仕方ないよね、終わつたらシンジさんの写真に癒されよ。」

「私は天才よ、あなたたちとは出来が違うのよ、（「めんなさい、ごめんなさい、と心の中で謝ります）、早くしなさいよ、愚図ね、（すみません、すみません）さつせとしなさい、あんたバカあ、（すみません、馬鹿じやないです）」

「というように、訓練をこなしていくます、私の心を知つていてるのは、頼れるお兄さんの加持リョウジさんだけです。」

「ふとした時に、本心を漏らしたのを聞かれていたようです、く私は何もできない女の子、訓練もつらいし、何よりネルフに勤める大人の人たちの日本嫌いと高いプライドが嫌」と声に出してないつもだつたのに出していたのを聞かれたみたい。」

「アスカ、そんなにつらかったのかい？」

「加持さん、わたし私、うわあああああああああああああああん。

L

「心の底からお泣き、アスカ。」

「つらかつた、悲しかつた、4分の1日本人というだけで、馬鹿にされて、悔しかつた、悲しかつた、加持さん。」

「なんとか、エヴァのパイロットを選ばれて、ママ褒めてもうおひりがひらめ。」
「してたら、ママせ、

「そうか、今日から俺が君の味方だ、同じ日本人だしね、差別の激しいドイツで一人で頑張ろう。」

「そういうて慰めてくれました、少し女性が好きな頬れるお兄さんです、うふつ。」

「加持さんは、恋愛感情より肉親に近い感じで接してくれます、それがありがたかった、気丈にふるまわないといけないときもあると思うけど、頑張ろう、アスカと笑ってくれた。」

「今は乙女チックな私ですが、小さいころはお転婆でしおつちゅうママに怒られていきました、私が変わったのは、そうある日本のアニメーションを見たときからですそれは、セーラー服の美少女が悪と戦うアニメーションでした、けなげに戦う姿は凜々しく、時にドジで、そして一途に恋人を守る姿感動しました、私も大きくなつたら主人公になりたいとママに言つて、ママを困らせたものです、でも実際の私は、ドジで

す何もできません、努力だけは人一倍に頑張りました、お料理もできません、裁縫も、ちっとも見た目は女らしくないでも、かわいいものは好きシンジさんが好き!、この気持ちは誰にも負けません。」

「加持さんは、優秀なエージェントでたまにしかこっちにいないけど、帰つてきたら、いつもお土産をくれます、それは、シンジさんグッズです私の宝物。」

「加持さんから最高の情報をいただきました、それは、シンジさんのいる日本に行けることが決まりました。」

「先日の第五使徒戦でピンチに陥つた時、二機構成では無理が出てきたから三機構成で行くことが決まり、急遽、私と二号機が派遣されることに決まりました、うれしかったです、シンジさんに会えることが憧れのシンジさんに、シンジさんにあつときは精いっぱいおしゃれしなくつちゃ、あと私室のシンジさんグッズは忘れずに持つていこう。」

所変わつてネルフ総本部では碇司令、冬円さん、シンジ君で話し合いがもたれました。

「先日の使徒戦はかなり危ない橋を渡つた、予想外の攻撃でシンジ、お前にも危険が迫つたな、シンジ。」

「確かに、あわやといつといふで天地兄さんのおかげで何とかなつた。」

碇司令はシンジ君の中の天地君の存在をシンジ君に聞いていました。

「うむ、天地君が咄嗟に張つた光鷹翼に助けられた、天地君に感謝だ、な、碇。」

「今日はレイとシンジで何とかできたが、これからは2人だけではつらい、ドイツの一号機を呼び寄せるより、死にぞこないどもに進言しよう。」

「それがいい、碇、二機と三機じゃ運用方法がかなり違つてくるだろう、シンジ君の負担も減るよ。」

「ドイツのパイロットの女の子に申し訳ないよ、父さん。」

「そうは言つが、レイにも負担が来るぞ、それでいいのか、シンジ。」

考え込むシンジ君、やがて、しぶしぶ返事をするシンジ君

「わかったよ、父さんその女の子とレイとぼくの三人で頑張るよ。」

「帰つていいで、シンジ、あとは大人の仕事だ。」

外でシンジ君を待つレイちゃん。

「遅い、シンジ君。」

「じめんじめん、話し合ひが長引いちゃつじめんねレイ。」

「レイに話があるんだ、ドイツから新しいパイロットが来るらしい。」

この前の使徒戦で、

危機感を持った父さんが決めたんだ、新しいパイロットとがんばろう。

「う。

新しいパイロットと聞いて危機感を持ったレイサーン、シンジ君の腕を今以上に強く握るレイちゃんでした

ゼーレに連絡を入れた碇司令は一号機と二号機パイロットの召喚を進言します

「なんだ、碇、急の連絡を」「元はあまり連絡するな」と言っておつただろ？、「碇。」

「申し訳ありません、キール議長、先日の使徒戦にて零号機、初号機の破損により、次の使徒が、
来た場合防衛する手段がありません、そこでドイツの二号機と二号機パイロットを召喚できればと
思い連絡させていただきました、先日の使徒戦の報告書はお送りし
たはずです、如何でしょうか
それにこれ以上計画を遅らせるわけには行けませんし、如何でしょ
うか？」

「うむ、読ませもらつた、甚大な被害をこうむつたようだな碇、
被害額も馬鹿にはならない
わかつた碇、修理金額と、二号機召喚は許可しよう、これ以上の計
画の遅延は避けなければならない、
言っておくぞ碇、新たな計画は認めない、それだけを覚えておけ、
以上だ、碇、ご苦労だった、では消えろー。」

「すべてゼーレの心のままに。」

そして明かりがつきました

「先生、議長が認めました、我々の計画も大きく飛躍するでしょう。」

「そうだな、碇、みんなのために頑張りや。」

碇司令と冬円副司令の2人で密談を始めました

惣流・アスカ・ラングレー（後書き）

アスカちゃんの近況と召喚のお話を
お送りしました

では次のお話をお待ちください

アスカ来日（前書き）

アスカが来日します

5万ACCESSありがとうございます
少しお遊びを入れてみました

アスカ来日

「ミッキー・トムキャット・サイフォン海軍大将に報告します、う
む、このたびの一号機と
わたくし、惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹の移送の無理なお願
いを聞いていただき、

誠にありがとうございます、これよりはわたくしもクルーの一員と
して御世話になります。」

「わたくしの」とはアスカとお呼びください、提督。」

「礼儀正しいその姿に感動した、私のことミッキーと呼んでくれ
たまえ、ミッキーと呼ばせるのは
身内か親しいものにしか呼ばせてはいけない、昔の愛称、突撃ミッキ
ーと呼ばれたものだ、F-14に乗つて
ベトナムで活躍したよ、今でこそ司令長官だと提督と呼ばれてい
るが、艦載機乗りだつたのだよ、昔はね
今でもたまに、専用のF-14トムキャットテイルマークはplay
boyに乗っている、今度のせてあげよう、期待していたまえ、私
は君が気に入つた。」

「アスカ君、艦長のシン・ゴニーハーン・アザマ中将だ紹介しよう、
私の戦友だ、シン挨拶しない。」

「俺がこの空母の艦長シン・ゴニローン・アザマだこのバカの戦友だ、シンとでもどうとでも呼んでくれ、ちなみに私も艦載機乗りだ、私の機体はF20タイガーシャークテイルマークはゴニローンだ、よくこのバカとつるんで飛んでいる。」

「バカとはなんだバカとは、シン。」

「演習だといっては飛び出すバカがどこにいる、止める俺の身にもなつてみる、この飛行機バカがあはははは」

「そういうな、シン、わはははは。」

「IJの艦隊は見ての通りアツトホームな雰囲気の艦隊だ、気楽にやつてくれ、そういうこの艦隊には結構面白い奴が乗ってるから、会つたら挨拶してやつてくれ、それとこの艦隊の通称名はエリアフフだ、言葉悪い言い方だと地獄の一丁目艦隊だとも言われてゐる、訓練が地獄のゴトく厳しいから言われてるがな。」

「ありがとうございます、ミッキー提督、シン艦長、では失礼します、敬礼。」

「面白い艦隊だわ、ミッキーさんにシンさん、変わった人たち、でもなじめるわ、2人とも素敵な男性だわシンジさんがいなかつたら好きになつてたかも、、、。」

「少し見学してみよう興味がわいたから。」

フライドデッキでは訓練をしていました・

「なにちんたらやつてるんだ、敵はすぐそこにあるんだ早くしろー。」

「つやかましいひげダルマ、こちとら精いっぱいやってるんだ、死んで來い、ひげダルマ！」

「トンキン湾の人食い虎を待たせるなんて、なんて阿呆な整備員だ。」

「

「お嬢ちやんどりてな、このあたしが飛ぶ所よくみてな。」

「僕のイチゴジャムビー、あねー、なめたね僕のイチゴジャム。」

「お子様は、イチゴジャムでもなめて寝てな。」

「僕も飛びます、僕のハリアーでシンさんみたく」

「私も出るーみなついてこい給料払えんがな。」

「すじい飛んでる戦闘機押しのけて無理やり飛んでいる、なんてすじいの、なんて無茶な飛行隊なの。」

後ろから来たシン艦長がアスカに声をかけました

「これが私たちの艦隊だ、驚いたるつ、戦場を駆け抜けて、それでまだ求める

軍人の性、逃れられない宿命さ、みんなそれがわかってるから、真剣に訓練する

守りたいものを守るために。」

「私も軍人の端くれです、守りたいものがあります、シン艦長、ミツキー提督のよう」

戦場を駆け抜けたことはありません、でも負けたくないす、お一人や今訓練してある方たちには、でも怖いです
怖くてたまりません、守れるのか、戦えるか？」

「私もミツキーもここに訓練している全艦隊の軍人たちも怖いや、逃げ出したいや、
でも許されない、死んでいった戦友、殺してきた人たちのためにも、
そして愛する家族のためにも
逃げない、逃げ出すことは許されない、アスカ君も肝に銘じておきたまえ私の言葉との艦隊のことを。」

「はいシンさん、忘れません。」

シン艦長とお話していた時突然の警報が鳴りました

「未確認物体水上をかなりはやい速度でこちらに進行中、繰り返す。」

「未確認物体水上をかなりはやい速度でこちらに進行中」

ミツキー提督が叫びます。

「第一種戦闘配備、敵は未確認生命体、各艦隊戦闘開始、各戦闘機隊発進！」

「ただちに攻撃せよ、ただちに攻撃せよ。」

「惣流・アスカ・ラングレーは一号機に迎え、ヘリは用意する。」

「君の戦場に迎え、そしてつ戦つて勝利してこい！」

「了解、惣流・アスカ・ラングレーーー号機に向かいます。」

OTRからアスカを乗せてヘリが飛びます格納船に。

格納戦に着いたアスカはプラグスーツに着替えエントリー・プラグに乗り込みます

「言語日本語に切り替え・エヴァンゲリオン発進します。」

「提督、命令をお願いします。」

「今わが艦隊が攻撃している、弱つたところを一号機で攻撃せよーー。」

「復唱、惣流・アスカ・ラングレーは敵未確認物体が弱つたところを攻撃します。」

「アスカ、行くわよ、私の戦場に、シンジさんとともに戦うために。」

「

「シン艦長よりエヴァンゲリオンに達する敵生体は口の中に弱点があると思われる、

口の中を攻撃せよ、そして大きく口を開けさせよ。」

「惣流・アスカ・ラングレー復唱します、敵生体の口に攻撃をし、
大きく口を開けさせます。」

そしてアスカは使徒の口にたどり着き口の周りを攻撃します

「これを開けさせないと、いけないんだわ、二号機頑張って。」

アスカは下口ビルを足で踏みしめ、上唇を両手で持ち、力の限り開けようとしています。

「全戦闘機及び全艦隊エヴァンゲリオンが開けた口にすべてのミサイルを撃ち込め！」

徐々に開いてくる使徒の口、そして大きく開け放たれました、二号機もろとも、使徒の口に全ミサイルが飛び込みました。

「全弾命中、敵生体爆発します。」

爆発の衝撃で運よくOTRの甲板に放りだされた二号機

中ではアスカが氣絶しています、「きゅうひゅひゅ」

「戦闘終了、第一種警戒配備に戻れ、繰り返す、第一種警戒配備に戻れ」

いつもの喧噪に戻るエリア77です。

「救護室に運ばれたアスカが、提督に文句を言います。」

「ひどいです、提督。」

「あはは、でもこれが戦場だ、味方がいても、攻撃をする、攻撃をしなければ

自分たちが殺される、わかつたな惣流・アスカ・ラングレー、ためらうな、ためらうと死が待つてはいる、戦場では何が起こるかもしれない、ためらうな、わかつたね、アスカ君」

「肝に銘じましてこれからもがんばります。」

「クスッこれが地獄の一丁目艦隊の戦闘だ、にこいつ。」

「ミッキー提督、シン艦長ありがと」やっこました。」

それからのアスカはほかの乗組員とともに、訓練やレクリエーションに参加し汗を共に流すのでした。

そして、一週間後横須賀港に到着しました

アスカ来日（後書き）

アスカが来日しました
OTRでに生活と使徒戦のお話でした
少しだけ、ゆうめいな、傭兵部隊の方達を出させてみました
では次のお話をお待ちください

横須賀港での事（前書き）

アスカちゃんの横須賀港での一コマです

横須賀港での事

到着したORTRは一号機を下す準備をしていました
すっかりORTRのクルーになりきったアスカちゃん、いのしきた
り道理、提督とか言わず

「ミシキーさん、シンさん。」とこつよつて前で呼ぶことになつ
ていました。しかし最後は
ちゃんと敬称を付けていました。

「ミシキー提督、シン艦長、」の一か月ビッグもありがとうござ
ました、この一ヶ月の航海で、
得た貴重な体験はわたくしの人生にとってかけがえのない貴重な体
験でした、この先に起こるであろう、
闘いの糧にさせていただきます。敬礼！」

「アスカ君、またORTRに来ることがあればいつでも歓迎しよう、
君の好きなシンジ君とやらと一緒になふふふ。」

「なつなぜそれを、。」真っ赤になるアスカちゃん。

「ふふ、一か月も一緒にいれば自然とわかるものや、ふふふ。」

「幼気な少女をからかうなミシキー、」のヤンキーが、かわいがる
のもほびほびにじる。「

「やかましいハーフジャパニーズ、てめえもアスカちゃんに恋人い
なかつたら息子の嫁になんてほざいて

いただらうが。」

とうとう一人で喧嘩を始めてしました、一人の後ろでクルーが
「ほしてます

くやれやれ、また喧嘩始めたよこの一人自分が氣に入つた人間が、
いるといつも喧嘩始めるんだよね、

確か前もそつだつたな、確か名前なんて言つたつけ、葛城、そういう
葛城ミサトだ、あのこもお氣に入りだつた。>

ためいきつべ、クルーでした

そうこうするうちにネルフから迎えが来ました

「ちわ～迎えに来ましたよ、～、～、～、ゲッ突撃ミッキーに冷酷シン、
～、～、やばい逃げよつ。」

「逃げるな、ミサト、ミサ。」

喧嘩してたはずの一人ですが、新たな獲物が来たことに気が付きま
した

「ミサトよく來た、私が忘れられないかつふふふつ。」

「ミサよく來たね、歓迎するよべべべ。」

「いやだ～だから來るのいやだつたんだ、こいつらこのわかつて
たからいやだつたんだ。」

「懐かしいね、またOTR名物ヘリバンジーやりたいかい、ふふふ、

くすくす。」

「なにがヘリバンジーじゃ、ヘルバンジーじゃないか、命綱なし救命胴衣だけで蹴りだされる何て、一度と食らいたくないわ~~~~~」

「初めまして、こんにちは、惣流・アスカ・ラングレーです、葛城作戦部長さん。」

「はじめまして惣流・アスカ・ラングレーさん、よろしくね。」

「気軽に、アスカと呼んでください。」

「あたしのことは、アサヒで呼んで。」

「はこ、アサヒさん。」

「ところで、アサヒさん、ヘリバンジーしたんですか?。」

「えつせうじんと、アスカさん。」

「はい、私も体験しましたよ、スリルがあつて楽しかった。」

「乐しかつたつて、あなた、怖くなかったの、ヘリバンジー。」

「ええつ、H-V-Aに乗つてると、そつこつ訓練をドライシでしていくしかり、へこへこじや怖くないんですよ。」

驚いてあごづりしてゐるアサヒさん。

「なんとか、訓練してゐる感じや、ネルフディッシュ支部も、・・・。

「

「名物食わしてやううとウキウキしてたら簡単にこなすんだよな、この子は。」

「泣くかと思つてたら、まだやつたこつと書いたなさすがの俺も!! ツキーも驚いたよ、

ミサとは大違ひだったなあははは。」

「だから、来るのいやだつたんだ、このへんおやじどもめが、悪党め、幼氣な新兵の時の私をいたぶりやがつて訓練だつづいて重装備で艦内全力マラソン、同じく重装備での艦橋までの綱のぼり数えればきりがないわ、ふ〜ふ〜ふ〜。」

「ヒヒじや当たり前だぞ、最後にはやつといつたじやないか、いまじや簡単こなせるだらう、ミサ そうそう悪い思い出ばかりじやなこだらう、ミサがやつとおしたとき、お前はORTのクルーになれたんだ。」

「わつやわうだなび、あつやひどいよ、今でも夢に狂へるよ、ミツキー、シン。」

(私も、ミツキーさんやシンさんを呼び捨てにできぬよつ頑張らないと、つぶつ)

「言つとくが、アスカちゃんも、やつたからな、ミサトがした」とを、「ミサトみたいに

泣き言は言わなかつたぞ、歯を食いしばつて、頑張つてこなしてた
ぞ、根性ある子だよ、この子は、
いまじや地獄の一丁目艦隊のアイドルだよ!!サトとためはるほどの
な、今でもお前はこの艦隊の
アイドルだよ、ミサト。」

「えつそうなの、アスカさん。」

「そんなわたしなんて、まだまだですよ、ミシキーさん。」

「謙遜するのがまたかわいいんだ、アスカちゃん。」

「積み下ろしも終わつたようだ、楽しかつたよ、ミサト、ミサ、ア
スカちゃん。」

とこり!!シキーさんとシンせんです

「はつ、惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹、退艦します、敬礼!。

」

「はつ、葛城ミサト特務三尉、退艦します、敬礼!。

」

「日本での活躍を期待する、アメリカ海軍太平洋艦隊旗艦オーバーザ
キー・トムキヤット・サイフォン大将より
惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹へ、敬礼!。」

「同じく活躍を期待する、アメリカ海軍太平洋艦隊旗艦オーバーザ
レインボウ艦長、シン・コニコーン・アザマ中将より
惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹へ、敬礼!。」

「//シキーやん、シンやん、艦隊の皆やんお元氣で、//ハハ」

「がんばれよ~~~~~」と手を振るクルーの皆さん

「うすら涙を浮かべるアスカちゃんでした

「がんばれよ~~~~~」と手を振るクルーの皆さん

「元氣でね、//シキー、シン、またまつてお酒、今度きたら飲みま
しょう、またね。」

「楽しみにしてるよ、//サト、//サ」

「うしてオーラから抜つてこられました、アスカちゃんとい//サトさん
でした

横須賀港での事（後書き）

横須賀港での出来事と
ミサトさんとアスカちゃんの出来事、ミサトさんの過去が少し
出てきました

では次の話をお待ちください

アスカ告白（前書き）

アスカちゃん着任のおこさつです

アスカ告白

横須賀から移送された二号機はネルフ本部、整備課に渡されました着任のあいさつをするために、司令室に案内されたアスカちゃん

「本日、ヒトマルマルナルフ総本部に着任いたしました、惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹であります
どうかよろしくお願いいたします。」

「惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹、着任のあいさつご苦労、私がネルフ総本部、総司令の碇ゲンドウだ、こちらにいるのは、副司令の冬月コウゾウさんだ。」

「冬月です、ここは副司令をやっています、惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹、長旅ご苦労だったね、着任早々のあいさつご苦労様。」

「どちらにいるのが、技術部長の赤木リツコ技術三佐だ、エヴァの装備等の開発をしている、何かと相談すればいい。」

「こんにちは、惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹さん、これはと いう装備があれば、できる限り開発します、よろしくね。」

「どちらにいるのが、君を迎えて行った、作戦部長の葛城ミサト一尉だから直属の上司になる、公私とともに世話になる人だよろしくしたまえ。」

「挨拶はもうしたからいいね。」

「幹部の紹介はこれで終わりだ。」

「次は君の同僚になる人物の紹介だ。」

「そこにいるのが、エヴァンゲリオン零号機パイロットの、綾波レイ特務軍曹だ。」

「綾波レイです、惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹さんこれからもよろしくね。」

「次が私の息子で、エヴァンゲリオン初号機パイロットの碇シンジ特務軍曹だ、仲よくやつてくれ」

「碇シンジです、惣流・アスカ・ラングレー特務軍曹さん、これらはともに三人で頑張ろう。」

「皆様これからはよろしくお願ひいたします、皆様、これからは、私のことはアスカと呼んでください、早く慣れたいと思いますから。」

(アスカ勇気を出すのよ)

「碇シンジさん、私はあなたのことが好きです。」

（よめきが起ります）

「あなたをドイツで見たときから好きになってしまった、付き合ってくださいとは申しません、ですが気に留めておいてください。」

「綾波レイさん、あなたがシンジさんを好きなのは、承知しております、ですが、この気持ちに嘘はつきたくない、ですから、シンジさんが振り向いてくれるまで待ちます。」

驚いているレイちゃん

「ありがとうございます、アスカさん、素直な気持ち私もよくわかります、私もシンジ君が好きです、この気持ちに嘘偽りがありません、ですから、今日からあなたはライバルであり、同じ好きな人を守る同志となります、ですから私はアスカさんをアスカと呼び捨てにします、いいですねアスカ。」

「私も同じくシンジさんを守りたいと誓います、ライバルそして同志になります、私もレイさんを呼び捨てにします
レイ、これからもよろしくお願ひいたします。」

「ちよつと、ちよつと、待ってよ、僕の意見は聞かないの？無視するの？」

「これは女同志の会話です」「ハハハハニ」「ハニシキ」は黙つていて
ぐだぐだ。」

「正統」。

落ち込むシンジ君

「とほほほほ」

後ろで外野がささやいています

「やのわねシンちゃん、両手に花ね。」

「無様ね、シンジ君」

「うの井でねじこねがてたんなぬのか」「ハハハ。

「長生きはするもんだ、孫が抱けるなんて」

本当に勝手なことを言う方達です

「よし決めた、今日から、アスカ君、レイ、シンジ、同居を許可する。」

「ちょっと待つてよ父さん、行き成り同居なんて早いよ、先生も何とか言ってください。」

「シンジ君、私も碇の案に賛成だ、あきらめたまえ、シンジ君。」

「葛城君、そういうのとだから今日からシンジを引越しゃせぬ、拒否は認めない。」

「同居先は葛城君の隣、いまレイが住んでいるところだ。」

同居を解消せが、給料はアップせが、これで文句はあるま

「やつそんなん~~~給^ジが増えてや~~~~シンドヤンの料理

が、 、 、 、 、 と咲世・

黄麻のシンジ君と//カトさんでした

力なく//カトさんに出でたシンジ君

「//カトさん、 料理は今まで道理、 作りますから、 、 、 、 、 、 、 。

「シンちゃん~~~~~ん。」

「給与が増えたんですから//カトさん材料代だけくださいね。」

「シンちゃんのいけや~~~~~ん。」

「うわ~~~~~ん。」

リジコさん、「おお無様ね、 //カト。」

最後のリジコさんの一言がきつこです

アスカ告白（後書き）

着任のおこやつと
シンジ君への告白レイちゃんへのライバル宣言
この恋の行方波乱が待ち受けてるのは間違いないと思つのは
作者の思い込みでしょうか

では次のお話をお待ください

『司令室での出来事、前篇（前書き）

『司令室での出来事です

司令室での出来事、前篇

引っ越しも決まり、ウキウキの一人と対象的に落ち込むシンジ君（決まつてしまつた物はしじうがないぞ、おれの時はもっとひどかつたぞ）

アスカさんとリョウコの喧嘩だったからな（兄さんに比べればましか）

（そうだ、二人とも、お前のこと好きと表明してるんだから。）

（わかりました、兄さん、前向きに行きます、アスカさんはきれいな子ですし）

と一人で会話していました

指令室では雰囲気が先ほどの甘い物ではなく緊迫したものになりました、それはアスカちゃんとは別便できた加持さんのもたらした物が原因でした

「司令、副司令、これが例の物です、正真正銘の、アダムの幼生固定されたものです、

これが、最初の使徒、アダム、盗み出すのに苦労しましたよ、司令、副司令」

「碇、またよからぬ事を考えてはいまいな、今度は、お前シンジ君とヒューバのコイ君に殺されるぞ。」

「冗談ではありませんよ、一人に殺されたくないですよ、やつと親子の仲直り出来たんですから、先生。」

「ならしい、碇。」

「ちゅうと、お待ち。」

「それをちょっと見せてくれるかい、司令殿。」

鷺羽ちやん登場

「おかしな波動があるから来てみれば、そういうことだつたかい」

皿のキーボードをあやつり、アダムを精査する鷺羽ちやん

「ふむ、これは偽物だよ、精巧作られた偽物、たぶん本物はゼーレ
で厳重に隠されていいるというよりも

レイ殿のように人間化している恐れがあるよ、レイ殿を見ればわかつ
る、司令殿、レイ殿は初号機のそばにいたといったね、以前。」

「ああ、私が初号機の前にたたずんでいると、いつの間にかレイが
そこにいた、皆に話した通り。」

「同じように二号機の前に現れたはずだよ、アダムはね。」

「リリス由来の零号機のレイ殿、アダム由来の一号機のアダムの少
年、辻褄が合つはずだよ。」

「国生みの物語を考えればわかるはずだよ、イザナギ男性神、イザナミ女性神、そして、塩の海をかき混ぜた棒。」

「すなわち、アダム男性神、リリス女性神、かき混ぜた棒。ロングメス」

驚愕に陥るみんな

「アダムの少年はゼーレが、リリスの少女がネルフ、そしてロンギヌスもこちらが握っている。」

「だが、そんなに心配しなくていい、すでに、向こうの思惑は外れているからね、シンジ殿さ。」

「なぜシンジが関係してるんだ。」

「考えてみればいい、シンジ殿には天地殿がいる、そしてこの鷲羽ちゃんがいる、もう計画が発動するはずがない。」

「こちらのリリスとロンギヌスは私が改造してる、キーとなるのが天地殿、天地殿が望まない限り、こちらのアイテムは動かない」

「すなわちシンジ殿がこちらにいる限り計画は破たんしてゐるといふことや、そしてレイ殿も同じ理由や。」

「いかな、むこうにアダムがあるといえそつそつ向ひの思ひよつにはいかない、しかし、懸念材料があるのも事実だよ。」

「ゼロチルドレン、といえばわかるかな。」

驚嘆するゲンディウ

「葛城君か」

「 そ、う、ミサト殿、南極での実験で最初にアダムとシンクロしたミサト殿、懸念材料はこれさ。」

「ミサト殿の動きで変わってしまう可能性がある、今まで道理といかなじよ、特にミサト殿は。」

「ヤレ」で加持殿、あんたの出番だよ。」

「おっおれ、おれに何をしろとこうんだい、」

「加持殿は、以前ミサト殿と恋仲だつたね。」

「確かに、葛城とは大学時代、恋人関係にあった、しかし、おままで」との延長みたいなものだよ。」

昔のことを思い出す加持さん

「加持殿にはミサト殿ともう一度恋人になつてほしい、早い話が、落としてしまえとこいつ」とや。」

「今でも、ミサト殿がわすれられないんだが、加持殿、女遍歴も其処が原因だからね。」

真っ赤になつて口もむる加持さん

「あとほミサト殿だけぞ、つまくへ口説かないど、デカンだよ。」

「いいかい、加持殿、シンジ殿のよう」誠実にミサト殿と付き合つなさい、男のプライドなんか捨ててしまつて
真剣に口説き落としなさい、これが今のあんたに課せられた義務だよ、いいね加持殿。」

「どんな手をつかつても、どんなことをしてもミサト殿を守りなさ

い、これが最後のチャンスだよ、加持殿

真面目な顔の加持さん

「わかりました、今度は葛城を守つて見せます。」

「よひしー、加持殿。」

同令室での出来事、前篇（後書き）

ミサトさんと加持さんのお話でした

では次のお話をお待ちください

司令室での出来事、後編（前書き）

後編が始まります

司令室での出来事、後編

「おっと、もう一つの懸念材料があるのを忘れていたよ。」

「アダムの少年はいざれここに送り込まれるだろ、これからキーパーソンはその少年の動きにかかっている。」

「その少年の動き方で計画が発動する危険が生じる、シンジ殿、レイ殿、そして今日来た、アスカ殿の進展状況が力ギになる。」

「シンジ殿、レイ殿は問題ないがアスカ殿だよ、幸にして、アスカ殿もシンジ殿に恋してる、しかしその恋が破れると、アダムの少年に付け入らせる隙が生じる恐れがある、だから、この三人の中をもつと深くさせる三人が深くなればなるほど、アダムの少年に付け入らせる隙を『えないと』になる。」

「アダムの少年とシンジ殿の接触も注意しておいた方がいい。」

「それに付随することだけ、コイ殿とナオコ殿を顕現させよ。」

「コイが戻つてくれる。」

「コイ君が戻つてくれる。」

嬉しそうにしている司令と副司令、ナオコさんはことは聞こりません、コイさんが復活することだけ聞いて

「三人の中を深めるためにはゲンドウ殿とコイ殿、リツコ殿、ナオ

「殿が仲良くなつとすると、四人の仲が田満であれば三人も、もつと仲良くなつとするだらう。」

「ここのかい、ゲンドウ殿、リシコ殿に精いっぱいの謝罪をしなければいけないよ、哥イ殿がゆるせまだなど、リシコ殿を正式に妻とする

それがゲンドウ殿がリシコ殿に与えた傷を償つ」となる。・・・
司令室の端末から行き成り声が出て鷺羽ちやんの言葉を遮りました
「ちよつと待つてよ、私への謝罪はどうなるの、私は殺されたのよ
そここのゲンドウさん、あなたが死んでしまつたの、レイちゃんも育
てあげたの」と。

「どうしてくれるのよ、答えてよ、ゲンドウさん、答えないで、ゲ
ンドウ、私をまた捨てるの、こたえてよ~~~~~」
「。

と、マギのナホ口さんが激昂します

「どうするんだ、ゲンドウ。」

行き成りのナホ口さんの言ひつけたえて答えることができなくて司令
そして、マギを通して初歩機の哥イさんが発言します

「あなた。」

「哥イ。」

「シンジやレイちゃん、アスカちゃんに免じてあなたを許します、
やつぱりあなたは私がいないと何にもできない人なのだから。」

「ありがとうコイ。」

「ちゃんと、私、リシコちゃん、ナオコを平等に愛してくださいね、鬼の顔になるコイさんへ、い、い、で、す、ね、あ、な、た、。」

「ナオコと浮氣してたの昔から知つてましたよナオコ。」

「あらばれてたのね、コイ。」

気軽にそつ答えるナオコさん

青い顔を通り抜けて蒼白になるゲンドウ氏

「それと、顕現したらの割殺しますから覚悟しておいてくださいね、あ、な、た、にこつ」

「おいゲンドウの割殺しつてなんだ?」

「コイが究極に怒った時にされるお仕置き、精神的に追い詰め、肉体的に追い詰め、もう自殺しかないと思つぽど恐ろしいお仕置きだ。」

「

「一度だけコイに内緒で買い物をしたとき、請求書の額をコイが見たとき発動した……。」

「どんな買い物をしたんだ、ゲンドウ?」

「ナオコ君に指輪を10億で買ってやった、コイには1億のネックレスを買った、またま店がナオコ君の請求書を間違えてコイのと

を両方をコイに渡した時発覚した。」

10億の請求書を見たコイちゃん、自分とナオちゃんの値段の差をみたコイさんが怒るのも無理はないと思ひながら、9割殺しもやむ不得ないと納得しました。

「話はそれだけど、4人が仲良くなることこそが肝心だよ、いいね、ナオコ殿、コイ殿。」

リシコさんを呼びました

「リシコ君、今までの数々の君への狼藉許してくれとは言わない、リシコナイフがある、君の思つよつとしてくれ。」

「今更そんなこと言われてても、私はどうすればいいの、どうすれば、いつの間にかいつの間にかいつの間にかいつの間にかいつの間にか。」

ナオコさんがないリシコさんに話をします

「つちちゃん、以前、あなたにゲンドウちゃんと別れなさいといつたわよね、でもあなたはゲンドウちゃんと切れていなかつたわよね、どうして、レイプまがいに体を奪われて、それから関係を持つて、赤ちゃんもいるわね、かわいい男の子を、私の母に預けて、だからなのそな、リシコ。」

「答えて、リシコ」

「やうよ、ゲンドウちゃんを愛してるので、今も、でもゲンドウちゃんにはコイさんがいた、コイさんが憎かつた、コイさんに似てて、レインジが憎かつた、でもシンジ君

やノイを見てこそ考へが変わったのよ、今更なぜやさない」とを囁つ
の、今更なぜひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひ・」

「つつかせもひ泣かなくともここわ、コイが許してくれたのよ、
あなたのことを、私のことをコイがね・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・

「コシコシやん、ゆっここのよもへ、黙このまの麒麟やリコヒ
ゲンダウをいらっしゃるコトセコハなのだから、あとで〇一二二〇
K-H しておへかり
仲良しくおじまつりコシコシやん、私とナホコとコシコシやんで、ね、
リコシコシやん。」

「わかつましたコトセコ、一ひだにコトセコの許しを願いたいの。

「

コシコシの言葉を理解するコトセコ

「愚ニヒヤツヒサセコナセコ。」

「おつりがとへ、コトセコ。」

「ヒルヒル~~~~~立てー。ゲンダウー。歯あくへこしづれ~~~~~
~~~~~。」

「私の思こー。おばあちやん所にこるゲンタロウの分、私のおなかの  
中にこるまだ見ぬわが子の分、その体のこもこもこしつせてやるー。」

コシコシの思こが詰めた右ストレート、左フック、そして、右

のアッパー・カットが決まりました。

憐れゲンジウ司令室の端までふつとばされて、氣絶してしまいました

「見事なトリプルパンチだった、、がくつ。」

「氣が済みました、改めてコイさん、母さん、これからもよろしく  
お願いします。」

「めでたしめでたしだねみんな。」

「しかし厳しい戦いはこれからも続くよ氣を引き締めてね、みんな  
！。」

「リツコ殿、ユイ殿とナオコ殿を顕現させる準備と実行の手伝い頼  
んだよ。」

「了解、鷺羽さん。」

『司令室』での騒動のお話でした。

同令室での出来事、後編（後書き）

後編をおおくつしました

コイさんとナオコが顕現が決定しました

では次のお話を待ち伏せ下さい

## カレー（前書き）

引っ越しのお話です

## カレー

大人たちが大変なお話をしているとき子供たちはといつと、家でプチ引っ越しをしていました

もともとそんなにたくさんの荷物があるわけではないシンジ君は簡単ですしレイちゃんもそんなに荷物はありません、問題はアスカちゃんです衣装とかはそれなりにありますか、問題はドイツで集めていたシンジ君グッズです

「アスカさん荷物はここでいいのですか？」

「あつはい、それはそこに置いておいてください、中身は衣装だけが入っていますから。」

「これはどこに置くんですか、？」

「これは本などが入っているので机の上に置いておいてください。」

「これはまだここ……」

「そつそれはいいですあとで私が片付けますから」

「結構重そうですか……。」

「いいですから……。」

と、押し問答になつてこましたそつにしこるつが、机の上に、中身をぶ

ちまけられてしまいました

「イヒーこれは、ぱっぽくの写真やプラグスース・・・・・・・・」

自分の部屋を片づけていたレイちゃんは、アスカちゃんの部屋で物音がしたので覗きにきました。足元にシンジ君の笑顔を写した写真があつたので手に取つてみました。写真を握りしめて、アスカちゃんのそばに来て、何も言わずにアスカちゃんを抱きしめています。

「アスカ、こんなにシンジ君を好きだったのね、会つたことないのに。」

「レイ、うん、会いたくて、会いたくて、狂おしいほど会いたかった、やつと会えた。」

2人とも抱き合つて泣き始めました、シンジ君は何も言わずに一人の様子を見ていました。

暫くそうしていた2人にシンジ君がつぶやきました

「アスカさん、そんなに僕を好きになつてあつがとう、うれしいです、こんな僕を好きになつてくれて。」

「レイありがとう、好きになつてくれて。」

「二人ともありがとう」

「僕も、もつと二人に好きになつてもうひとつ頑張るから。」

「そして、これからも三人で頑張り、使徒戦だけじゃなく僕たち

「これから起るであろうすべての鬪いに、三人で乗り越えて行く。」

「はい。」「はい。」

きずなが深まる三人です

「まだ片付けが残ってるから頑張って終わらそう。」

「セツノエバのプラグスースって本物?」

「私のプラグスースを改造して色を塗りなおして、シンジさんのプラグスースを模して作ったの。」

恥ずかしそうに答えるアスカちゃん

「そつそつなんだ、今度リシリさんにお願いして僕の予備のプラグスース2つもひいてあげるよ、レイとアスカさん用に。」

「レイもほしいでしょ。」

「ありがとう、シンジ君。」「ありがとう、シンジさん。」

レイちゃんとアスカちゃんはあれほどに飾るとか、これはビートの飾るとか、二人で話し合いながら片づけてきました、シンジ君もどこに片付けるか聞きながら時間が過ぎていきました

そして夕食の時間が迫っていました

「買い物に行こうと思つたが、こくかい、一人。」

「行きます、行きますよ、『シンジ君』、『シンジさん』」

「何が食べたい? アスカさん、レイ。」

「わたしは何でもいいです、シンジさん、シンジさんが作ってくれる物なら。」

「私もアスカと同意見よ、シンジ君。」

「何にしようか、そうだカレーにしよう、チキンカレーにしよう、これなら食べられるでしょ、レイもアスカさんも。」

「それでいいですシンジさん。」「それでいい、シンジ君。」

「大量に作りなくちや、じうせ、ミサトさんの分も作るし。」

スーパーに行つて楽しく買い物をすること一人でした  
シンジ君がカレー作る間、二人はまた片付けを再開していました。

「やうだ、ミサトさんやコシ君たちにも声をかけよう。」

「ふるるるるる、ミサトさん、今日はチキンカレーですからコシ君さんたちは声をかけておいてください、お願ひします。」

「ふるるるる、あ、シンジちゃんどうしたの、今日はカレーだからコシ君に声をかけて、わかった、声をかけておくわね。」

内線でコシ君やさんに連絡するミサトさん

「あつこっ！」シンジ君から玄関で今日カレーするみたいだから、声かけてくれって言つてたから、伝えたわよ・・ふつ。」

「びつしたのよ!!サト、ふんふんシンジ君の作ったカレー食べに来ていいで、了解、つていつ前に切つけやつた、ゲンダウさんにお教えてあげましょ。」

「司令。」

「びつしたのがいりっ！」

「ちゅうどこです、副司令もこりびつしゃつたのでまとめてお玄関します。」

「シンジ君が、カレーを作つたそつです、一緒に行きましたか？。」

「シンジ君の料理か、おいしここひつわさがあるが、びつする碇？」

「もちろん、問題ない、いくに決まつてこるだよ。」

「君たちの時間と合わせて向かつてしよう、ここな、碇。」

「ああ、問題ない。」

「お前はそれしか言えないのか、碇。」

「問題ない。」

シンジ君の料理が食べられる」としか頭にない碇司令です

時間を合わせてシンジ君宅に向かう4人

「シンジの料理はそんなにうまいか?。」

「はい、司令、五つ星レストランが開けますよ、今でも。」

「やうか、そんなにうまいか、シンジ君は。」

「やうね、シンジ君の料理はお金がもったるぐらくなっています、ゲンゴトさん。」

と四人で話ししながらシンジ君宅に着きました

「シンちゃん、着たわよ、サプライズゲストと一緒にね。」

「父さん、先生、リックさん。」

驚くシンジ君

「シンジ君お邪魔するよ。」「お邪魔します、シンジ君。」「邪魔をする、シンジ。」

「来ててくれて、ありがと、みんな。」

「ああ上がつて、みんな。」

「つむ。」

「僕の作ったカレー食べて。」

次々盛られて各人にわたるカレーライスの皿

「 「 「 「 「 頂きます」」」」」」

一口食べた各人はとくに

「「「「「うつうまい。」「おいしい。」「デリシャス。」「死んでもいい。」「おいしい。」

各人がうなりをあげます、そして猛然と食べ始めます

「「「「「御代わり」」」」」

先を争つてお代わりを申し出ています

たくさんあつたカレーも残らないほど売れ行きでした

「シンジ、おまえ今すぐレストラン開け、資金は俺が出すから。」

「碇まだ早すぎる、シンジ君はまだ中学生だぞ、年齢を考えろ。」

「そうです、司令、シンちゃんにはまだ早すぎます（シンちゃんの料理は私のもの）。」

ミサトさんはよからぬことを考えています

「司令、使徒のことはどうするのですか、まさか・・・。」

「違うぞリツ君決してそのようなことは考えていない。」

「ならいいですがミサトみたいにはならないで下せよ、司令。」

「なによソシコ、私がどうしたっていいのよ。」

「あなたの事だからシンジ君の料理独り占めしたいと考えていたのでしょ。」

「ばれてたつ・・がくつ」「あなたの考える」とはおみとおしょ、ミサト。」

のちに語られる、シンジ君レストラン開業しろ事件の顛末でした。

何のことかわからず、ぽかんと大人たちのやり取りを聞いているシンジ君、レイちゃん、アスカちゃんの三人でした。

そろそろ帰る時間が来ました

「シンジまた食させてくれ。」「美味しかったよ、シンジ君」「私も教えてね、シンジ君。」

「うん！今度みんなにお弁当作って持つていくよ。」

弁当と聞いて涎を垂らす情けない大人たち

「　　き、た、い、し、て、る、」

「氣を付けて帰つてねみんな。」

それぞれシンジの「これからを考えて帰宅してしまった、約一畳を  
残して

## カレー（後書き）

アスカちゃんの引っ越しの片付けと  
シンジ君のカレーのお話でした

では次のお話を待ちください

## ダンスパーティー（前書き）

第七使徒戦です華麗な踊りを踊ります

## ダンスパーティー

第七使徒襲来の報を受けるネルフ本部、緊迫した雰囲気が司令部をおそいます。

まずは護衛艦からの攻撃をしますが、フィールドに阻まれて攻撃が効きません。

水際作戦に切り替えることにしました、ジェットアローンに搭載されたエヴァ3機が到着しました。

ジェットアローン内に臨時作戦本部が設けられ、ミサトさん、リツコさん、鷺羽ちゃん、そしてパイロットの3人が敵使途について作戦会議を行っています

「第三使徒が近距離型、第四使徒が中距離型、第五使徒が遠距離砲撃型、第七使徒が高速水中型となつております、次に予想される使徒は分裂型が予想されます。」

「マギに計算させてもそのような答えが返されています。」

「全機攻撃は避けたいわね、三機とも損害を受けると次に響くね、何かいい案ないかね、何かいい案ないかな、ミサト殿。」

「コアをたたき切つても分裂されるとやっかいよね、危険でもエヴァア单機の偵察しかないかな。」

「エヴァア单機となると、実験経験の多い、シンジ君、シンジ君なら応用が利くか・・・・・。」

「反対です、シンジ君、さん」こいつも無理ばかりさせて申し訳ないです。」

「とにかく、一機出すのはあたしも反対よ、レイ、アスカ。」

「やつぱり僕が出るよ、一人には待機してほしい、もし僕が倒れたらお願ひするから。」

「シンジ君、さん。」

「決定ね、シンジ君、おねがいね。」

「はー、//サテ二佐。」

「危なくなつたら、UAに積まれているZ2爆雷で攻撃するから避けてね。」

「了解。」

初号機が発進します。

(シンジ、とりあえず一太刀浴びせてみよ)

(はー、兄さん)

正宗ソードで切りかかるシンジ君

「えいやああああああああああああああ。」

見事使徒を切り裂きました、やはり予想通り分裂しました

孫六ソードももち「一刀流で分裂した使徒を切り裂きました

今度は何と分裂した使徒がまた元の一體に戻りました

何度切りつけても、分裂、合体を繰り返し、こちらをあざ笑うよつに挑発さえしてくる始末、しまいにはシンジ君も切れて、めちゃくちゃな攻撃を

(おちつけ、シンジ、落ち着くんだ)

シンジ君が攻撃し終わつた隙を狙つて、使徒が攻撃してきました、光線砲で攻撃し、鞭で初号機の足に巻きつき海に投げ込んでいきました。

初号機の中で気絶してしまいました、

「作戦失敗、N2爆雷投下」

使徒の大部分を焼失しました

「使徒の大部分が焼失！どうしますか葛城三佐。」

「初号機回収、ネルフ本部に撤退。」

「ネルフ本部に撤退してきたみんな、シンジ君はつ緊急入院しました  
「病院より連絡シンジ君の回復に10日かかります。技術部から連絡。初号機修理完了までこれも10日かかります。」

「使徒が動けるまで10日と判断されました。」

「今度ばかりはシンジ君には頼れません、のこった2人が頑張るしかありません。」

「どうするのミサト。」

「今度ばかりはいい案が浮かばない、何かいい案ない?リツ」

「あるにはあるけど、加持君の発案よ、どうするのミサト・  
加持といふ名前を聞いて少し喜んだミサトさん

「しつしうがないつわね加持の発案じや、採用しますか仕方なし  
よ、し、か、た、な、し、よ。

(んまあ、てれちやつてかわいいんだから、ミサト)

「シンジ君、さん、は大丈夫ですか?ミサトさん・」

「作戦には出られないけど、大丈夫よそんなに心配しないの二人とも。」

「作戦を伝えます、敵使徒の攻撃方法は一機による荷重同時攻撃しかりません、明日の朝からレイ、アスカあなたたちの生活リズムを

すべて合わせてもらいます、なぜなら、使徒は一方を攻撃すると、すぐさま攻撃したほうにエネルギーを補給します、そのすきを「え

一機による同時攻撃をかければ殲滅できるからです。」

「貴方たちはシンジ君を好きという点でお互いの事を考えられるからできると思います、朝から行うすべての行動が攻撃に有効なの、そして同時攻撃に必要な訓練として

クラシックダンスをしてもらいます、これはお互いの息が合わないと華麗に踊れません息を合わせると見事なダンスになります。」

「いいですかレイ、アスカ」

「はい、了解。」

その晩の事です

「アスカ、あなたに私の正体を話します、私はリリスと初号機により生み出された存在です、いわば、使徒のあいの子です、でも私は人間です、人間なんです

でもシンジ君は信じてくれました、人間であることを認めてくださいました、シンジ君によつて人間になれたのです、でもアスカが嫌なら私は人形に戻ります

「なかないで、レイ、私は弱い人間です弱い私の過去を聞いてくれますか、私のママは一号機に取り込まれてしましました、シンジさんのママのようだに、肉体は残りましたが精神は

二号機に取り込まれてしましました、抜け殻状態です、私の顔を見ても私がだれかわかりません、何とか私に気付いてもらおうとお勉強に訓練を頑張りました、

でも気づいてくれません、努力だ足りないんだと思いもつと頑張りました、そして数年後、何とかエヴァのパイロットに選ばれたので、ママに知らせに行きました

でもママは首をつって無くなりました、悲しかった、死んでしまいたいほど悲しかった、つその時、ネルフ総本部にシンジさんが現れ、使徒を倒したその資料や

映像を見たとき私の心はシンジさんにとらわれてしまいました、一眼ぼれです、レイと同じように人間になれたんだと思います、私もレイも人間です、

貴方も私も同じシンジさんを愛しているんです、今度はシンジさんに私たちの活躍を見てもらいましょう、レイ。

陰で見ていた鷺羽ちゃん、ミサトさんはその様子に満足をして静かに去っていました、

鷺羽ちゃんは思いました（じゅらい星の船穂殿、みさき殿を見ているみたい、彼女たちもいろいろありましたが姉妹のようになつて、そしてここにも姉妹がいると）

姉妹のように仲がいい喧嘩もしたことがない姉妹の誕生しました、のちにエルフの三姉妹（のちに洞木ヒカリが加入）と呼ばれることになりました。

翌朝からすべての行動が一致するレイちゃん、アスカちゃん、歯を磨くタイミング、トイレのタイミング、食事、お風呂、そしてダンスの練習と

「鏡を見ているようだ」とミサトさんが唸る位完ぺきに一致していました

そして10日後、再使徒戦です、華麗に攻撃、華麗に防御ダンスを見ているみたいに華麗でした、シンジ君が見て「レイとアスカさんが実際に踊つてるみたい」とほめていました

そしてフィニッシュ、見事と2機による同時攻撃が決まり使徒を殲滅しました。

シンジ君のけがが治り、3人でのダンスパーティーをしました

たどたどしいシンジ君のリードでしたが見事3人で踊り切りました

## ダンスパーティー（後書き）

レイちゃんにアスカちゃんの過去を話します  
二人の結束がますます深まりました

では次のお話を待ちください

## 浅間山での事（前書き）

浅間山での使徒との戦闘です

シンジ君の学校では修学旅行に行くことが決まりました。作者の時は秋に行きましたが、こちらでは夏、といつてもいつも夏ですが沖縄に行くことになりました。、、「うらやましい」、、「でもシンジ君たちはいません、使徒の襲来も懸念されるため空港にお見送りに行つてきました

お友達のみんなは沖縄みやげかつてくるといって、旅立つていきました、いけない代わりにネルフ関連施設のプールを借り切つてみんなで涼んでいました

「レイ水泳うまいね、インターハイ出られるかもね。」

「シンジ君は泳がないの、？」

「うんトライアウスマガつて泳げないんだ。」

「うー」

「うん、小さことときおぼれたことがあって、それから、プールはだめなんだ、お風呂や温泉はいいんだけど、プールだけはダメ。」

「やうなシンジさん、君。」

「気にしないでいいよ、2人とも。」

「やへきやへ言いながら遊んでいる3人です

ひとしきり遊んだあと少し勉強します、アスカちゃんは漢字のお

勉強です、話すことはドイツで勉強していますが、読む」とと書いて  
ことができません

日本語の漢字は難しいから、作者もそう思います。

「どれがわからないんだ？」

「これなんですか？」の文字へ熱膨張へ。」

「ねつせつがよつて、ところなんだよ。」

「あ～温めたら大きくなるところ、それがこの漢字ですか、納得しました。」

その口は楽しくお勉強やプールをたのしました。

そして第八使徒が浅間山河口深くに発見されました

「浅間山に持ち込まれた検査機器が使徒の卵のようなものを発見、どうしますか、葛城三佐。」

「次から次へと手をかえ品かえよく来るわね、今度は火山の中、ほとんどよく来るわね。」

「中に入つて殲滅、できるわけないか、外から釣り上げる、釣り、そつだ釣りよ釣り。」

「例のあれあつたわよね、あれ本部に問い合わせて。」

「浅間山の葛城三佐より連絡です、司令、あれはあるか?」のことです。」

「あああれね、用意したまえリツ！」

「全部でしょうか副司令。」

「いや、一部分でいいだろ、もつ使い道ないしな、鷲羽ちゃんの実験に使うんだろ。」

「エヴァと供に運びたまえ。」

「了解です。」

用意されたあれとともにエヴァ二機が浅間山山頂に待機しました

「アスカ、アレをこのケースに入れて。」

「了解です、ミサトさん。」

「で、ケースに耐熱ケーブルを付けて落とす」

「引っかかって引き上げたところを、三機で攻撃。」

「作戦開始！ フィッティング作戦！」

「ケーブルをおとして、アスカ。」

「はい」

「あたりが来たら、三機で引っ張り上げて。」

暫くは何事もなく時間だけが過ぎていきました

動きがありました

「ヒットー。」

「引っ越し上げて力いっぱい。」

徐々に吊り上げられていく使徒、火口近くまで来たとき激しく暴れ始めました

「アスカ、ここは僕がひっぱりあげるから、使徒に向けて液体窒素吹きかけるんだ。」

「レイ、頑張ろつ。」

「はい、シンジ君。」

といいつつ吊り上げられてしまつた使徒

「いまだアスカ！」

「はい、シンジさん！」

液体窒素を吹きかけられた使徒は、高温の体が急激に冷やされて体がぼろぼろになり、爆発して火山の中に落ちていきました。

「作戦修了！おつかれ～シンジ君、レイ、アスカ、お疲れ様、温泉予約してるから行きましょう、汗で汚れてるでしょっから。」

「はい、はい、はい。」

三人が返事しました。

「シンジさん、さつきアスカって、呼び捨てにしましたね。」

「じめんアスカさん、気がせいていたから。」

「うれしかったです、これからはアスカって呼び捨てにしてください。」

「へつ、あつアスカ、」

「聞こえませんよ、シンジさん。」

「アスカ。」

「はい、これからもそう呼んでくださいね、シンジさん。」

「あははは、はい。」

そして温泉にて、思わず珍客が待っていました。

「お疲れ様、いい温泉だよ！」  
「くわああああああ、くわあ  
あくお疲れ様みんな♪

加持さんとベンベンがいました

「かつかじ~~~~~びつして加持がここにこんのよ。」

「

「はははまあいいじゃないか葛城。」

「まく丸め込まれてしまつミサトさん

「あの一人昔恋人だつたつてまくいかないかな、ミサトさんも幸せになつてほし」

「はい、そう思こますシンジさん。」「うん、シンジ君。」

「やこの三人勝手な」と言わない。」

赤くなりながら怒鳴るミサトさん、いつも迫力があります

「温泉に行くよー！レイ！、アスカ！」

先に行つてしまつたミサトさんかわいいですね

「俺たちも、行こうかシンジ君、ベンベン。」

「はい、加持さん。」「へわああああああ～」解説。

女湯では、ミサトの胸の傷を見て驚くレイちゃんとアスカちゃん

「ミサトさん、その傷はどうしたのですか？。」

「アスカちやんがミサトさんに聞きます。」

「うん？」の傷ね、昔の初恋の時に着いた傷よ、甘い傷跡よ。」

それ以上は語らないミサトさん

「それより、シンジちゃんと仲どうなつてるのよ、ハラハラ。」

「のっノーハメントです。」「命令ですか？ 答えません。」

あははははははとにぎやかに女湯ではもりあがります

さて男湯では静かに温泉を楽しんでいます。

「シンジ君、大変だらう一人の彼女もいたら？」

「ダメですよ、ミサトさんに言いつけますよ、加持さん。」

「あはは、じりや一本とられた、ははは。」

「君たちが苦労を背をわせせて、なきない大人だよ、おれたちは。」

「

「加持さん、僕たちは、苦労とは思ってませんよ、それよりもこれから生きていくことの方が大変な戦いですよ、加持さん。」

「シンジ君、君は本当に中学生か。」

「ええ、僕たちはまだ子供です、加持さんや父さんや先生のお世話にならないと生きていけない子供です。」

「シンジ君、君つひやつは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

「頼ってくれ、サポートは大人の仕事だシンジ君。」

「はい、加持さん、これからもよろしくお願ひします。」

それそれが楽しみながら温泉や旅館の料理を楽しんでござりました。

そして深夜、シンジ君たちが休んだのを確認した後、加持さんとミサトさんは散歩に出ました

「葛城、俺たちは何と罪深い存在なんだろ? な、温泉でシンジ君と話したんだがシンジ君たち少年、少女に済すことのできない傷を負わせながら闘いを強いている、シンジ君と話してやう思つたよ。」

「加持私もそり思つ、シンちゃんたちには償つことができない痛みを『』えてるね、ほんと罪深いね。」

「俺たちでできる」とは、俺たちでやつて、そこには葛城に協力してほしい。」

赤くなりながら加持さんが告白します

「葛城、いや、ミサト俺とけつ結婚してくれ、8年前言えなかつたことだ、葛城ミサトさん私と結婚してくれ。」

行き成りの告白に赤くなりながらも返事をするミサトさんは

「加持……冗談でしょ……本気なの、リョウジ……はい、加持リョウウジさんの申し出をお受けします。」

陰で見ていたシンジ君、レイちゃん、アスカちゃん、赤くなりながら見ていきました、そして出ていき、祝福します

「おめでとうござります、加持さん、ミサトさん。」

「ミサトさん、加持のお兄さん、おめでとうござります。」

「葛城三佐、加持さんおめでとうござります。」

「「「お幸せに加持さん、ミサトさん」」」と三人ではあります

「「「ビ」から聞いていた。」「ビ」から聞いていたの。」

「さあ～～～～～～～～～～～～」、三人は逃げていきました

あとには、赤くなつた二人を、月が優しく一人を照らすだけでした  
そして加持がプロポーズしてミサトさんが返事したことは、その日  
のうちにネルフ本部に響き渡りました。

## 浅間山での事（後書き）

浅間山での戦闘と  
加持さんのプロポーズのお話でした

では次のお話を待ちへださー

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9742z/>

新世紀エヴァンゲリオン 天地君の受難

2012年1月13日22時47分発行